

基本計画 重点プログラム 市民アンケート報告書

平成 24 年（2012 年）9 月

横 須 賀 市

はじめに

横須賀市では、平成 10 年に策定した横須賀市総合計画にもとづき、「国際海の手文化都市」を目指したまちづくりを進めています。

平成 23 年 4 月からは、市の基本的な政策・施策の体系、政策の目標などを示した、新たな基本計画、実施計画が同時にスタートしました。

この基本計画では、計画期間中に、特に重点的・優先的に実行する取り組みとして、持続可能な発展に必要な都市力の向上を目的とした「重点プログラム」を位置付けています。

今回、昨年度に引き続き、重点プログラムの目的、各プログラムが実現を目指す都市の姿、その取り組みの方向性に対する市民の皆さまの実感を伺うアンケート調査を実施しました。

(15 歳以上の 2,000 の方が対象)

調査で得られた結果は、重点政策・施策評価や政策展開を検討する上での基礎資料として、十分に活用してまいります。

本調査にご協力いただきました皆さまには、厚くお礼申し上げます。

平成 24 年（2012 年）9 月

横須賀市都市政策研究所

報告書の見方

1. 基本計画重点プログラム市民アンケートでは、各重点プログラムが実現を目指す都市の姿、その都市の姿を実現するための取り組みの方向性について、以下のとおり設問し、実感を尋ねている。(P100 アンケート調査票参照)

(1) 現在について

重点プログラムが実現を目指す都市の姿、取り組みの方向性で掲げる状態にあるか

⇒「①思う」「② やや思う」「③どちらともいえない」「④ あまり思わない」

「⑤思わない」の5段階と、「⑥わからない」を設定

(2) 以前との比較

重点プログラムが実現を目指す都市の姿、取り組みの方向性に向かって

⇒「①よくなっている」「②どちらかというよくなっている」「③変わっていない」

「④どちらかという悪くなっている」「⑤悪くなっている」の5段階と、

「⑥わからない」を設定

2. アンケートの設問に対する回答者の傾向を観察するため、DI（ディフュージョンインデックス 景気動向指数／拡散指数）の考え方を利用している。

プラスの回答ポイント - マイナスの回答ポイント = DI として記述している。

DI とは、「良い／悪い」「上昇／下落」といった定性的な指標を数値化して得られた指数をいう。マイナス 100 からプラス 100 の間を取る。

3. 集計結果では、「⑥わからない」と「無回答」を除いて、回答割合を算出している。回答率（%）は、小数点以下第2位を四捨五入したため、合計が100%とならない場合がある。

・現在について 「①思う」 + 「② やや思う」

・以前との比較 「①よくなっている」 + 「②どちらかというよくなっている」

⇒プラスの回答ポイント

・現在について 「④ あまり思わない」 + 「⑤思わない」

・以前との比較 「④どちらかという悪くなっている」 + 「⑤悪くなっている」

⇒マイナスの回答ポイント

・DI がプラス … アンケート回答者の実感が、良好・改善の傾向にある

・DI がマイナス … アンケート回答者の実感が、停滞・後退の傾向にある

4. 調査結果では、各項目の平成 24 年度と 23 年度の DI を比較し、その数値の変化について、以下の基準で記述している。

- ・ 3 ポイント未満の差 「変化なし」
- ・ 3～5 ポイント未満の差 「大きな変化なし」
- ・ 5～10 ポイント未満の差 「上昇」「低下」
- ・ 10 ポイント以上の差 「大幅に上昇」「大幅に低下」

目 次

I. 調査目的および実施方法等	1
II. 集計結果 ー重点プログラムが実現を目指す都市の姿と取り組みの方向性の状況ー	5
1 各重点プログラムが目指す都市の姿の状況	5
2 「重点プログラムの取り組みの方向性別」の状況 (プログラム1・2・3)	7
3 「重点プログラムの取り組みの方向性別」の状況 (プログラム4・5)	9
4 重点プログラム 取り組みの方向性別優先度	11
5 重点プログラム 取り組みの方向性 (優先して取り組むべき政策×現在の実感)	13
III. 集計結果 ープログラム別の状況ー	15
重点プログラム1 「新しい芽を育む」 ～子どもを産み育てやすいまちづくり・人間性豊かな子どもの育成～	
1 プログラム1 「新しい芽を育む」の傾向	15
2 取り組みの方向性の傾向 (全体)	16
3 取り組みの方向性の傾向 (年齢別)	17
4 回答理由分類	21
重点プログラム2 「命を守る」 ～誰もが活躍できるまちづくり・安全で安心なまちづくり～	
1 プログラム2 「命を守る」の傾向	27
2 取り組みの方向性の傾向 (全体)	28
3 取り組みの方向性の傾向 (2-1年齢別/2-2地域別)	29
4 回答理由分類	33
重点プログラム3 「環境を守る」 ～人と自然が共生するまちづくり・地球環境に貢献するまちづくり～	
1 プログラム3 「環境を守る」の傾向	39
2 取り組みの方向性の傾向 (全体)	40
3 取り組みの方向性の傾向 (3-1地域別/3-2年齢別)	41
4 回答理由分類	45

重点プログラム4 「にぎわいを生む」

～地域経済の活性化と雇用の創出・集客や定住を促す魅力的な都市環境づくり～

- 1 プログラム4 「にぎわいを生む」の傾向 …………… 51
- 2 取り組みの方向性の傾向（全体） …………… 52
- 3 取り組みの方向性の傾向（4－1 職業別／4－2 年齢別） …………… 53
- 4 回答理由分類 …………… 57

重点プログラム5 「地域力を育む」

～地域と住民の主体性が発揮できる仕組みづくり・地域を支えるコミュニティー機能の強化～

- 1 プログラム5 「地域力を育む」の傾向 …………… 63
- 2 取り組みの方向性の傾向（全体） …………… 64
- 3 取り組みの方向性の傾向（5－1 地域別／5－2 年齢別） …………… 65
- 4 回答理由分類 …………… 69

IV. 持続可能な発展を遂げる都市力（都市の魅力）について…………… 75

V. 持続可能な発展を遂げる都市力（都市の魅力）

- －優先して取り組むべき政策について－ …………… 83

VI. 横須賀市の魅力やイメージについて …………… 89

- 1 横須賀市の魅力について…………… 89
- 2 横須賀市への愛着について…………… 92
- 3 横須賀市のイメージについて…………… 94

基本的な属性（F1～F5） …………… 97

調査票 …………… 100

I 調査目的および実施方法等

1 調査目的

- (1) 横須賀市基本計画（2011～2021）に掲げた重点プログラムの目的である「持続可能な発展に必要な都市力（都市の魅力）」の向上や、各プログラムが実現を目指す都市の姿、取り組みの方向性について、市民の実感を把握し、今後の政策・施策の改善に活用する。
- (2) 重点プログラムを効果的に推進するため、プログラムを構成する事業を検証し、今後の方向性を検討する重点政策・施策評価に活用する。

2 調査項目

問 1～15

「各重点プログラムが実現を目指す都市の姿」「都市の姿を実現するための取り組みの方向性」について

問 16

「持続可能な発展を遂げる都市力（都市の魅力）」について

問 17

「優先して取り組むべき政策」について

問 18

「横須賀市の魅力」について

問 19

「横須賀市への愛着」について

問 20

「横須賀市のイメージ」について（現在の都市イメージ・望ましい都市イメージ）

<基本的な属性>

F 1 性別 / F 2 年齢 / F 3 居住地域 / F 4 職業 / F 5 世帯の状況

3 調査項目と重点プログラムの対応関係

アンケートの調査項目のうち、問1～問15は、各重点プログラムが実現を目指す都市の姿、それを実現するための取り組みの方向性に対応した設問である。

また、問16は、重点プログラムの目的である「持続可能な発展を遂げる都市力（都市の魅力）」についての設問で、いずれも、**市民の実感**を尋ねる内容となっている。

図表 I 調査項目と基本計画重点プログラムの対応関係

重点プログラム		対応する設問	取り組みの方向性		対応する設問
1	新しい芽を育む	問3	1-1	子どもを産み育てやすいまちづくり	問1
			1-2	人間性豊かな子どもの育成	問2
2	命を守る	問6	2-1	誰もが活躍できるまちづくり	問4
			2-2	安全で安心なまちづくり	問5
3	環境を守る	問9	3-1	人と自然が共生するまちづくり	問7
			3-2	地球環境に貢献するまちづくり	問8
4	にぎわいを生む	問12	4-1	地域経済の活性化と雇用の創出	問10
			4-2	集客や定住を促す魅力的な都市環境づくり	問11
5	地域力を育む	問15	5-1	地域住民の主体性が発揮される枠組みづくり	問13
			5-2	地域を支えるコミュニティ機能の強化	問14

4 調査対象および回収数

調査対象：横須賀市に在住の15歳以上の市民 2,000人

(平成24年4月1日現在；住民基本台帳から無作為抽出)

回収数	回収率	昨年度比
791件	39.6%	2ポイント増

5 実施方法

郵送による発送及び回収

アンケートの実施に際しては、昨年度の調査同様、基本計画に掲げた重点プログラムの内容や目標、達成に向けた取り組みへの理解を促すための参考資料を同封した。

【昨年度の調査との変更点】

(1) 設問の変更

*プログラム2「命を守る」 2-1 誰もが活躍できるまちづくり

問4 (アンケート調査票P114参照)

昨年度の調査結果において、当該プログラムにおける「活躍」の主旨が回答者に正しく伝わっていない傾向がみられたことから、設問中に「年齢、性別、障害の有無等にかかわらず」の文言を補足して記載した。

昨年度：横須賀市は、「誰もが活躍できるまち」だと思いますか。

今年度：横須賀市は、年齢、性別、障害の有無等にかかわらず、「誰もが活躍できるまち」だと思いますか。

(2) 参考資料の変更

本調査の実施にあたっては、アンケート調査票と併せて、重点プログラムの概要を記載した参考資料を送付している。

昨年度の調査では、重点プロジェクトの目標やその動向（目標値、実績値等）を参考資料に記載したが、その数値が回答の判断に影響を与えている記述が多くうかがえたことから、重点プロジェクトの目標の実績値は記載しないこととした。

このことから、今年度の調査ではより市民の実感に近いデータを把握できている半面、昨年度の調査結果との数値の変動等に影響していることがある。

6 実施時期

平成24年（2012年）4月24日～5月20日 * 発送日－投函締切日

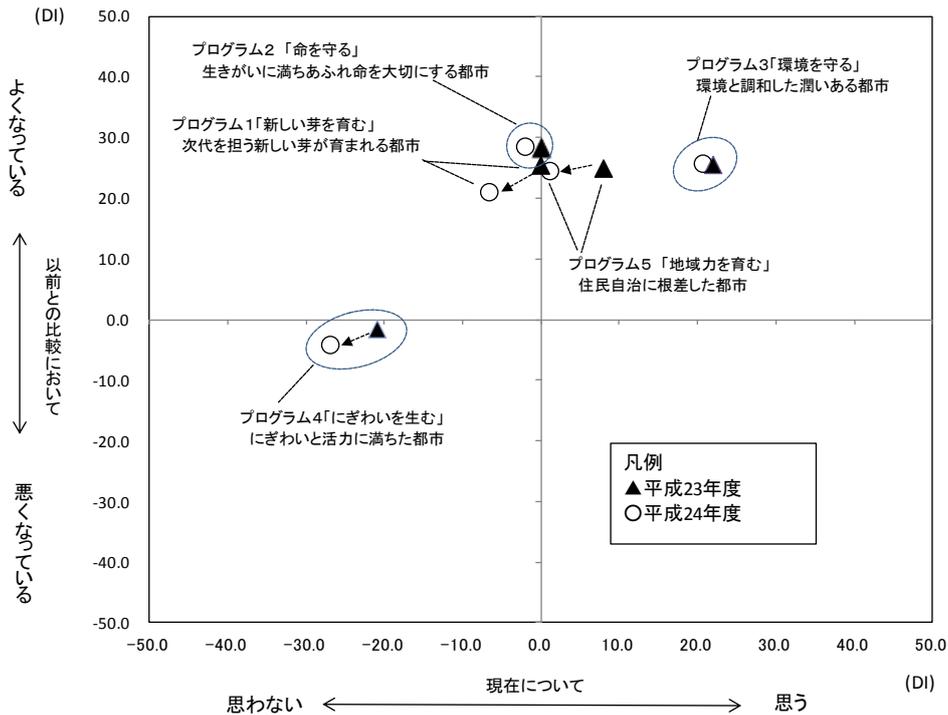
7 調査の企画・分析

横須賀市都市政策研究所で実施

Ⅱ 集計結果 - 重点プログラムが実現を目指す都市の姿と取り組みの方向性の状況 -

1 各重点プログラムが実現を目指す都市の姿の状況

図表Ⅱ-1 重点プログラムが実現を目指す都市の姿の状況 (H24-23 年度比較)



【現在について】

各プログラムが実現を目指す都市の姿	調査年度	件数(人)	①思う+②やや思う ③どちらともいえない ④あまり思わない ⑤思わない				(ポイント)	
			(a)	(b)	(a)-(b)	前年度比		
プログラム1 次代を担う新しい芽が育まれる都市	24年度	600	31.0	31.3	37.7	▲ 6.7	▲ 6.6	
	23年度	591	34.9	30.1	35.0	▲ 0.1		
プログラム2 生きがいに満ちあふれ命を大切にす都市	24年度	640	31.0	35.9	33.1	▲ 2.1	▲ 2.0	
	23年度	631	33.0	33.9	33.1	▲ 0.1		
プログラム3 環境と調和した潤いのある都市	24年度	663	46.9	26.8	26.3	20.6	▲ 1.3	
	23年度	655	48.2	25.5	26.3	21.9		
プログラム4 にぎわいと活力に満ちた都市	24年度	716	24.4	24.2	51.4	▲ 27.0	▲ 6.0	
	23年度	705	27.1	24.8	48.1	▲ 21.0		
プログラム5 住民自治に根差した都市	24年度	602	34.5	32.1	33.4	1.1	▲ 6.8	
	23年度	586	39.6	28.7	31.7	7.9		

【以前との比較】

各プログラムが実現を目指す都市の姿	調査年度	件数(人)	①よくなっている+ ②どちらかという よくなっている ③変わっていない ④どちらかという 悪くなっている+ ⑤悪くなっている				(ポイント)	
			(a)	(b)	(a)-(b)	前年度比		
プログラム1 次代を担う新しい芽が育まれる都市	24年度	474	35.4	50.2	14.3	21.1	▲ 4.4	
	23年度	491	37.3	50.9	11.8	25.5		
プログラム2 生きがいに満ちあふれ命を大切にす都市	24年度	524	38.3	51.9	9.7	28.6	0.1	
	23年度	543	39.2	50.1	10.7	28.5		
プログラム3 環境と調和した潤いのある都市	24年度	558	40.3	45.2	14.5	25.8	0.2	
	23年度	572	41.2	43.2	15.6	25.6		
プログラム4 にぎわいと活力に満ちた都市	24年度	635	29.3	37.3	33.4	▲ 4.1	▲ 2.6	
	23年度	629	27.6	43.2	29.1	▲ 1.5		
プログラム5 住民自治に根差した都市	24年度	512	34.4	55.7	9.9	24.5	▲ 0.5	
	23年度	503	35.4	54.3	10.4	25.0		

【調査結果のポイント】

- ・各プログラムが実現を目指す都市の姿で、「現在について」「以前との比較」ともにDIがプラス（実感が得られている状況）を示しているのは、プログラム3「環境と調和した潤いのある都市」で、前年度と同様の結果となった。
- ・一方、「現在について」「以前との比較」ともにDIがマイナス（実感が得られていない）を示しているのは、プログラム4「にぎわいと活かに満ちた都市」で、「現在について」では前年度からさらに低下した。
- ・また、「プログラム1」「プログラム5」の「現在について」で、低下傾向がみられる。

【DIの状況 平成24年度-23年度比較】

プログラム1 「次代を担う新しい芽が育まれる都市」

- ▶ 「現在について」DIは、(前年度 ▲0.1→) ▲6.7 (前年度差 ▲6.6ポイント)で、低下
- ▶ 「以前との比較」DIは、(前年度 25.5→) 21.1 (前年度差 ▲4.4ポイント)で、大きな変化なし

プログラム2 「生きがいに満ちあふれ命を大切にす都市」

- ▶ 「現在について」DIは、(前年度 ▲0.1→) ▲2.1 (前年度差 ▲2.0ポイント)で、変化なし
- ▶ 「以前との比較」DIは、(前年度 28.5→) 28.6 (前年度差 0.1ポイント)で、変化なし

プログラム3 「環境と調和した潤いある都市」

- ▶ 「現在について」DIは、(前年度 21.9→) 20.6 (前年度差 ▲1.3ポイント)で、変化なし
- ▶ 「以前との比較」DIは、(前年度 25.6→) 25.8 (前年度差 0.2ポイント)で、変化なし

プログラム4 「にぎわいと活かに満ちた都市」

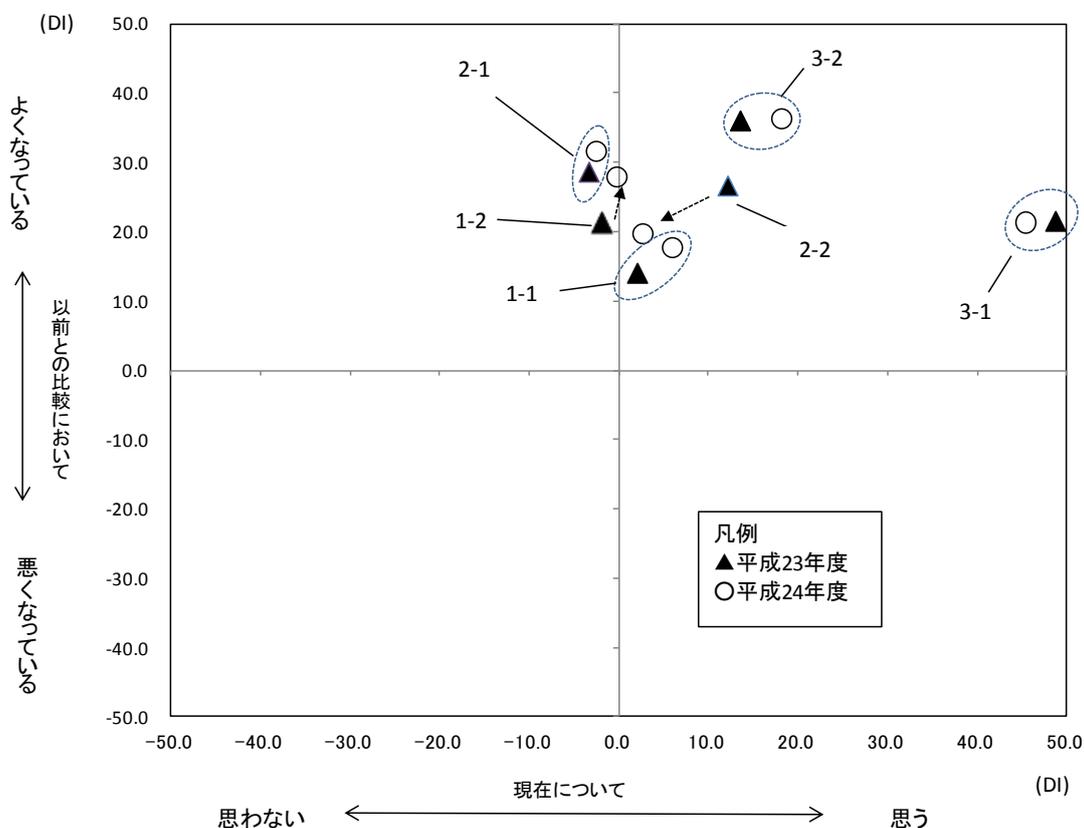
- ▶ 「現在について」DIは、(前年度 ▲21.0→) ▲27.0 (前年度差 ▲6.0ポイント)で、低下
- ▶ 「以前との比較」DIは、(前年度 ▲1.5→) ▲4.1 (前年度差 ▲2.6ポイント)で、変化なし

プログラム5 「住民自治に根差した都市」

- ▶ 「現在について」DIは、(前年度 7.9→) 1.1 (前年度差 ▲6.8ポイント)で、低下
- ▶ 「以前との比較」DIは、(前年度 25.0→) 24.5 (前年度差 ▲0.5ポイント)で、変化なし

2 「重点プログラムの取り組みの方向性別」の状況（プログラム1・2・3）

図表Ⅱ-2 重点プログラム1・2・3の取り組みの方向性の状況（H24-23年度比較）



【現在について】

各プログラムの取り組みの方向性	調査年度	件数(人)	(ポイント)				DI (a)-(b)	前年度比
			①思う+②やや思う (a)	③どちらともいえない	④あまり思わない+ ⑤思わない (b)			
(1-1) 子どもを産み育てやすいまちづくり	24年度	589	39.9	26.1	34.0	5.9	3.9	
	23年度	597	38.2	25.6	36.2	2.0		
(1-2) 人間性豊かな子どもの育成	24年度	554	34.5	30.7	34.8	▲ 0.3	1.6	
	23年度	555	31.4	35.3	33.3	▲ 1.9		
(2-1) 誰もが活躍できるまちづくり	24年度	640	34.7	28.0	37.3	▲ 2.6	0.8	
	23年度	651	35.5	25.7	38.9	▲ 3.4		
(2-2) 安全で安心なまちづくり	24年度	728	39.8	22.9	37.2	2.6	▲ 9.5	
	23年度	711	44.8	22.5	32.7	12.1		
(3-1) 人と自然が共生するまちづくり	24年度	727	66.0	13.3	20.6	45.4	▲ 3.3	
	23年度	716	68.2	12.3	19.5	48.7		
(3-2) 地球環境に貢献するまちづくり	24年度	650	45.7	26.8	27.6	18.1	4.6	
	23年度	666	43.4	26.7	29.9	13.5		

【以前との比較】

各プログラムの取り組みの方向性	調査年度	件数(人)	(ポイント)				DI (a)-(b)	前年度比
			①よくなっている+ ②どちらかという よくなっている (a)	③変わっていない	④どちらかという 悪くなっている+ ⑤悪くなっている (b)			
(1-1) 子どもを産み育てやすいまちづくり	24年度	497	37.7	42.5	19.9	17.8	3.7	
	23年度	524	37.6	38.9	23.5	14.1		
(1-2) 人間性豊かな子どもの育成	24年度	444	40.1	47.7	12.1	28.0	6.5	
	23年度	476	35.3	50.8	13.8	21.5		
(2-1) 誰もが活躍できるまちづくり	24年度	529	40.5	50.7	8.8	31.7	3.0	
	23年度	557	39.8	49.0	11.1	28.7		
(2-2) 安全で安心なまちづくり	24年度	638	38.0	43.9	18.2	19.8	▲ 6.9	
	23年度	645	41.0	44.7	14.3	26.7		
(3-1) 人と自然が共生するまちづくり	24年度	631	43.3	34.7	22.0	21.3	▲ 0.3	
	23年度	641	44.1	33.4	22.5	21.6		
(3-2) 地球環境に貢献するまちづくり	24年度	553	44.7	47.0	8.3	36.4	0.3	
	23年度	584	46.2	43.7	10.1	36.1		

【調査結果のポイント】

- ・プログラム 1～3の取り組みの方向性のうち、「現在について」「以前との比較」とともにDIがプラスになっているのは4つで、特に「3-1 人と自然が共生するまちづくり」「3-2 地球環境に貢献するまちづくり」は、良好な状況を維持している。
- ・「2-2 安全で安心なまちづくり」は、「現在について」「以前との比較」とともにDIはプラスだが、前年度より低下した。
- ・上記以外は、全体的に前年度と大きな変化がみられない結果となった。

【DI の状況 平成 24 年度-23 年度比較】

1-1 子どもを産み育てやすいまちづくり

- ▶ 「現在について」DIは、(前年度 2.0→) 5.9 (前年度差 3.9 ポイント)で、大きな変化なし
- ▶ 「以前との比較」DIは、(前年度 14.1→) 17.8 (前年度差 3.7 ポイント)で、大きな変化なし

1-2 人間性豊かな子どもの育成

- ▶ 「現在について」DIは、(前年度 ▲0.1→) ▲0.3 (前年度差 ▲0.2 ポイント)で、変化なし
- ▶ 「以前との比較」DIは、(前年度 21.5→) 28.0 (前年度差 6.5 ポイント)で、上昇

2-1 誰もが活躍できるまちづくり

- ▶ 「現在について」DIは、(前年度 ▲3.4→) ▲2.6 (前年度差 0.8 ポイント)で、変化なし
- ▶ 「以前との比較」DIは、(前年度 28.7→) 31.7 (前年度差 3.0 ポイント)で、大きな変化なし

2-2 安全で安心なまちづくり

- ▶ 「現在について」DIは、(前年度 12.1→) 2.6 (前年度差 ▲9.5 ポイント)で、低下
- ▶ 「以前との比較」DIは、(前年度 26.7→) 19.8 (前年度差 ▲6.9 ポイント)で、低下

3-1 誰もが活躍できるまちづくり

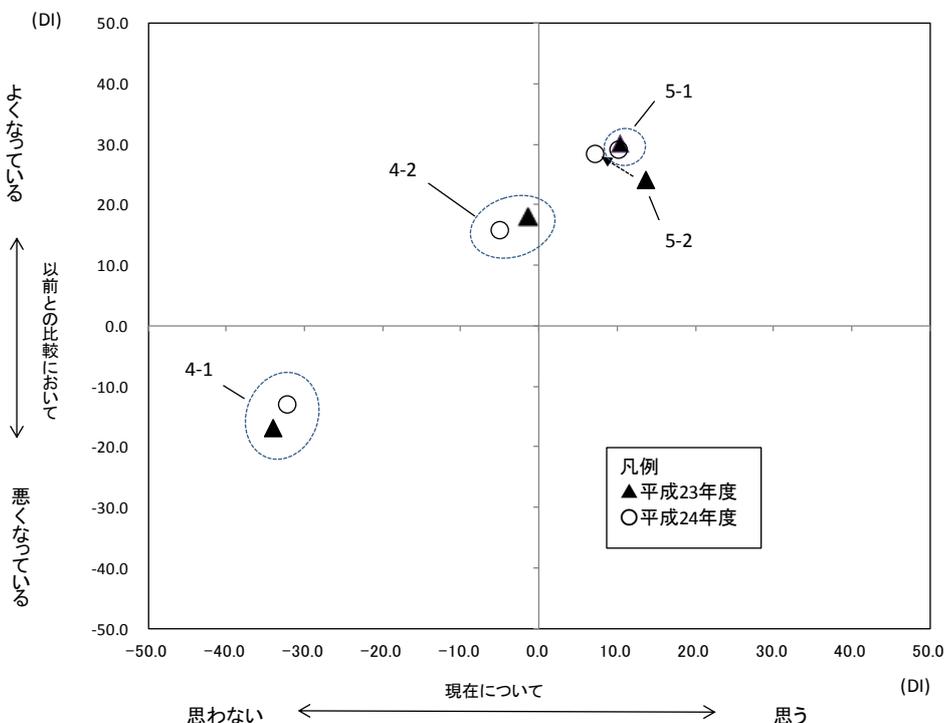
- ▶ 「現在について」DIは、(前年度 48.7→) 45.4 (前年度差 ▲3.3 ポイント)で、大きな変化なし
- ▶ 「以前との比較」DIは、(前年度 21.6→) 21.3 (前年度差 ▲0.3 ポイント)で、変化なし

3-2 地球環境に貢献するまちづくり

- ▶ 「現在について」DIは、(前年度 13.5→) 18.1 (前年度差 4.6 ポイント)で、大きな変化なし
- ▶ 「以前との比較」DIは、(前年度 36.1→) 36.4 (前年度差 0.3 ポイント)で、変化なし

3 「重点プログラムの取り組みの方向性別」の状況（プログラム4・5）

図表Ⅱ－3 重点プログラム4・5の取り組みの方向性の状況（H24-23年度比較）



【現在について】

各プログラムの取り組みの方向性	調査年度	件数(人)	(ポイント)				
			①思う+②やや思う (a)	③どちらともいえない	④あまり思わない+ ⑤思わない (b)	D.I (a)-(b)	前年度比
(4-1) 地域経済の活性化と雇用の創出	24年度	668	21.2	25.3	53.5	▲ 32.3	1.8
	23年度	653	20.2	25.6	54.3	▲ 34.1	
(4-2) 集客や定住を促す魅力的な都市環境づくり	24年度	686	33.8	27.3	38.9	▲ 5.1	▲ 3.6
	23年度	685	37.0	24.5	38.5	▲ 1.5	
(5-1) 地域と住民の主体性が発揮される枠組みづくり	24年度	597	39.9	30.3	29.8	10.1	▲ 0.2
	23年度	599	40.8	28.7	30.5	10.3	
(5-2) 地域を支えるコミュニティー機能の強化	24年度	625	39.8	27.5	32.7	7.1	▲ 6.5
	23年度	630	42.0	29.5	28.4	13.6	

【以前との比較】

各プログラムの取り組みの方向性	調査年度	件数(人)	(ポイント)				
			①よくなっている+ ②どちらかという よくなっている (a)	③変わっていない	④どちらかという 悪くなっている+ ⑤悪くなっている (b)	D.I (a)-(b)	前年度比
(4-1) 地域経済の活性化と雇用の創出	24年度	577	24.8	37.4	37.7	▲ 12.9	3.9
	23年度	595	22.2	38.8	39.0	▲ 16.8	
(4-2) 集客や定住を促す魅力的な都市環境づくり	24年度	598	35.8	44.3	19.9	15.9	▲ 2.4
	23年度	609	38.0	42.4	19.7	18.3	
(5-1) 地域と住民の主体性が発揮される枠組みづくり	24年度	514	38.7	51.8	9.5	29.2	▲ 1.0
	23年度	516	39.1	51.9	8.9	30.2	
(5-2) 地域を支えるコミュニティー機能の強化	24年度	532	39.8	48.9	11.3	28.5	4.3
	23年度	536	36.2	51.9	12.0	24.2	

【調査結果のポイント】

- ・プログラム4、5の取り組みの方向性のうち、プログラム5の2つの取り組みの方向性は、「現在について」「以前との比較」ともに、DIが前年度同様プラスで、実感が得られているとみることができる。しかし、「5-2 地域を支えるコミュニティ機能の強化」の「現在について」で低下傾向がみられる。
- ・プログラム4の取り組みの方向性のうち、「4-1 地域経済の活性化と雇用の創出」は、「現在について」「以前との比較」ともに、DIに大きな変化はみられないものの、その値はマイナスが大きく、実感が得られていない状況が続いている。

【DIの状況 平成24年度-23年度比較】

4-1 地域経済の活性化と雇用の創出

- ▶ 「現在について」DIは、(前年度 ▲34.1→) ▲32.3 (前年度差 1.8ポイント)で、変化なし
- ▶ 「以前との比較」DIは、(前年度 ▲16.8→) ▲12.9 (前年度差 3.9ポイント)で、大きな変化なし

4-2 集客や定住を促す魅力的な都市環境づくり

- ▶ 「現在について」DIは、(前年度 ▲1.5→) ▲5.1 (前年度差 ▲3.6ポイント)で、大きな変化なし
- ▶ 「以前との比較」DIは、(前年度 18.3→) 15.9 (前年度差 ▲2.4ポイント)で、変化なし

5-1 地域と住民の主体性が発揮される枠組みづくり

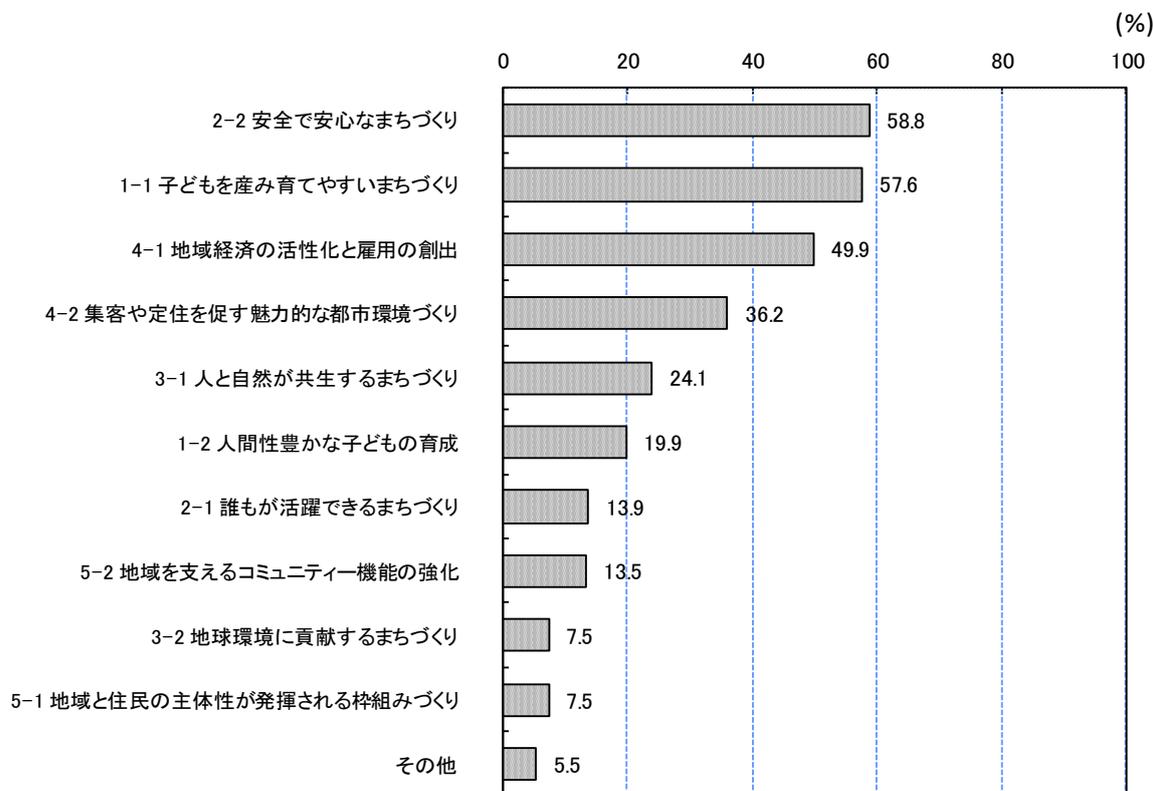
- ▶ 「現在について」DIは、(前年度 10.3→) 10.1 (前年度差 ▲0.2ポイント)で、変化なし
- ▶ 「以前との比較」DIは、(前年度 30.2→) 29.2 (前年度差 ▲1.0ポイント)で、変化なし

5-2 地域を支えるコミュニティ機能の強化

- ▶ 「現在について」DIは、(前年度 13.6→) 7.1 (前年度差 ▲6.5ポイント)で、低下
- ▶ 「以前との比較」DIは、(前年度 24.2→) 28.5 (前年度差 4.3ポイント)で、大きな変化なし

4 重点プログラム 取り組みの方向性別優先度

図表Ⅱ-4 重点プログラムの取り組みの方向性別優先度



注) 複数回答3つまで選択/その他には、市への個別具体的な要望等が多く含まれている

図表Ⅱ-5 重点プログラムの取り組みの方向性別優先度の回答割合 (H24-23 年度比較)

取り組みの方向性	24年度		23年度		前年度比
	順位	回答割合 (%)	順位	回答割合 (%)	
(2-2) 安全で安心なまちづくり	1	58.8	2	61.6	▲ 2.8
(1-1) 子どもを産み育てやすいまちづくり	2	57.6	1	61.9	▲ 4.3
(4-1) 地域経済の活性化と雇用の創出	3	49.9	3	49.8	0.1
(4-2) 集客や定住を促す魅力的な都市環境づくり	4	36.2	4	34.7	1.5
(3-1) 人と自然が共生するまちづくり	5	24.1	5	24.1	0.0
(1-2) 人間性豊かな子どもの育成	6	19.9	6	21.0	▲ 1.1
(2-1) 誰もが活躍できるまちづくり	7	13.9	8	10.6	3.3
(5-2) 地域を支えるコミュニティ機能の強化	8	13.5	7	12.6	0.9
(3-2) 地球環境に貢献するまちづくり	9	7.5	9	10.4	▲ 2.9
(5-1) 地域と住民の主体性が発揮される枠組みづくり	9	7.5	10	5.8	1.7

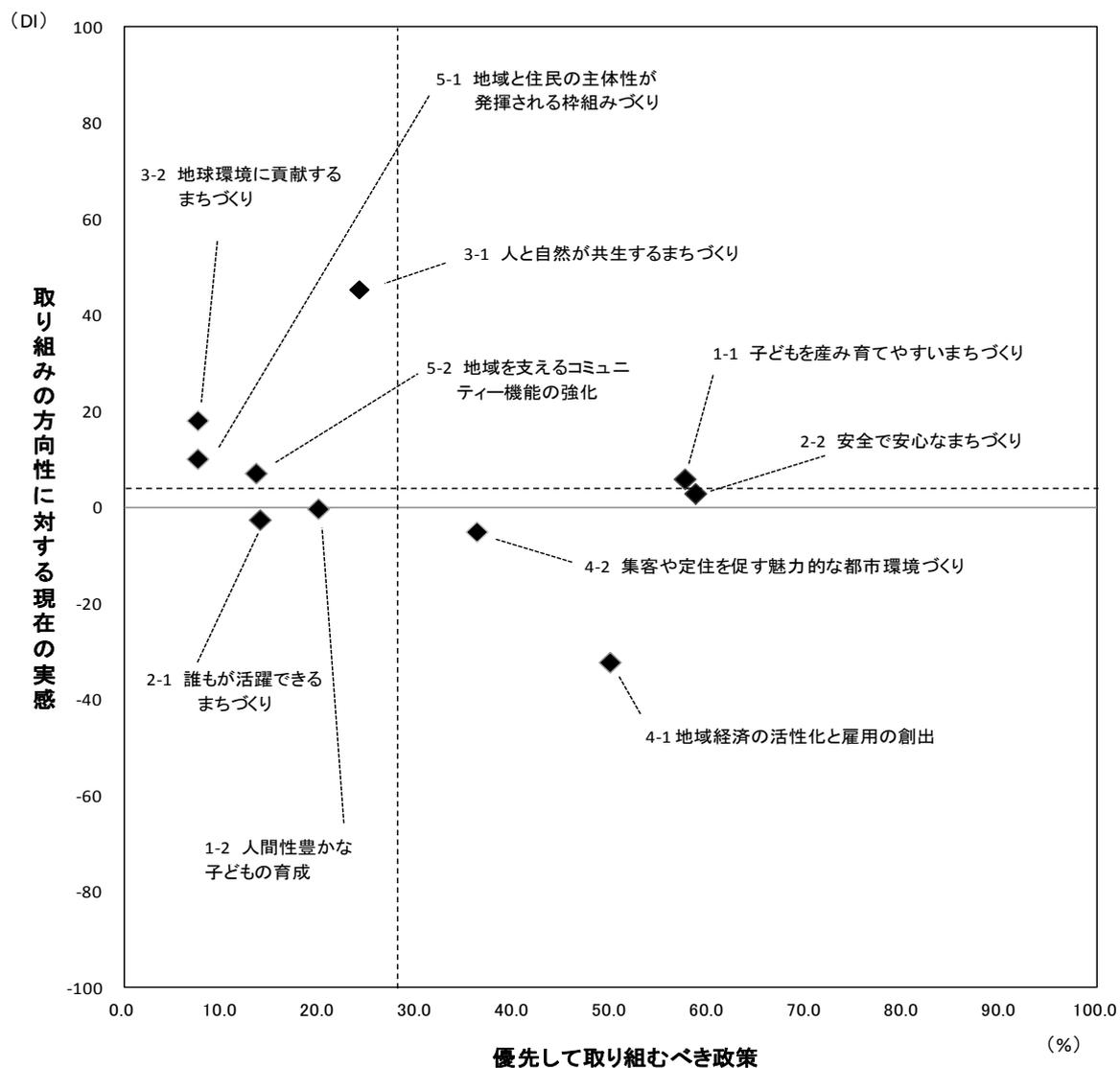
※回答は3つまでの複数選択のため、回答割合の合計は100%にならない

【調査結果のポイント】

- ・各プログラムの取り組みの方向性の優先度について、全体的な傾向は前年度とほぼ同様の結果であったが、「2-2 安全で安心なまちづくり」が、最も高い回答割合の項目になった。しかし、この項目は、重点プログラムのすべての取り組みの方向性のうち、「現在について」「以前との比較」のDIが、前年度との比較で最も低下している項目でもある。(P7参照)
- ・「1-1 子どもを産み育てやすいまちづくり」が前年度と同様に優先度の高い項目となった。これら2項目に続き優先度の高い項目は、プログラム4を構成する「4-1 地域経済の活性化と雇用の創出」「4-2 集客や定住を促す魅力的な都市環境づくり」である。
- ・プログラム4は、図表Ⅱ-1 (P5参照)で示したとおり、すべてのプログラムの中で、唯一、「現在について」「以前との比較」ともにDIがマイナスのプログラムである。

5 重点プログラム 取り組みの方向性（優先して取り組むべき政策×現在の実感）

図表Ⅱ－6 取り組みの方向性（優先度の回答割合×現在の実感）



※グラフ内の破線は、「優先して取り組むべき政策の回答割合 (%)」と「取り組みの方向性に対する現在の実感 (DI)」それぞれの平均値を示したもの (X=28.9 Y=4.6)

【調査結果のポイント】

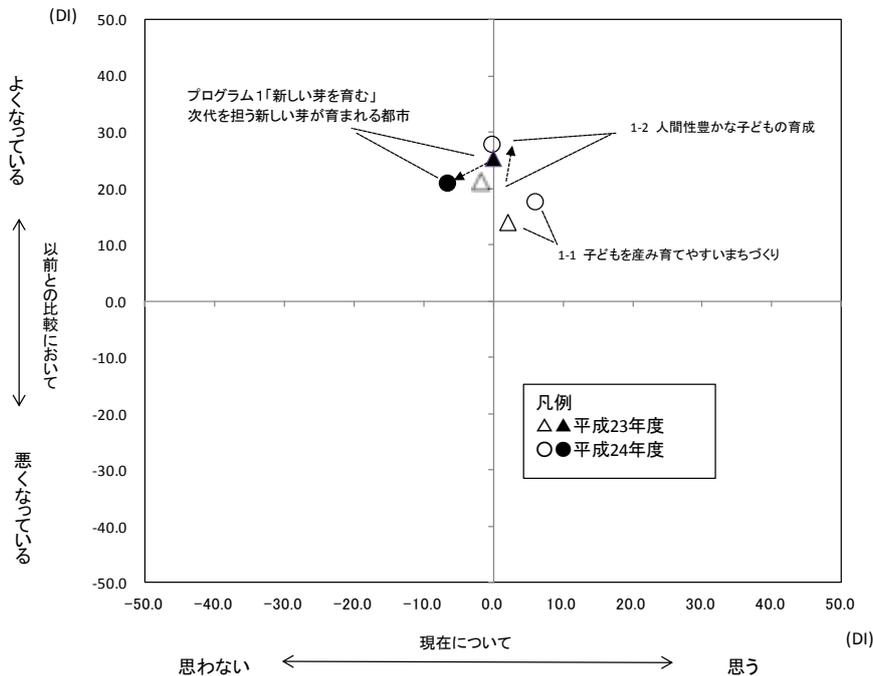
- ・「優先して取り組むべき政策」の回答割合が平均値より高く、「現在の実感」のDIが平均値より低い項目は、「2-2 安全で安心なまちづくり」「4-1 地域経済の活性化と雇用の創出」「4-2 集客や定住を促す魅力的な都市環境づくり」の3つとなった。
- ・プログラム3、5をそれぞれ構成する取り組みの方向性については、すべて、「現在の実感」のDIが平均値より高く、「優先して取り組むべき政策」の回答割合が平均値より低くなっている。

III 集計結果 –プログラム別–

重点プログラム1 『新しい芽を育む』 ～子どもを産み育てやすいまちづくり・人間性豊かな子どもの育成～

1 プログラム1「新しい芽を育む」の傾向

図表Ⅲ－1 重点プログラム1の目的、取り組みの方向性の状況（H24-23年度比較）



【現在について】

取り組みの方向性・ 実現を目指す都市の姿	調査年度	件数(人)	(ポイント)				前年度比
			①思う+②やや思う (a)	③どちらとも いえない	④あまり思わない+ ⑤思わない (b)	DI (a)-(b)	
(1-1) 子どもを産み育てやすいまちづくり	24年度	589	39.9	26.1	34.0	5.9	3.9
	23年度	597	38.2	25.6	36.2	2.0	
(1-2) 人間性豊かな子どもの育成	24年度	554	34.5	30.7	34.8	▲ 0.3	1.6
	23年度	555	31.4	35.3	33.3	▲ 1.9	
次代を担う新しい芽が育まれる都市	24年度	600	31.0	31.3	37.7	▲ 6.7	▲ 6.6
	23年度	591	34.9	30.1	35.0	▲ 0.1	

【以前との比較】

取り組みの方向性・ 実現を目指す都市の姿	調査年度	件数(人)	(ポイント)				前年度比
			①よくなっている+ ②どちらかという よくなっている (a)	③変わって いない	④どちらかという 悪くなっている+ ⑤悪くなっている (b)	DI (a)-(b)	
(1-1) 子どもを産み育てやすいまちづくり	24年度	497	37.7	42.5	19.9	17.8	3.7
	23年度	524	37.6	38.9	23.5	14.1	
(1-2) 人間性豊かな子どもの育成	24年度	444	40.1	47.7	12.1	28.0	6.5
	23年度	476	35.3	50.8	13.8	21.5	
次代を担う新しい芽が育まれる都市	24年度	474	35.4	50.2	14.3	21.1	▲ 4.4
	23年度	491	37.3	50.9	11.8	25.5	

○プログラム1が実現を目指す「次代を担う新しい芽が育まれる都市」の状況について、「現在について」のDIはマイナスで前年度より低下傾向がみられるが、「以前との比較」のDIは前年度と同様にプラスで大きな変化はなく、一応の実感が得られているとみられる。

- ▶ 「現在について」DIは、(前年度 ▲0.1→) ▲6.7 (前年度差 ▲6.6 ポイント)で低下
- ▶ 「以前との比較」DIは、(前年度 25.5→) 21.1 (前年度差 ▲4.4 ポイント)で、大きな変化なし

2 取り組みの方向性の傾向（全体）

(1) 1-1 子どもを産み育てやすいまちづくり

「現在について」「以前との比較」のDIは、いずれも前年度と同様にプラスで大きな変化はないものの、一応の実感が得られているといえる。

- ▶ 「現在について」DIは、(前年度 2.0→) 5.9 (前年度差 3.9 ポイント)で、大きな変化なし
- ▶ 「以前との比較」DIは、(前年度 14.1→) 17.8 (前年度差 3.7 ポイント)で、大きな変化なし

【回答理由】

「①思う」「②やや思う」

「自然環境の良さ」や「子育て支援施策や施設の充実」などが多く挙げられている。

「④あまり思わない」「⑤思わない」

「産科（医師含む）、小児科など医療体制が不十分」「保育所、学童などの不足」「助成などの子育て支援施策が不十分」などが多く挙げられている。

(2) 1-2 人間性豊かな子どもの育成

「現在について」のDIはマイナスで、前年度と変化がなく実感が得られていない状況が続いている。一方、「以前との比較」のDIはプラス値が高く、前年度より上昇して、一応の実感が得られているといえる。

- ▶ 「現在について」DIは、(前年度 ▲1.9→) ▲0.3 (前年度差 1.6 ポイント)で、変化なし
- ▶ 「以前との比較」DIは、(前年度 21.5→) 28.0 (前年度差 6.5 ポイント)で、上昇

【回答理由】

「①思う」「②やや思う」

「市の取り組みの内容や成果」「学校教育環境の充実」が多く挙げられているほか、「子ども見守り隊、子ども会など地域活動の充実」が挙げられている。

「④あまり思わない」「⑤思わない」

- ・ 「進められている実感がない」「教師の資質がよくない」が多く挙げられている。
- ・ 「子どもたちの様子を見て」という理由が多い一方、「大人・親・家庭がよくない、その指導育成がない」も多く挙げられている。

3 取り組みの方向性の傾向（年齢別）

(1) 1-1 子どもを産み育てやすいまちづくり

【調査結果のポイント】

- ・「現在について」「以前との比較」とともに、取り組みの主な対象となる30歳代のDIが前年度よりマイナスで、特に、「現在について」は、前年度比▲31.3ポイントの大幅な低下となった。
- ・一方、50歳代以上のDIはプラスで前年度より上昇しており、世代間で実感に大きな差がみられる。
- ・全体としては、良い状況にあるとみられるが（P15参照）、取り組みの主な対象と考えられる30歳代からの実感が得られていないことには注意が必要である。

図表Ⅲ-2 1-1「子どもを産み育てやすいまちづくり」の状況（年齢別：H24-23年度比較）

【現在について】

年齢階級	調査年度	件数(人)					(ポイント)	
			①思う+②やや思う (a)	③どちらともいえない	④あまり思わない+ ⑤思わない (b)	DI (a)-(b)	前年度比	
29歳以下	24年度	74	48.6	24.3	27.0	21.6	18.7	
	23年度	69	34.8	33.3	31.9	2.9		
30歳代	24年度	53	26.4	19.4	54.2	▲27.8	▲31.3	
	23年度	86	39.5	24.5	36.0	3.5		
40歳代	24年度	76	29.3	31.5	39.1	▲9.8	1.4	
	23年度	90	34.4	20.0	45.6	▲11.2		
50歳代	24年度	91	45.7	24.8	29.5	16.2	18.0	
	23年度	109	35.8	26.6	37.6	▲1.8		
60歳以上	24年度	227	43.6	26.9	29.5	14.1	9.4	
	23年度	233	21.0	62.7	16.3	4.7		

【以前との比較】

年齢階級	調査年度	件数(人)					(ポイント)	
			①よくなっている+ ②どちらかという よくなっている (a)	③変わっていない	④どちらかという 悪くなっている+ ⑤悪くなっている (b)	DI (a)-(b)	前年度比	
29歳以下	24年度	46	41.3	41.3	17.4	23.9	▲13.1	
	23年度	46	50.0	37.0	13.0	37.0		
30歳代	24年度	34	26.4	49.1	24.5	1.9	▲11.6	
	23年度	74	33.8	45.9	20.3	13.5		
40歳代	24年度	72	35.5	47.4	17.1	18.4	9.9	
	23年度	82	35.4	37.7	26.9	8.5		
50歳代	24年度	69	36.3	41.8	22.0	14.3	18.3	
	23年度	100	29.0	38.0	33.0	▲4.0		
60歳以上	24年度	214	41.1	41.1	17.8	23.4	9.8	
	23年度	214	22.0	69.6	8.4	13.6		

①29 歳以下

- ▶ 「現在について」DI は、(前年度 2.9→) 21.6 (前年度差 18.7 ポイント)で、大幅に上昇
- ▶ 「以前との比較」DI は、(前年度 37.0→) 23.9 (前年度差 ▲13.1 ポイント)で、大幅に低下

②30 歳代

- ▶ 「現在について」DI は、(前年度 3.5→) ▲27.8 (前年度差 ▲31.3 ポイント)で、大幅に低下
- ▶ 「以前との比較」DI は、(前年度 13.5→) 1.9 (前年度差 ▲11.6 ポイント)で、大幅に低下

③40 歳代

- ▶ 「現在について」DI は、(前年度 ▲11.2→) ▲9.8 (前年度差 1.4 ポイント)で、変化なし
- ▶ 「以前との比較」DI は、(前年度 8.5→) 18.4 (前年度差 9.9 ポイント)で、上昇

④50 歳代

- ▶ 「現在について」DI は、(前年度 ▲1.8→) 16.2 (前年度差 18.0 ポイント)で、大幅に上昇
- ▶ 「以前との比較」DI は、(前年度 ▲4.0→) 14.3 (前年度差 18.3 ポイント)で、大幅に上昇

⑤60 歳以上

- ▶ 「現在について」DI は、(前年度 4.7→) 14.1 (前年度差 9.4 ポイント)で、上昇
- ▶ 「以前との比較」DI は、(前年度 13.6→) 23.4 (前年度差 9.8 ポイント)で、上昇

(2) 1-2 人間性豊かな子どもの育成

【調査結果のポイント】

- ・「現在について」「以前との比較」ともに、30歳代のDIがマイナスで、特に、「現在の状況」は前年度比▲43.3ポイントで、大幅に低下した。
- ・一方、29歳以下では、「現在について」のDIは前年度から大幅に上昇した。また、40歳代以上のDIについても上昇傾向がみられる。
- ・世代間で大きな差がみられ、特に、30歳代からの実感が得られていないことには注意が必要である。

図表Ⅲ-3 1-2 「人間性豊かな子どもの育成」の状況（年齢別：H24-23年度比較）

【現在について】

年齢階級	調査年度	件数(人)	(ポイント)				
			①思う+②やや思う (a)	③どちらともいえない	④あまり思わない+ ⑤思わない (b)	DI (a)-(b)	前年度比
29歳以下	24年度	67	37.3	28.4	34.3	3.0	14.5
	23年度	61	27.9	32.8	39.3	▲11.5	
30歳代	24年度	62	24.2	21.0	54.8	▲30.6	▲43.3
	23年度	78	38.4	35.9	25.7	12.7	
40歳代	24年度	91	30.8	28.6	40.7	▲9.9	7.0
	23年度	89	27.0	29.1	43.9	▲16.9	
50歳代	24年度	98	30.6	38.8	30.6	0.0	18.4
	23年度	98	23.5	34.6	41.9	▲18.4	
60歳以上	24年度	220	39.1	31.8	29.1	10.0	4.5
	23年度	219	35.6	37.9	26.5	5.5	

【以前との比較】

年齢階級	調査年度	件数(人)	(ポイント)				
			①よくなっている+ ②どちらかという よくなっている (a)	③変わっていない	④どちらかという 悪くなっている+ ⑤悪くなっている (b)	DI (a)-(b)	前年度比
29歳以下	24年度	43	39.5	46.5	14.0	25.6	1.7
	23年度	46	43.5	52.2	4.3	23.9	
30歳代	24年度	36	19.4	58.3	22.2	▲2.8	▲26.5
	23年度	59	32.2	59.3	8.5	23.7	
40歳代	24年度	71	33.8	54.9	11.3	22.5	11.8
	23年度	75	29.4	51.9	18.7	10.7	
50歳代	24年度	78	37.2	50.0	12.8	24.4	22.1
	23年度	88	25.0	52.3	22.7	2.3	
60歳以上	24年度	200	47.0	43.5	9.5	37.5	8.1
	23年度	201	41.8	45.8	12.4	29.4	

①29 歳以下

- ▶ 「現在について」DI は、(前年度 ▲11.5→) 3.0 (前年度差 14.5 ポイント)で、大幅に上昇
- ▶ 「以前との比較」DI は、(前年度 23.9→) 25.6 (前年度差 1.7 ポイント)で、変化なし

②30 歳代

- ▶ 「現在について」DI は、(前年度 12.7→) ▲30.6 (前年度差 ▲43.3 ポイント)で、大幅に低下
- ▶ 「以前との比較」DI は、(前年度 23.7→) ▲2.8 (前年度差 ▲26.5 ポイント)で、大幅に低下

③40 歳代

- ▶ 「現在について」DI は、(前年度▲16.9→) ▲9.9 (前年度差 7.0 ポイント)で、上昇
- ▶ 「以前との比較」DI は、(前年度 10.7→) 22.5 (前年度差 11.8 ポイント)で、大幅に上昇

④50 歳代

- ▶ 「現在について」DI は、(前年度▲18.4→) 0.0 (前年度差 18.4 ポイント)で、大幅に上昇
- ▶ 「以前との比較」DI は、(前年度 2.3→) 24.4 (前年度差 22.1 ポイント)で、大幅に上昇

⑤60 歳以上

- ▶ 「現在について」DI は、(前年度 5.5→) 10.0 (前年度差 4.5 ポイント)で、大きな変化なし
- ▶ 「以前との比較」DI は、(前年度 29.4→) 37.5 (前年度差 8.1 ポイント)で、上昇

4 回答理由分類

1-1 子どもを産み育てやすいまちづくり

【現在について】

「①思う」「②やや思う」

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
自然が多い、気候が温暖など自然環境の充実	34	25.2
地域環境がよい、市民性、自分の経験から	22	16.3
子育て支援施策や助成等の充実、事業内容から	19	14.1
公園・支援センターなど子育てに関係する施設の充実	13	9.6
保育所・学童等の充実、待機児童の減少	10	7.4
首都圏である、通勤しやすいなど利便性が高い	7	5.2
産科・小児科などの医療体制や医療費助成等の充実	4	3.0
教育環境の充実	4	3.0
犯罪が少ない、悪影響が少ないなど安全、安心	4	3.0
その他、意見等	4	3.0
産科の減少、保育所が少ないなど	14	10.4
	135	100.0

「④あまり思わない」「⑤思わない」

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
産科(医師含む)、小児科など医療体制が不十分	70	39.5
保育所、学童などの不足	26	14.7
医療、出産、保育にかかる費用が高い、助成などの支援が不十分	24	13.6
市の取り組みが遅い・不十分、情報発信が少ない	7	4.0
公園など子育て施設の不足、遊具の安全性が不安	6	3.4
他都市と変わらない、実感として思わない、わからない	6	3.4
学校数の減、教育環境が不十分	6	3.4
治安が悪い、繁華街などが子どもに悪影響	5	2.8
企業減少、雇用減少	5	2.8
他都市との比較によるサービスの不足	4	2.3
その他、意見等	15	8.5
子ども見守り隊はよい、コールセンターは心強いなど	3	1.7
	177	100.0

【以前との比較】

「①よくなっている」「②どちらかというよくなっている」

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
子育て支援施策、助成等の充実	17	21.0
保育所・学童等の充実、待機児童の減少	9	11.1
よくなっている	8	9.9
サークルの増加、地域ぐるみでの支援体制	7	8.6
産科・小児科などの医療体制や医療費助成等の充実	6	7.4
公園・支援センターなど子育て施設の充実	6	7.4
利便性の上昇、子育て環境の向上	5	6.2
市民や行政の意識向上	4	4.9
教育環境の充実	3	3.7
その他、意見等	8	9.9
産科の減少、子どもの減少、情報発信不足など	8	9.9
	81	100.0

「④どちらかという悪くなっている」「⑤悪くなっている」

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
産科（医師含む）、小児科など医療体制が不十分	44	50.0
健全な遊び場がない、公園の整備が不十分、外で遊ばない	5	5.7
親の質の低下、親への教育の場がない	5	5.7
医療費、出産補助費助成など子育てへの財政的な支援が不十分	5	5.7
保育所、学童などの不足、サービスの低下	4	4.5
企業減少、雇用減少、市外への転職・離職の増加	4	4.5
人口減少、子どもの減少	4	4.5
商店街の閉鎖、商業施設の減少による利便性の低下	3	3.4
よくなっていると思わない	3	3.4
教育環境の悪化	2	2.3
その他、意見等	9	10.2
	88	100.0

1-2 人間性豊かな子どもの育成

【現在について】

「①思う」「②やや思う」

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
市の取り組みの内容や成果、資料をみて	15	21.7
学校教育環境の充実 (ALT、朝読書、PC 等)	15	21.7
自然環境がよい	7	10.1
子ども見守り隊、子ども会など地域活動の充実	7	10.1
そう思う、他市と比較してよい	3	4.3
子どもたちの様子をみて	2	2.9
外国人との交流がある	2	2.9
支援が必要な児童、生徒へのサポートの充実	2	2.9
図書サービスの充実	2	2.9
医療施設、公園などの充実	2	2.9
その他、意見等	10	14.5
他市と変わらない、取り組みを知らなかった	2	2.9
	69	100.0

「④あまり思わない」「⑤思わない」

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
進められている実感がない	12	10.6
教師の資質がよくない	12	10.6
子どもたちの様子をみて	11	9.7
施策内容に疑問がある、ポイントがずれている	8	7.1
大人・親・家庭がよくない、またその指導育成がない	8	7.1
学校教育が充実していない	7	6.2
学力が低い、塾通いの子どもが多い	6	5.3
具体的な取り組みが表にみえない、他市と変わらない	6	5.3
行政の努力・取り組み・姿勢が不十分	5	4.4
教育施設、子どもの遊び場が不十分	5	4.4
支援が必要な児童、生徒へのサポートの不足、不登校が多い	3	2.7
学童が充実していない	3	2.7
その他、意見等	27	23.9
	113	100.0

【以前との比較】

「①よくなっている」「②どちらかというよくなっている」

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
英語教育、支援教育、児童相談所など教育・子育て政策の充実	9	18.8
よくなってきている、進んでいると思う	9	18.8
地域における子どもたちのサポート体制の充実	7	14.6
学校環境・施設設備の向上	6	12.5
子どもたちの様子をみて	3	6.3
資料や広報をみて	3	6.3
学校、家庭、地域の連携の向上	2	4.2
公園の充実	2	4.2
行政、大人の関心向上	2	4.2
その他、意見等	4	8.3
他市と変わらない	1	2.1
	48	100.0

「④どちらかという悪くなっている」「⑤悪くなっている」

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
子どもたちの様子をみて	7	21.2
学校の教育力・学習環境の低下、施策内容に疑問がある	5	15.2
大人・親・家庭がよくない、大人の悪い面をみている	4	12.1
学力の低下、不登校が多い	3	9.1
教員の質の低下	3	9.1
よくなっていると思わない	2	6.1
行政からの規制が多い、行政の真剣さを感じない	2	6.1
その他、意見等	7	21.2
	33	100.0

次代を担う新しい芽が育まれる都市

【現在について】

「①思う」「②やや思う」

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
市の取り組みや学校教育の充実、資料をみて	16	22.2
自然環境に恵まれている	11	15.3
希望・期待、可能性がある	5	6.9
外国人との交流がある、国際色が強い	3	4.2
大学がある、公園、学童など子育て施設の充実	4	5.6
都心に近い	4	5.6
そう思う、進歩している、他市と比較してよい	4	5.6
学校・地域の協力体制がある、地域が熱心である	4	5.6
その他、意見等	13	18.1
産科の減少、保育所が少ないなど	8	11.1
	72	100.0

「④あまり思わない」「⑤思わない」

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
学校教育が充実していない、教員の質の低下	22	20.2
公園や学童、産科、支援施設が不十分、子育て施策が不十分	14	12.8
人口減少、若者の市外流出、雇用の減少、産業の減少	14	12.8
取り組みがみえない、施策が不十分、成果がない、思わない	8	7.3
横須賀に魅力がない、横須賀の地域性	7	6.4
施策内容に疑問がある、ずれている	6	5.5
学力の低下、不登校が多い、いじめの問題	5	4.6
少子高齢化、子どもの減少	4	3.7
子どもたちの様子を見て	3	2.8
情報発信不足で伝わってこない	3	2.8
自然の減少	3	2.8
その他、意見等	19	17.4
大学がある	1	0.9
	109	100.0

【以前との比較】

「①よくなっている」「②どちらかというよくなっている」

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
市の取り組みや施策の充実、資料をみて	9	17.3
よくなっている、そう思いたい、悪くはなっていない	7	13.5
学校教育の充実	7	13.5
子どもたちの様子をみて	3	5.8
公園、子育て施設の整備	4	7.7
子どもたちの様子をみて	3	5.8
地域の協力体制がある	4	7.7
人間関係が密になった	2	3.8
その他、意見等	10	19.2
不登校の子どもが学習できる場がないなど	3	5.8
	52	100.0

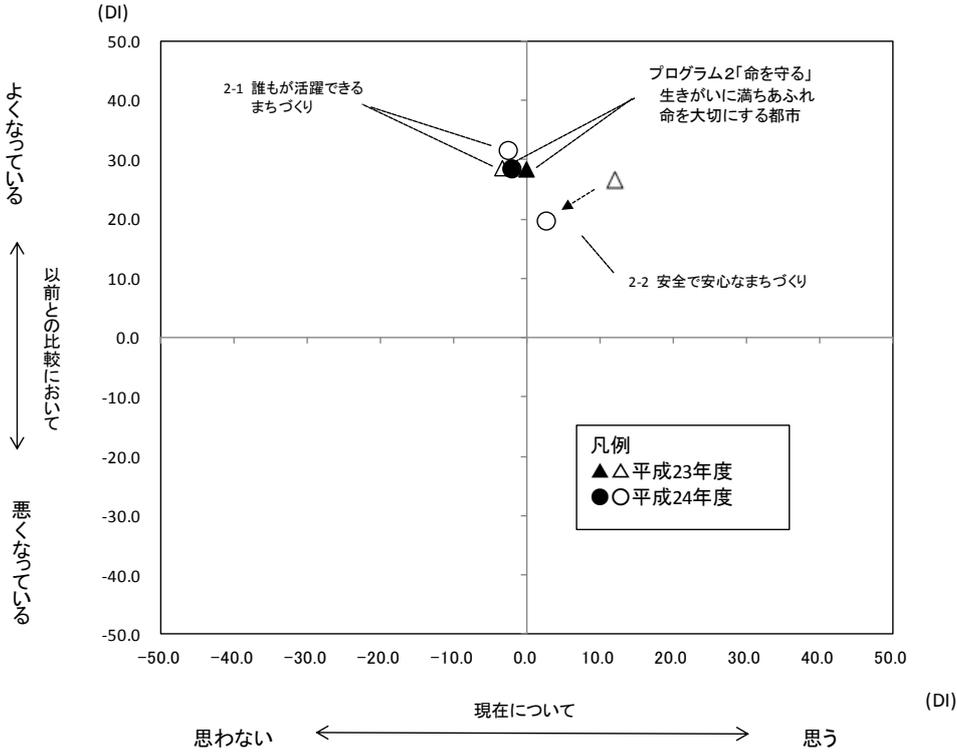
「④どちらかという悪くなっている」「⑤悪くなっている」

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
子どもたちの様子をみて	5	12.8
学校教育が充実していない、教員の質の低下	4	10.3
よくなっていない、他市と比較してよくない、市の方向性が不明	4	10.3
大人・親がよくない	3	7.7
少子高齢化、子どもの減少	3	7.7
いじめの問題、学校選択制の善し悪し	3	7.7
雇用の減少、産業の減少、商店街の閉鎖	3	7.7
人口減少、若者の市外流出	3	7.7
産科の減少	3	7.7
その他	8	20.5
	39	100.0

重点プログラム2 『命を守る』
～誰もが活躍できるまちづくり・安全で安心なまちづくり～

1 プログラム2「命を守る」の傾向

図表Ⅲ－4 重点プログラム2の目的、取り組みの方向性の状況（H24-23年度比較）



【現在について】

取り組みの方向性・実現を目指す都市の姿	調査年度	件数(人)	(ポイント)				DI (a)-(b)	前年度比
			①思う+②やや思う (a)	③どちらともいえない	④あまり思わない+⑤思わない (b)			
(2-1) 誰もが活躍できるまちづくり	24年度	640	34.7	28.0	37.3	▲ 2.6	0.8	
	23年度	651	35.5	25.7	38.9	▲ 3.4		
(2-2) 安全で安心なまちづくり	24年度	728	39.8	22.9	37.2	2.6	▲ 9.5	
	23年度	711	44.8	22.5	32.7	12.1		
生きがいに満ちあふれ命を大切にする都市	24年度	640	31.0	35.9	33.1	▲ 2.1	▲ 2.0	
	23年度	631	33.0	33.9	33.1	▲ 0.1		

【以前との比較】

取り組みの方向性・実現を目指す都市の姿	調査年度	件数(人)	(ポイント)			DI (a)-(b)	前年度比
			①よくなっている+②どちらかというよくなっている (a)	③変わっていない	④どちらかという悪くなっている+⑤悪くなっている (b)		
(2-1) 誰もが活躍できるまちづくり	24年度	529	40.5	50.7	8.8	31.7	3.0
	23年度	557	39.8	49.0	11.1	28.7	
(2-2) 安全で安心なまちづくり	24年度	638	38.0	43.9	18.2	19.8	▲ 6.9
	23年度	645	41.0	44.7	14.3	26.7	
生きがいに満ちあふれ命を大切にする都市	24年度	524	38.3	51.9	9.7	28.6	0.1
	23年度	543	39.2	50.1	10.7	28.5	

○プログラム2が実現を目指す「生きがいに満ちあふれ命を大切にす都市」の状況について、「現在について」「以前との比較」のいずれも前年度とほぼ同様で、変化はない。

「現在について」のDIはマイナスで、実感は低いものの、「以前との比較」のDIは、プラス値が大きく、一応の実感が得られているといえる。

- ▶ 「現在について」DIは、(前年度 ▲0.1→) ▲2.1(前年度差 ▲2.0ポイント)で、変化なし
- ▶ 「以前との比較」DIは、(前年度 28.5→) 28.6(前年度差 0.1ポイント)で、変化なし

2 取り組みの方向性の傾向（全体）

(1) 2-1 誰もが活躍できるまちづくり

DIは、「現在について」「以前との比較」のいずれも前年度とほぼ同様で、大きな変化がない。「現在について」のDIは、マイナスで実感は低いものの、「以前との比較」ではプラス値が大きく、一応の実感が得られているといえる。

- ▶ 「現在について」DIは、(前年度 ▲3.4→) ▲2.6(前年度差 0.8ポイント)で、変化なし
- ▶ 「以前との比較」DIは、(前年度 28.7→) 31.7(前年度差 3.0ポイント)で、大きな変化なし

【回答理由】

「①思う」「②やや思う」

「高齢者、障害者施策、支援・生涯学習施策の充実」「ノンステップバスの普及や公共施設のバリアフリー対策の充実」など市の取り組みのほか、「地域活動が盛ん、ボランティア活動等で活躍する人の増加」などが挙げられている。

「④あまり思わない」「⑤思わない」

- ・最も多く挙げられたのが、取り組みの方向性に関わる事業から直接はイメージされない「経済低迷、雇用の減少、産業の減少、活気のなさ」であった。
- ・これは「誰もが活躍できる」という言葉から想起されている状況に、「経済、雇用の安定」が大きな要素としてあり、それが回答に影響したものと考えられる。
- ・また、「活躍（活動）の場がない、知らない」「道路や公共施設のバリアフリー対策が不十分」など、市の取り組みの不十分さが挙げられている。

(2) 2-2 安全で安心なまちづくり

DI は、「現在について」「以前との比較」のいずれもプラスで、一応の実感は得られているとみることができるが、前年度との比較をみると、いずれもマイナスで、実感が低下している。

- ▶ 「現在について」DI は、(前年度 12.1→) 2.6 (前年度差 ▲9.5 ポイント)で、低下
- ▶ 「以前との比較」DI は、(前年度 26.7→) 19.8 (前年度差 ▲6.9 ポイント)で、低下

【回答理由】

「①思う」「②やや思う」

「犯罪の減少・治安の良さ」「防災、耐震、災害、救急対策の充実」「自治会、地域団体、ボランティアによる安全対策の充実」が多く挙げられている。

「④あまり思わない」「⑤思わない」

- ・ 「身近な犯罪の増加、浮浪者、暴力団などの放置、治安の悪化」が最も多く、次いで「基地、原子力・核燃料関連施設、自衛隊の存在、弾薬庫がある」の基地等の施設や放射能に関することが挙げられている。
- ・ これら以外では、「通学路・歩道が狭いなど道路整備やバリアフリー化が不十分」「防犯、防災対策への取り組みが不十分」など市の取り組みの不十分さが挙げられている。

3 取り組みの方向性の傾向 (2-1年齢別/2-2地域別)

(1) 2-1 誰もが活躍できるまちづくり

【調査結果のポイント】

- ・ 30 歳代の DI は、「現在について」「以前との比較」のいずれも、前年度から 20 ポイント以上の大幅な低下となった。
- ・ 一方で、40 歳代以上の DI は上昇しており、年齢層により実感に大きな差がみられる。
- ・ 特に 60 歳代以上は、「現在について」「以前との比較」ともに、各年度の DI はプラスでその値も高いことから、高齢層からの実感は得られているといえる。

図表Ⅲ－５ ２－１「誰もが活躍できるまちづくり」の状況（年齢別：H24-23年度比較）

【現在について】

年齢階級	調査年度	件数(人)	(ポイント)				
			①思う+②やや思う (a)	③どちらともいえない	④あまり思わない+ ⑤思わない (b)	DI (a)-(b)	前年度比
29歳以下	24年度	74	36.5	14.9	48.6	▲12.2	▲9.7
	23年度	78	38.5	20.5	41.0	▲2.5	
30歳代	24年度	70	24.3	31.4	44.3	▲20.0	▲23.3
	23年度	90	40.0	23.3	36.7	3.3	
40歳代	24年度	107	29.0	27.1	43.9	▲15.0	5.0
	23年度	105	25.7	28.6	45.7	▲20.0	
50歳代	24年度	114	30.7	34.2	35.1	▲4.4	5.0
	23年度	116	32.8	25.0	42.2	▲9.4	
60歳以上	24年度	253	41.1	28.1	30.8	10.3	5.1
	23年度	253	39.1	26.9	34.0	5.1	

【以前との比較】

年齢階級	調査年度	件数(人)	(ポイント)				
			①よくなっている+ ②どちらかという よくなっている (a)	③変わっていない	④どちらかという 悪くなっている+ ⑤悪くなっている (b)	DI (a)-(b)	前年度比
29歳以下	24年度	50	40.0	48.0	12.0	28.0	▲1.1
	23年度	48	45.8	37.5	16.7	29.1	
30歳代	24年度	42	26.2	59.5	14.3	11.9	▲27.6
	23年度	71	46.5	46.5	7.0	39.5	
40歳代	24年度	90	38.9	52.2	8.9	30.0	1.4
	23年度	91	36.3	56.0	7.7	28.6	
50歳代	24年度	101	40.6	51.5	7.9	32.7	14.6
	23年度	105	34.3	49.5	16.2	18.1	
60歳以上	24年度	228	43.4	49.1	7.5	36.0	4.8
	23年度	234	41.5	48.3	10.3	31.2	

①29歳以下

- ▶ 「現在について」 DIは、(前年度▲2.5→) ▲12.2 (前年度差 ▲9.7ポイント)で、低下
- ▶ 「以前との比較」 DIは、(前年度 29.1→) 28.0 (前年度差 ▲1.1ポイント)で、変化なし

②30歳代

- ▶ 「現在について」 DIは、(前年度 3.3→) ▲20.0 (前年度差 ▲23.3ポイント)で、大幅に低下
- ▶ 「以前との比較」 DIは、(前年度 39.5→) 11.9 (前年度差 ▲27.6ポイント)で、大幅に低下

③40歳代

- ▶ 「現在について」 DIは、(前年度 ▲20.0→) ▲15.0 (前年度差 5.0ポイント)で、上昇
- ▶ 「以前との比較」 DIは、(前年度 28.6→) 30.0 (前年度差 1.4ポイント)で、変化なし

④50歳代

- ▶ 「現在について」 DIは、(前年度 ▲9.4→) ▲4.4 (前年度差 5.0ポイント)で、上昇
- ▶ 「以前との比較」 DIは、(前年度 18.1→) 32.7 (前年度差 14.6ポイント)で、大幅に上昇

⑤60歳以上

- ▶ 「現在について」 DIは、(前年度 5.1→) 10.3 (前年度差 5.1ポイント)で、上昇
- ▶ 「以前との比較」 DIは、(前年度 31.2→) 36.0 (前年度差 4.8ポイント)で、大きな変化なし

(2) 2-2 安全で安心なまちづくり

【調査結果のポイント】

- ・DI を地域別（任意の6地域）で見ると、「現在について」は、「大津・浦賀」地域以外のすべてで前年度より低下した。地域によって差がみられ、特に、「衣笠地域」は20ポイント近い大幅な低下となった。
- ・「以前との比較」では、3地域で前年度より10ポイントを超える低下となった。特に「西地域」は大幅に低下し、今回の調査で唯一、DIがマイナスとなった。

図表Ⅲ-6 2-2「安全で安心なまちづくり」の状況（地域別：H24-23年度比較）

【現在について】

居住地域	調査年度	件数(人)	(ポイント)				前年度比
			①思う+②やや思う (a)	③どちらともいえない	④あまり思わない+ ⑤思わない (b)	DI (a)-(b)	
追浜・田浦	24年度	75	33.3	24.0	42.7	▲ 9.3	▲ 11.9
	23年度	78	41.0	20.5	38.5	2.6	
本庁・逸見	24年度	136	45.6	25.0	29.4	16.2	▲ 10.2
	23年度	129	53.5	19.4	27.1	26.4	
衣笠	24年度	111	30.6	25.2	44.1	▲ 13.5	▲ 18.7
	23年度	115	41.7	21.7	36.5	5.2	
大津・浦賀	24年度	161	49.1	20.5	30.4	18.6	4.3
	23年度	160	44.4	25.6	30.0	14.4	
久里浜・北下浦	24年度	163	38.0	21.5	40.5	▲ 2.5	▲ 14.0
	23年度	139	45.3	20.9	33.8	11.5	
西	24年度	58	34.5	22.4	43.1	▲ 8.6	▲ 13.8
	23年度	77	40.3	24.7	35.1	5.2	

【以前との比較】

居住地域	調査年度	件数(人)	(ポイント)				前年度比
			①よくなっている+ ②どちらかという よくなっている (a)	③変わっていない	④どちらかという 悪くなっている+ ⑤悪くなっている (b)	DI (a)-(b)	
追浜・田浦	24年度	67	34.3	49.3	16.4	17.9	2.8
	23年度	78	38.4	38.4	23.3	15.1	
本庁・逸見	24年度	124	40.3	47.6	12.1	28.2	▲ 1.2
	23年度	129	42.9	43.7	13.4	29.4	
衣笠	24年度	95	36.8	47.4	15.8	21.1	▲ 3.5
	23年度	115	40.6	43.4	16.0	24.5	
大津・浦賀	24年度	138	45.7	36.2	18.1	27.5	▲ 10.8
	23年度	160	47.9	42.5	9.6	38.4	
久里浜・北下浦	24年度	141	34.0	44.7	21.3	12.8	▲ 12.0
	23年度	139	39.2	46.4	14.4	24.8	
西	24年度	48	27.1	43.8	29.2	▲ 2.1	▲ 17.2
	23年度	77	30.3	54.5	15.2	15.2	

①追浜・田浦

- ▶ 「現在について」DIは、(前年度 2.6→) ▲9.3 (前年度差 ▲11.9 ポイント)で、大幅に低下
- ▶ 「以前との比較」DIは、(前年度 15.1→) 17.9 (前年度差 2.8 ポイント)で、変化なし

②本庁・逸見

- ▶ 「現在について」DIは、(前年度 26.4→) 16.2 (前年度差 ▲10.2 ポイント)で、大幅に低下
- ▶ 「以前との比較」DIは、(前年度 29.4→) 28.2 (前年度差 ▲ 1.2 ポイント)で、変化なし

③衣笠

- ▶ 「現在について」DIは、(前年度 5.2→) ▲13.5 (前年度差 ▲18.7 ポイント)で、大幅に低下
- ▶ 「以前との比較」DIは、(前年度 24.5→) 21.1 (前年度差 ▲ 3.5 ポイント)で、大きな変化なし

④大津・浦賀

- ▶ 「現在について」DIは、(前年度 14.4→) 18.6 (前年度差 4.3 ポイント)で、大きな変化なし
- ▶ 「以前との比較」DIは、(前年度 38.4→) 27.5 (前年度差 ▲10.8 ポイント)で大幅に低下

⑤久里浜・北下浦

- ▶ 「現在について」DIは、(前年度 11.5→) ▲2.5 (前年度差 ▲14.0 ポイント)で、大幅に低下
- ▶ 「以前との比較」DIは、(前年度 24.8→) 12.8 (前年度差 ▲12.0 ポイント)で、大幅に低下

⑥西

- ▶ 「現在について」DIは、(前年度 5.2→) ▲8.6 (前年度差 ▲13.8 ポイント)で、大幅に低下
- ▶ 「以前との比較」DIは、(前年度 15.2→) ▲2.1 (前年度差 ▲17.2 ポイント)で、大幅に低下

4 回答理由分類

2-1 誰もが活躍できるまちづくり

【現在について】

「①思う」「②やや思う」

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
高齢者・障害者施策、支援施策、生涯学習施策の充実	20	22.2
地域活動が盛ん、ボランティア活動等で活躍する人の増加	14	15.6
誰もが活躍できるまちだと思う	9	10.0
病院不足など医療体制が不十分	7	7.8
障害者の就労場所の増加	7	7.8
支援施設の充実	5	5.6
検診事業、AED など医療環境の充実	3	3.3
支援教育の充実	2	2.2
市民が優しい	2	2.2
その他、意見等	14	15.6
限られた人のみである、施設が充実していないなど	7	7.8
	90	100.0

「④あまり思わない」「⑤思わない」

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
経済低迷、雇用の減少、産業の減少	18	16.2
活躍（活動）の場がない、知らない	15	13.5
道路や公共施設のバリアフリー対策が不十分	10	9.0
誰もが活躍できるまちだと思わない	10	9.0
高齢者、障害者の雇用が少ない	9	8.1
他市と比較して遅れている、他市と同じ	9	8.1
“誰もが”ではない、差別がある、行政職員の理解がない	9	8.1
高齢者・障害者施策、支援体制が不十分	8	7.2
病院・病床不足など医療体制が不十分	3	2.7
支援施設が少ない、整備が不十分	3	2.7
その他、意見等	17	15.3
	111	100.0

【以前との比較】

「①よくなっている」「②どちらかというよくなっている」

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
よくなっていると思う	10	13.2
高齢者、障害者施策、支援・生涯学習施策、取り組みの充実	8	10.5
支援教育の充実	8	10.5
ノンステップバスの普及や公共施設のバリアフリー対策の充実	6	7.9
地域活動が盛ん、ボランティア活動等で活躍する人の増加	5	6.6
検診事業、AED など医療環境の充実	4	5.3
支援施設の充実	4	5.3
障害者の就労等増加	4	5.3
活躍できる場の増加	4	5.3
災害対策	4	5.3
情報発信、広報の充実	3	3.9
その他、意見等	12	15.8
信号機のない横断歩道が多いなど	4	5.3
	76	100.0

「④どちらかという悪くなっている」「⑤悪くなっている」

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
経済低迷、雇用の減少、産業の減少、活気がない	8	40.0
よくなっていると思わない、変化がない	3	15.0
市の取り組みが不十分	3	15.0
健診事業、病院不足など医療体制が不十分	2	10.0
その他、意見等	4	20.0
	20	100.0

2-2 安全で安心なまちづくり

【現在について】

「①思う」「②やや思う」

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
犯罪の減少・治安の良さ	20	17.9
防災、耐震、災害、救急対策の充実	20	17.9
自治会、地域団体、ボランティアによる安全対策の充実	18	16.1
環境がよい、安心して生活できる	13	11.6
安全で安心なまちだと思う	5	4.5
交通安全対策、バリアフリー化の推進	5	4.5
災害が少ない	5	4.5
警察・消防の存在、米軍基地や自衛隊の存在	4	3.6
医療体制の充実	3	2.7
その他、意見等	12	10.7
まだ急な崖が多い、時々事件がある、基地があるなど	7	6.3
	112	100.0

「④あまり思わない」「⑤思わない」

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
身近な犯罪の増加、浮浪者、暴力団などの放置、治安の悪化	59	30.6
基地、原子力・核燃料関連施設、自衛隊の存在、弾薬庫がある	39	20.2
通学路・歩道が狭いなど道路整備やバリアフリー化が不十分	13	6.7
防犯、防災対策への取り組みが不十分、依頼しても対応されない	12	6.2
警察の対応の甘さや不祥事による不信、交番の減少	10	5.2
思わない、他市と変わらない、横須賀の地形・印象から	10	5.2
地震など災害発生への不安、東日本大震災関連、活断層がある	8	4.1
自転車を含む交通マナーの悪化、交通規制が不十分	8	4.1
街が暗い、街灯が少ない	7	3.6
医療体制が不十分、福祉面が遅れている	5	2.6
外国人の存在	5	2.6
モラルの低下、子どもの様子を見て	5	2.6
地域関係の希薄化、地域住民の調和がない	4	2.1
情報提供が不十分	3	1.6
その他、意見等	5	2.6
	193	100.0

【以前との比較】

「①よくなっている」「②どちらかというよくなっている」

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
防災、耐震、災害対策や整備の充実	27	28.4
犯罪の減少、治安がよくなっている	15	15.8
よくなっていると思う	12	12.6
自治会、地域団体、ボランティアによる安全対策の充実	9	9.5
通学路等道路整備、バリアフリー化の推進	5	5.3
警察のパトロールの増加、基地、自衛隊の存在	4	4.2
検診事業など医療体制の整備、救急対策の充実	4	4.2
高齢者施策、支援施設の充実	2	2.1
街灯の整備	2	2.1
災害に対する意識の向上	2	2.1
その他、意見等	6	6.3
暴走族が多い、歩車道の区別がない、津波での避難場所が不明など	7	7.4
	95	100.0

「④どちらかという悪くなっている」「⑤悪くなっている」

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
身近な犯罪の増加、浮浪者、暴力団などの放置、治安の悪化	37	52.1
警察活動の低下、交番の減少	6	8.5
モラルの低下、若年者の様子	4	5.6
交通マナーの悪化、暴走族が多い	3	4.2
医療体制が不十分	3	4.2
原子力空母、がれきの受け入れ	2	2.8
変わらない、悪化している	2	2.8
その他、意見等	14	19.7
	71	100.0

生きがいに満ちあふれ命を大切にする都市

【現在について】

「①思う」「②やや思う」

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
高齢者・福祉施策、生涯学習・市民講座等の充実	15	20.8
地域活動、ボランティア活動が盛ん、地域の協力体制がある	8	11.1
生きがいに満ちあふれ命を大切にするまちだと思ふ、住みやすい	7	9.7
防犯、耐震、防災対策や整備の充実、資料から	7	9.7
福祉施設やサービスの充実、自殺対策向上	5	6.9
高齢者、年配者の様子	5	6.9
健診事業、医療体制の整備	4	5.6
図書館、地区センターなど施設の充実	4	5.6
自然環境の充実	2	2.8
その他、意見等	7	9.7
救急医療センターの新港埠頭移転、格差があるなど	8	11.1
	72	100.0

「④あまり思わない」「⑤思わない」

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
思わない、高齢者に生きがいが満ちあふれていない	14	14.4
検診事業、医療体制が不十分	12	12.4
市の取り組み内容をみて、施策への疑問、行政が対応しない	9	9.3
雇用・高齢者雇用の減少、企業の減少、人口の減少	9	9.3
高齢者施策、生涯学習・市民講座、福祉施設が不十分	6	6.2
高齢者の活動場所、機会が少ない	6	6.2
基地、原子力空母、活断層、災害への不安、学校防災が不十分	6	6.2
他市と比較して劣っている、他市と変わらない	5	5.2
地域関係の希薄化、地域活動が盛んではない	4	4.1
警察・消防の活動低下や対応への不信、事件が多い	3	3.1
バリアフリーや道路等の整備不足	3	3.1
格差、差別がある	2	2.1
その他、意見等	17	17.5
凶悪事件がない	1	1.0
	97	100.0

【以前との比較】

「①よくなっている」「②どちらかというよくなっている」

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
高齢者・福祉施策、生涯学習・市民講座等の充実	13	21.7
防災、災害対策が充実している	9	15.0
よくなっていると思う、高齢者の様子をみて	7	11.7
地域活動が盛ん、地域内の協力体制、ボランティア活動がある	6	10.0
健診事業、医療体制の整備	5	8.3
意識向上、サポート充実	4	6.7
施設の充実、バリアフリー化	4	6.7
福祉施設やサービスの充実	3	5.0
都市基盤の整備	2	3.3
その他、意見等	5	8.3
多くの人がそこまで達していないなど	2	3.3
	60	100.0

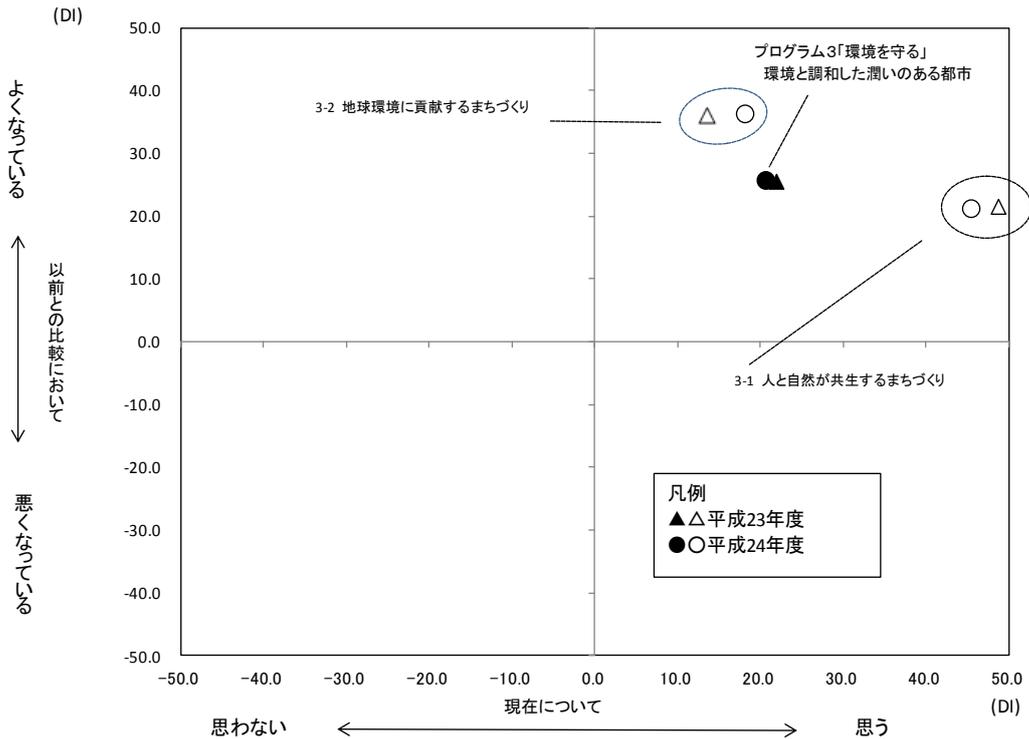
「④どちらかという悪くなっている」「⑤悪くなっている」

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
介護・高齢者施策、生涯学習・市民講座等が不十分	4	14.3
市の取り組み内容をみて	4	14.3
検診事業、医療体制が不十分	4	14.3
犯罪が多い	3	10.7
人口減少	2	7.1
自殺者が多い	2	7.1
その他、意見等	9	32.1
	28	100.0

重点プログラム3 『環境を守る』
～人と自然が共生するまちづくり・地球環境に貢献するまちづくり～

1 プログラム3「環境を守る」の傾向

図表Ⅲ-7 重点プログラム3の目的、取り組みの方向性の状況（H24-23年度比較）



【現在について】

取り組みの方向性・ 実現を目指す都市の姿	調査年度	件数(人)	(ポイント)				DI (a)-(b)	前年度比
			①思う+②やや思う (a)	③どちらとも いえない	④あまり思わない+ ⑤思わない (b)			
(3-1) 人と自然が共生するまちづくり	24年度	727	66.0	13.3	20.6	45.4	▲ 3.3	
	23年度	716	68.2	12.3	19.5	48.7		
(3-2) 地球環境に貢献するまちづくり	24年度	650	45.7	26.8	27.6	18.1	4.6	
	23年度	666	43.4	26.7	29.9	13.5		
環境と調和した潤いのある都市	24年度	663	46.9	26.8	26.3	20.6	▲ 1.3	
	23年度	655	48.2	25.5	26.3	21.9		

【以前との比較】

取り組みの方向性・ 実現を目指す都市の姿	調査年度	件数(人)	(ポイント)				DI (a)-(b)	前年度比
			①よくなっている+ ②どちらかという よくなっている (a)	③変わって いない	④どちらかという 悪くなっている+ ⑤悪くなっている (b)			
(3-1) 人と自然が共生するまちづくり	24年度	631	43.3	34.7	22.0	21.3	▲ 0.3	
	23年度	641	44.1	33.4	22.5	21.6		
(3-2) 地球環境に貢献するまちづくり	24年度	553	44.7	47.0	8.3	36.4	0.3	
	23年度	584	46.2	43.7	10.1	36.1		
環境と調和した潤いのある都市	24年度	558	40.3	45.2	14.5	25.8	0.2	
	23年度	572	41.2	43.2	15.6	25.6		

○プログラム3が実現を目指す「環境と調和した潤いのある都市」の状況について、DIはプラスで高く、前年度との比較でも大きな変化はみられない。当該プログラムのDIは、すべてのプログラムの中で最も高く、実感が得られているといえる。(P5参照)

- ▶ 「現在について」DIは、(前年度 21.9→) 20.6 (前年度差 ▲1.3ポイント)で、変化なし
- ▶ 「以前との比較」DIは、(前年度 25.6→) 25.8 (前年度差 0.2ポイント)で、変化なし

2 取り組みの方向性の傾向（全体）

(1) 3-1 人と自然が共生するまちづくり

DIは「現在について」「以前との比較」ともにプラスで値も高い。また、前年度との比較でも大きな変化がなく、高い実感が得られている。

- ▶ 「現在について」DIは、(前年度 48.7→) 45.4 (前年度差 ▲3.3ポイント)で、大きな変化なし
- ▶ 「以前との比較」DIは、(前年度 21.6→) 21.3 (前年度差 ▲0.3ポイント)で、変化なし

【回答理由】

「①思う」「②やや思う」

- ・ 「自然が多い、気候が良い」など本市の自然環境そのものの良さが多く挙げられている。
- ・ また、「自然環境の整備・保護、環境政策が進んでいる」など市の取り組みの充実も挙げられている。

「④あまり思わない」「⑤思わない」

「宅地造成、マンション乱立、埋め立てなど開発による自然破壊」が最も多く、その他についても、工事等による自然環境の消失という回答が多くみられる。

(2) 3-2 地球環境に貢献するまちづくり

DIは「現在について」「以前との比較」ともにプラスで値も高い。また、前年度との比較でも大きな変化がなく、高い実感が得られている。

- ▶ 「現在について」DIは、(前年度 13.5→) 18.1 (前年度差 4.6ポイント)で、大きな変化なし
- ▶ 「以前との比較」DIは、(前年度 36.1→) 36.4 (前年度差 0.3ポイント)で、変化なし

【回答理由】

「①思う」「②やや思う」

- ・ 「ごみの分別、リサイクルの徹底」が最も多く挙げられている。
- ・ そのほか「環境施策、取り組みの充実、資料をみて」「自然環境の整備・保護・保全が進んでいる」「環境教育の充実」など市の取り組みの充実が多く挙げられている。

「④あまり思わない」「⑤思わない」

- ・「環境施策、取り組みが不十分」「市の取り組みを知らない」など市の取り組みの不十分さが多く挙げられている。
- ・また、3-1と同様に「宅地造成、マンション乱立、埋め立てなど開発による自然破壊」も挙げられている。

3 取り組みの方向性の傾向（3-1地域別／3-2年齢別）

(1) 3-1 人と自然が共生するまちづくり

【調査結果のポイント】

- ・「大津・浦賀」「西」地域のDIは、「現在について」「以前との比較」のいずれもプラスで、その値も前年度より上昇した。
- ・一方、「追浜・田浦」地域のDIは、「現在について」「以前との比較」のいずれも前年度より20ポイント以上のマイナスで、大幅に低下し、実感が大きく変化した。

図表Ⅲ-8 3-1「人と自然が共生するまちづくり」の状況（地域別：H24-23年度比較）

【現在について】

居住地域	調査年度	件数(人)	(ポイント)				
			①思う+②やや思う (a)	③どちらともいえない	④あまり思わない+ ⑤思わない (b)	DI (a)-(b)	前年度比
追浜・田浦	24年度	72	51.4	13.9	34.7	16.7	▲ 24.9
	23年度	77	67.5	6.5	26.0	41.6	
本庁・逸見	24年度	135	65.9	16.3	17.8	48.1	▲ 3.4
	23年度	130	70.0	11.5	18.5	51.5	
衣笠	24年度	107	60.7	12.1	27.1	33.6	▲ 18.1
	23年度	115	68.8	14.3	17.0	51.8	
大津・浦賀	24年度	163	71.2	11.7	17.2	54.0	21.4
	23年度	163	64.4	15.4	20.2	32.6	
久里浜・北下浦	24年度	169	70.4	13.0	16.6	53.8	▲ 4.9
	23年度	143	74.8	9.1	16.1	58.7	
西	24年度	59	69.5	15.3	15.3	54.2	11.9
	23年度	78	65.4	11.5	23.1	42.3	

【以前との比較】

居住地域	調査年度	件数(人)	(ポイント)				
			①よくなっている+ ②どちらかという+ よくなっている (a)	③変わっていない	④どちらかという+ 悪くなっている+ ⑤悪くなっている (b)	DI (a)-(b)	前年度比
追浜・田浦	24年度	66	31.8	36.4	31.8	0.0	▲ 22.4
	23年度	67	46.3	29.9	23.9	22.4	
本庁・逸見	24年度	118	48.3	37.3	14.4	33.9	8.5
	23年度	118	41.5	42.4	16.1	25.4	
衣笠	24年度	93	44.1	26.9	29.0	15.1	▲ 4.4
	23年度	103	41.7	35.9	22.3	19.4	
大津・浦賀	24年度	138	46.4	29.7	23.9	22.5	2.9
	23年度	148	47.3	25.0	27.7	19.6	
久里浜・北下浦	24年度	141	45.4	36.9	17.7	27.7	▲ 4.6
	23年度	124	50.8	30.6	18.5	32.3	
西	24年度	53	32.1	49.1	18.9	13.2	10.4
	23年度	72	30.6	41.7	27.8	2.8	

①追浜・田浦

- ▶ 「現在について」DIは、(前年度 41.6→) 16.7 (前年度差 ▲24.9 ポイント)で、大幅に低下
- ▶ 「以前との比較」DIは、(前年度 22.4→) 0.0 (前年度差 ▲22.4 ポイント)で、大幅に低下

②本庁・逸見

- ▶ 「現在について」DIは、(前年度 51.5→) 48.1 (前年度差 ▲3.4 ポイント)で、大きな変化なし
- ▶ 「以前との比較」DIは、(前年度 25.4→) 33.9 (前年度差 8.5 ポイント)で、上昇

③衣笠

- ▶ 「現在について」DIは、(前年度 51.8→) 33.6 (前年度差 ▲18.1 ポイント)で、大幅に低下
- ▶ 「以前との比較」DIは、(前年度 19.4→) 15.1 (前年度差 ▲4.4 ポイント)で、大きな変化なし

④大津・浦賀

- ▶ 「現在について」DIは、(前年度 32.6→) 54.0 (前年度差 21.4 ポイント)で、大幅に上昇
- ▶ 「以前との比較」DIは、(前年度 19.6→) 22.5 (前年度差 2.9 ポイント)で、変化なし

⑤久里浜・北下浦

- ▶ 「現在について」DIは、(前年度 58.7→) 53.8 (前年度差 ▲4.9 ポイント)で、大きな変化なし
- ▶ 「以前との比較」DIは、(前年度 32.3→) 27.7 (前年度差 ▲4.6 ポイント)で、大きな変化なし

⑥西

- ▶ 「現在について」DIは、(前年度 42.3→) 54.2 (前年度差 11.9 ポイント)で、大幅に上昇
- ▶ 「以前との比較」DIは、(前年度 2.8→) 13.2 (前年度差 10.4 ポイント)で、大幅に上昇

(2) 3-2 地球環境に貢献するまちづくり

【調査結果のポイント】

- ・DIは、30歳代以下と40歳代以上で大きな違いがあり、特に30歳代は、「現在について」「以前との比較」ともに前年度より20ポイントを超える低下となり、実感が大きく変化した。
- ・「以前との比較」のDIは、30歳代以下で前年度より10ポイント以上のマイナスとなったが、各年度のDIはすべてプラスでその値も高く、全体としては良好な状況といえる。

図表Ⅲ-9 3-2「地球環境に貢献するまちづくり」の状況（年齢別：H24-23年度比較）

【現在について】

年齢階級	調査年度	件数(人)	(ポイント)				
			①思う+②やや思う (a)	③どちらともいえない	④あまり思わない+ ⑤思わない (b)	DI (a)-(b)	前年度比
29歳以下	24年度	79	46.8	21.5	31.6	15.2	1.1
	23年度	78	44.9	24.4	30.8	14.1	
30歳代	24年度	68	39.7	19.1	41.2	▲1.5	▲23.0
	23年度	93	50.5	20.4	29.0	21.5	
40歳代	24年度	103	37.9	37.9	24.3	13.6	22.9
	23年度	107	30.8	29.0	40.2	▲9.3	
50歳代	24年度	121	47.1	29.8	23.1	24.0	9.2
	23年度	115	45.2	24.3	30.4	14.8	
60歳以上	24年度	258	49.2	24.8	26.0	23.3	2.6
	23年度	261	45.2	30.3	24.5	20.7	

【以前との比較】

年齢階級	調査年度	件数(人)	(ポイント)				
			①よくなっている+ ②どちらかという よくなっている (a)	③変わっていない	④どちらかという 悪くなっている+ ⑤悪くなっている (b)	DI (a)-(b)	前年度比
29歳以下	24年度	55	41.8	45.5	12.7	29.1	▲14.0
	23年度	51	52.9	37.3	9.8	43.1	
30歳代	24年度	46	28.3	56.5	15.2	13.0	▲26.2
	23年度	79	46.8	45.6	7.6	39.2	
40歳代	24年度	89	37.1	56.2	6.7	30.3	0.1
	23年度	96	39.6	51.0	9.4	30.2	
50歳代	24年度	99	52.5	40.4	7.1	45.5	15.5
	23年度	107	42.1	45.8	12.1	29.9	
60歳以上	24年度	246	48.4	44.7	6.9	41.5	2.2
	23年度	242	50.0	39.3	10.7	39.3	

①29歳以下

- ▶ 「現在について」DIは、(前年度 14.1→) 15.2 (前年度差 1.1ポイント)で、変化なし
- ▶ 「以前との比較」DIは、(前年度 43.1→) 29.1 (前年度差 ▲14.0ポイント)で、大幅に低下

②30歳代

- ▶ 「現在について」DIは、(前年度 21.5→) ▲1.5 (前年度差 ▲23.0ポイント)で、大幅に低下
- ▶ 「以前との比較」DIは、(前年度 39.2→) 13.0 (前年度差 ▲26.2ポイント)で、大幅に低下

③40 歳代

- ▶ 「現在について」 DI は、(前年度 ▲9.3→) 13.6 (前年度差 22.9 ポイント)で、大幅に上昇
- ▶ 「以前との比較」 DI は、(前年度 30.2→) 30.0 (前年度差 0.1 ポイント)で、変化なし

④50 歳代

- ▶ 「現在について」 DI は、(前年度 14.8→) 24.0 (前年度差 9.2 ポイント)で、上昇
- ▶ 「以前との比較」 DI は、(前年度 29.9→) 45.5 (前年度差 15.5 ポイント)で、大幅に上昇

⑤60 歳以上

- ▶ 「現在について」 DI は、(前年度 20.7→) 23.3 (前年度差 2.6 ポイント)で、変化なし
- ▶ 「以前との比較」 DI は、(前年度 39.3→) 41.5 (前年度差 2.2 ポイント)で、変化なし

4 回答理由分類

3-1 人と自然が共生するまちづくり

【現在について】

「①思う」「②やや思う」

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
自然が多い、気候が良い	74	37.2
自然環境の整備・保護、環境政策が進んでいる、資料をみて	48	24.1
共生していると思う	16	8.0
海、山、公園など自然を身近に感じる、触れ合える機会が多い	11	5.5
公園の整備	9	4.5
他市と比較して	7	3.5
自然を生かした施設や取り組みがある	6	3.0
地域活動が盛ん、地域の協力体制がよい	5	2.5
環境教育の充実	2	1.0
その他、意見等	12	6.0
宅地開発による自然破壊、植えてそのままであるなど	9	4.5
	199	100.0

「④あまり思わない」「⑤思わない」

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
宅地造成、マンション乱立、埋め立てなど開発による自然破壊	40	43.5
自然環境の減少、保全が不十分	13	14.1
実感として思えない	7	7.6
自然破壊が進んでいる	6	6.5
海、河川が汚い、ゴミが多い	5	5.4
公園など自然と触れ合える身近な場所、機会の減少	4	4.3
街路樹の伐採、育成のなさ	3	3.3
公共施設建築に伴う自然破壊	3	3.3
自然が人口的、自然を生かしていない	2	2.2
市の取り組みが不十分	2	2.2
他市と変わらない	1	1.1
その他、意見等	5	5.4
他都市と比較してごみの分別、緑地がなされている	1	1.1
	92	100.0

【以前との比較】

「①よくなっている」「②どちらかというよくなっている」

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
自然環境の整備・保護、環境政策が進んでいる	30	42.3
よくなっていると思う	11	15.5
自然と触れ合える機会が多い	5	7.0
自然が多い、気候が良い	5	7.0
地域活動やボランティア活動が盛ん、地域の協力体制がよい	4	5.6
公園の整備	4	5.6
ゴミが少なくなった	4	5.6
自然を生かした施設や取り組みがある	1	1.4
環境教育の充実	1	1.4
その他、意見等	4	5.6
宅地開発による自然破壊など	2	2.8
	71	100.0

「④どちらかという悪くなっている」「⑤悪くなっている」

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
宅地造成、マンション乱立、埋め立てなど開発による自然破壊	50	53.2
自然の減少、自然破壊、保全が不十分	24	25.5
公共施設建築に伴う自然破壊	5	5.3
自然が人口的、自然を生かしていない	4	4.3
よくなっていると思わない	2	2.1
海が汚い、ゴミが多い	2	2.1
公園の減少、街路樹の伐採	2	2.1
その他、意見等	5	5.3
	94	100.0

3-2 地球環境に貢献するまちづくり

【現在について】

「①思う」「②やや思う」

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
分別、リサイクルの徹底	42	40.8
環境施策、取り組みの充実、資料をみて	18	17.5
自然環境の整備・保護・保全が進んでいる	13	12.6
環境教育の充実	8	7.8
地球環境に貢献するまちだと思う	4	3.9
自然環境がよい、都会でも田舎ない	3	2.9
市民の意識向上、地域活動やボランティア活動が盛ん	2	1.9
その他、意見等	7	6.8
まだまだ改善するところがある、エコ袋の徹底が不十分など	6	5.8
	103	100.0

「④あまり思わない」「⑤思わない」

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
環境施策、取り組みが不十分	17	23.0
地球環境に貢献するまちだと思わない、知らない	17	23.0
原子力関係施設や基地がある、放射能への不安	8	10.8
他市と同じ、当然の範囲、特に目立つものがない	5	6.8
市民の意識が低い、モラルの低下	4	5.4
被災地のがれき受け入れ（賛否あり）	4	5.4
自然の減少	3	4.1
宅地造成、マンション乱立、埋め立てなど開発による自然破壊	3	4.1
海、河川が汚くなっている	2	2.7
その他、意見等	10	13.5
ゴミの分別を進めている	1	1.4
	74	100.0

【以前との比較】

「①よくなっている」「②どちらかというよくなっている」

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
環境施策、取り組みの充実	15	23.1
よくなっていると思う、他市と比較してよい	15	23.1
分別、リサイクルの徹底	11	16.9
市民の意識向上、地域活動やボランティア活動が盛ん	8	12.3
環境教育の充実	3	4.6
自然が多い	2	3.1
自然環境の整備・保護・保全が進んでいる	2	3.1
不法投棄、街中のゴミの減少	2	3.1
その他、意見等	1	1.5
ゴミが増える、宅地開発が多いなど	6	9.2
	65	100.0

「④どちらかという悪くなっている」「⑤悪くなっている」

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
宅地造成、マンション乱立、埋め立てなど開発による自然破壊	5	27.8
分別がしっかり行われていない、不法投棄が多い	2	11.1
自然の減少	2	11.1
市民の意識が低い、モラルの低下	2	11.1
原子力空母の存在、被災地のがれき受け入れ	2	11.1
その他、意見等	5	27.8
	18	100.0

環境と調和した潤いある都市

【現在について】

「①思う」「②やや思う」

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
自然が多い	19	19.4
環境と調和した潤いあるまちだと思ふ、他市と比較してよい	18	18.4
自然環境の整備・保護・保全が進んでいる、資料から	17	17.3
環境施策、取り組みが充実している	10	10.2
市民の意識向上、地域活動やボランティア活動が盛ん	5	5.1
自然を生かした施設や取り組みがある	5	5.1
ゴミの分別の徹底	2	2.0
公園の整備	2	2.0
その他、意見等	7	7.1
自然破壊、駅前や街並みを美化すべきなど	13	13.3
	98	100.0

「④あまり思わない」「⑤思わない」

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
環境と調和した潤いあるまちだと思わない	11	18.0
宅地造成、マンション乱立、埋め立てなど開発による自然破壊	8	13.1
環境施策、市の取り組みが不十分	7	11.5
自然の減少、空気が汚い	7	11.5
原子力関係施設や基地がある、被災地のがれき受け入れ	5	8.2
市民の意識が低い、モラルの低下	2	3.3
他市と変わらない	2	3.3
海が汚くなっている	2	3.3
その他、意見等	17	27.9
	61	100.0

【以前との比較】

「①よくなっている」「②どちらかというよくなっている」

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
よくなっていると思う	16	29.6
環境施策、取り組みの充実	6	11.1
市民の意識向上、地域活動やボランティア活動が盛ん	4	7.4
自然環境の整備・保護・保全がなされている、資料から	4	7.4
分別、リサイクルの徹底	3	5.6
自然を生かした施設や取り組みがある	2	3.7
公園の整備	2	3.7
行政の意識向上	2	3.7
その他、意見等	9	16.7
廃棄物条例を厳しく、3R運動の徹底すべきなど	6	11.1
	54	100.0

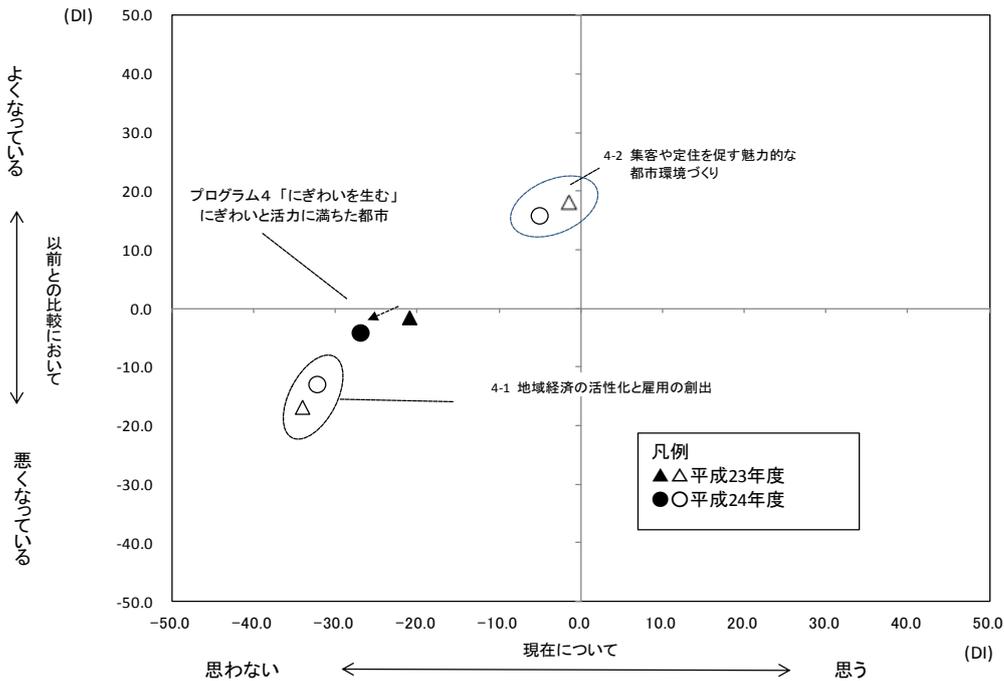
「④どちらかという悪くなっている」「⑤悪くなっている」

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
宅地造成、マンション乱立、埋め立てなど開発による自然破壊	10	27.8
自然の減少、自然破壊	9	25.0
よくなっていると思わない	3	8.3
公共施設建築に伴う自然破壊	2	5.6
その他、意見等	12	33.3
	36	100.0

重点プログラム4 『にぎわいを生む』
～地域経済の活性化と雇用の創出・集客や定住を促す魅力的な都市環境づくり～

1 プログラム4「にぎわいを生む」の傾向

図表Ⅲ－10 重点プログラム4の目的、取り組みの方向性の状況（H24-23年度比較）



【現在について】

取り組みの方向性・実現を目指す都市の姿	調査年度	件数(人)	(ポイント)				DI (a)-(b)	前年度比
			①思う+②やや思う (a)	③どちらともいえない	④あまり思わない+⑤思わない (b)			
(4-1) 地域経済の活性化と雇用の創出	24年度	668	21.2	25.3	53.5	▲ 32.3	1.8	
	23年度	653	20.2	25.6	54.3	▲ 34.1		
(4-2) 集客や定住を促す魅力的な都市環境づくり	24年度	686	33.8	27.3	38.9	▲ 5.1	▲ 3.6	
	23年度	685	37.0	24.5	38.5	▲ 1.5		
にぎわいと活気に満ちた都市	24年度	716	24.4	24.2	51.4	▲ 27.0	▲ 6.0	
	23年度	705	27.1	24.8	48.1	▲ 21.0		

【以前との比較】

取り組みの方向性・実現を目指す都市の姿	調査年度	件数(人)	(ポイント)				DI (a)-(b)	前年度比
			①よくなっている+②どちらかというよくなっている (a)	③変わっていない	④どちらかという悪くなっている+⑤悪くなっている (b)			
(4-1) 地域経済の活性化と雇用の創出	24年度	577	24.8	37.4	37.7	▲ 12.9	3.9	
	23年度	595	22.2	38.8	39.0	▲ 16.8		
(4-2) 集客や定住を促す魅力的な都市環境づくり	24年度	598	35.8	44.3	19.9	15.9	▲ 2.4	
	23年度	609	38.0	42.4	19.7	18.3		
にぎわいと活気に満ちた都市	24年度	635	29.3	37.3	33.4	▲ 4.1	▲ 2.6	
	23年度	629	27.6	43.2	29.1	▲ 1.5		

○プログラム4が実現を目指す「にぎわいと活力に満ちた都市」の状況について、DIは「現在について」で前年度より低下した。また、各年度のDIも、すべてのプログラムの中で最も低く、実感が得られていない状況が続いている。(P5参照)

- ▶ 「現在について」DIは、(前年度 ▲21.0→) ▲27.0 (前年度差 ▲6.0ポイント)で、低下
- ▶ 「以前との比較」DIは、(前年度 ▲1.5→) ▲4.1 (前年度差 ▲2.6ポイント)で、変化なし

2 取り組みの方向性の傾向（全体）

(1) 4-1 地域経済の活性化と雇用の創出

DIは、「現在について」「以前との比較」のいずれも、前年度と大きな変化は見られない。各年度のDIは、すべての取り組みの方向性の中で最も低く、実感が得られていない状況が続いているといえる。(P7、9参照)

- ▶ 「現在について」DIは、(前年度 ▲34.1→) ▲32.3 (前年度差 1.8ポイント)で、変化なし
- ▶ 「以前との比較」DIは、(前年度 ▲16.8→) ▲12.9 (前年度差 3.9ポイント)で、大きな変化なし

【回答理由】

「①思う」「②やや思う」

- ・ 「地産地消や企業立地など市の取り組みの充実」が最も多く挙げられた。
- ・ また、「イベント、軍港めぐり、土産物などの観光事業の充実」「テレビ、雑誌等メディアで取り上げられ、知名度が上がった」など集客関係の施策の充実が挙げられた。

「④あまり思わない」「⑤思わない」

- ・ 「働く場や求人が少ない、失業率が高い」「企業が少ない、企業が転出・撤退している」など雇用情勢等の厳しさが多く挙げられた。
- ・ また、「商業施設の減少」「商店街の空き店舗の増加」「人口減少、買い物客等の市外への流出」などが多く挙げられ、商業を中心に、地域経済の衰退がイメージされている様子がうかがえる。

(2) 4-2 集客や定住を促す魅力的な都市環境づくり

DI は、「現在について」「以前との比較」のいずれも大きな変化は見られない。

「現在について」の DI はマイナスで、実感が得られていない状況が続いているが、「以前との比較」の DI は、各年度とも 15 ポイント以上のプラスになっており、取り組みに対して一応の実感は得られていると判断できる。

- ▶ 「現在について」DI は、(前年度 ▲1.5→) ▲5.1 (前年度差 ▲3.6 ポイント)で、大きな変化なし
- ▶ 「以前との比較」DI は、(前年度 18.3→) 15.9 (前年度差 ▲2.4 ポイント)で、変化なし

【回答理由】

「①思う」「②やや思う」

- ・「イベント、軍港めぐり、土産物など観光事業の充実」「マイホームへの支援など市の取り組みの充実」など市の取り組みが進められていることが多く挙げられた。
- ・そのほか、「住みやすい、生活に支障がなく便利」「豊かな自然環境」など生活利便性や自然環境の良さが挙げられている。

「④あまり思わない」「⑤思わない」

「通勤通学・買い物に不便、利便性がない」「商業施設の減少」「商店街の空き店舗の増加」「人口減少、買い物客等の市外への流出」など、生活利便性に対する不満や、商業を中心とした地域経済の衰退を指摘するものが多くみられる。

3 取り組みの方向性の傾向（4-1職業別／4-2年齢別）

(1) 4-1 地域経済の活性化と雇用の創出

【調査結果のポイント】

- ・職業別で DI をみると、「現在について」「以前との比較」ともに前年度よりマイナスになったのは、「自営、自由業（農林水産業を含む）」で、特に、「以前との比較」で 30 ポイントを超える大幅な低下となった。
- ・これを除き、職業別のほぼすべての項目で、DI は前年度より上昇傾向がみられるが、各年度の DI は、すべてマイナスで、実感が得られていない状況が続いている。

図表Ⅲ－11 4－1 「地域経済の活性化と雇用の創出」の状況（職業別：H24-23 年度比較）

【現在について】

職業	調査年度	件数(人)	(ポイント)				
			①思う+②やや思う (a)	③どちらともいえない	④あまり思わない+ ⑤思わない (b)	DI (a)-(b)	前年度比
自営、自由業(農林漁業を含む)	24年度	38	18.4	15.8	65.8	▲ 47.4	▲ 18.8
	23年度	21	23.8	23.8	52.4	▲ 28.6	
会社員・公務員	24年度	206	18.4	26.2	55.3	▲ 36.9	2.6
	23年度	205	20.0	20.5	59.5	▲ 39.5	
アルバイト・パートタイマー・派遣社員	24年度	92	23.9	23.9	52.2	▲ 28.3	15.9
	23年度	102	17.6	20.6	61.8	▲ 44.1	
家事専業	24年度	109	22.0	29.4	48.6	▲ 26.6	▲ 4.7
	23年度	114	23.7	30.7	45.6	▲ 21.9	
無職	24年度	160	23.8	23.8	52.5	▲ 28.8	1.3
	23年度	153	19.0	32.0	49.0	▲ 30.1	
学生・その他	24年度	46	23.9	28.3	47.8	▲ 23.9	2.6
	23年度	49	24.5	24.5	51.0	▲ 26.5	

【以前との比較】

職業	調査年度	件数(人)	(ポイント)				
			①よくなっている+ ②どちらかという よくなっている (a)	③変わっていない	④どちらかという 悪くなっている+ ⑤悪くなっている (b)	DI (a)-(b)	前年度比
自営、自由業(農林漁業を含む)	24年度	35	20.0	20.0	60.0	▲ 40.0	▲ 30.5
	23年度	21	33.3	23.8	42.9	▲ 9.5	
会社員・公務員	24年度	170	20.6	40.6	38.8	▲ 18.2	0.1
	23年度	185	21.6	38.4	40.0	▲ 18.4	
アルバイト・パートタイマー・派遣社員	24年度	77	26.0	45.5	28.6	▲ 2.6	26.6
	23年度	89	18.0	34.8	47.2	▲ 29.2	
家事専業	24年度	92	28.3	35.9	35.9	▲ 7.6	4.9
	23年度	104	24.0	39.4	36.5	▲ 12.5	
無職	24年度	150	26.7	34.7	38.7	▲ 12.0	0.4
	23年度	145	22.1	43.4	34.5	▲ 12.4	
学生・その他	24年度	35	28.6	37.1	34.3	▲ 5.7	5.6
	23年度	44	25.0	38.6	36.4	▲ 11.4	

①自営、自由業（農林漁業を含む）

- ▶ 「現在について」 DIは、(前年度 ▲28.6→) ▲47.4 (前年度差 ▲18.8ポイント)で、大幅に低下
- ▶ 「以前との比較」 DIは、(前年度 ▲9.5→) ▲40.0 (前年度差 ▲30.5ポイント)で、大幅に低下

②会社員・公務員

- ▶ 「現在について」 DIは、(前年度 ▲39.5→) ▲36.9 (前年度差 2.6ポイント)で、変化なし
- ▶ 「以前との比較」 DIは、(前年度 ▲18.4→) ▲18.2 (前年度差 0.1ポイント)で、変化なし

③アルバイト・パートタイマー・派遣社員

- ▶ 「現在について」 DIは、(前年度 ▲44.1→) ▲28.3 (前年度差 15.9ポイント)で、大幅に上昇
- ▶ 「以前との比較」 DIは、(前年度 ▲29.2→) ▲2.6 (前年度差 26.6ポイント)で、大幅に上昇

④家事専業

- ▶ 「現在について」 DIは、(前年度 ▲21.9→) ▲26.6 (前年度差 ▲4.7ポイント)で、大きな変化なし
- ▶ 「以前との比較」 DIは、(前年度 ▲12.5→) ▲7.6 (前年度差 4.9ポイント)で、大きな変化なし

⑤無職

- ▶ 「現在について」 DI は、(前年度 ▲30.1→) ▲28.8 (前年度差 1.3 ポイント)で、変化なし
- ▶ 「以前との比較」 DI は、(前年度 ▲12.4→) ▲12.0 (前年度差 0.4 ポイント)で、変化なし

⑥学生・その他

- ▶ 「現在について」 DI は、(前年度 ▲26.5→) ▲23.9 (前年度差 2.6 ポイント)で、変化なし
- ▶ 「以前との比較」 DI は、(前年度 ▲11.4→) ▲5.7 (前年度差 5.6 ポイント)で、上昇

(2) 4-2 集客や定住を促す魅力的な都市環境づくり

【調査結果のポイント】

- ・ DI は、30 歳代で「現在について」「以前との比較」ともに前年度より大きく低下した。一方、29 歳以下では上昇しており、若年層の中で実感に違いがある結果となった。
- ・ 「以前との比較」の DI は、30 歳代、50 歳代で前年度よりマイナスになったが、各年度の DI はすべてプラスで、その値も 10 ポイントを超えており、一応の実感は得られているという見方ができる。

図表Ⅲ-12 4-2 「集客や定住を促す魅力的な都市環境づくり」の状況 (年齢別：H24-23 年度比較)

【現在について】

年齢階級	調査年度	件数(人)	(ポイント)				前年度比
			①思う+②やや思う (a)	③どちらともいえない	④あまり思わない+⑤思わない (b)	DI (a)-(b)	
29歳以下	24年度	77	41.6	20.8	37.7	3.9	9.1
	23年度	77	37.7	19.5	42.9	▲ 5.2	
30歳代	24年度	80	40.0	21.3	38.8	1.3	▲ 24.8
	23年度	100	55.0	16.0	29.0	26.0	
40歳代	24年度	111	34.2	27.0	38.7	▲ 4.5	▲ 1.0
	23年度	115	36.5	23.5	40.0	▲ 3.5	
50歳代	24年度	121	38.0	25.6	36.4	1.7	6.7
	23年度	118	33.9	27.1	39.0	▲ 5.1	
60歳以上	24年度	276	28.3	31.2	40.6	▲ 12.3	▲ 4.0
	23年度	264	31.8	28.0	40.2	▲ 8.3	

【以前との比較】

年齢階級	調査年度	件数(人)	(ポイント)				前年度比
			①よくなっている+②どちらかというよくなっている (a)	③変わっていない	④どちらかという悪くなっている+⑤悪くなっている (b)	DI (a)-(b)	
29歳以下	24年度	59	44.1	35.6	20.3	23.7	0.9
	23年度	57	42.1	38.6	19.3	22.8	
30歳代	24年度	55	38.2	45.5	16.4	21.8	▲ 19.1
	23年度	88	54.5	31.8	13.6	40.9	
40歳代	24年度	97	35.1	45.4	19.6	15.5	4.0
	23年度	96	33.3	44.8	21.9	11.5	
50歳代	24年度	105	38.1	39.0	22.9	15.2	▲ 1.1
	23年度	116	35.3	45.7	19.0	16.4	
60歳以上	24年度	265	33.6	46.8	19.6	14.0	1.3
	23年度	244	34.4	43.9	21.7	12.7	

①29 歳以下

- ▶ 「現在について」DIは、(前年度 ▲5.2→) 3.9 (前年度差 9.1 ポイント)で、上昇
- ▶ 「以前との比較」DIは、(前年度 22.8→) 23.7 (前年度差 0.9 ポイント)で、変化なし

②30 歳代

- ▶ 「現在について」DIは、(前年度 26.0→) 1.3 (前年度差 ▲24.8 ポイント)で、大幅に低下
- ▶ 「以前との比較」DIは、(前年度 40.9→) 21.8 (前年度差 ▲19.1 ポイント)で、大幅に低下

③40 歳代

- ▶ 「現在について」DIは、(前年度 ▲3.5→) ▲4.5 (前年度差 ▲1.0 ポイント)で、変化なし
- ▶ 「以前との比較」DIは、(前年度 11.5→) 15.5 (前年度差 4.0 ポイント)で、大きな変化なし

④50 歳代

- ▶ 「現在について」DIは、(前年度 ▲5.1→) 1.7 (前年度差 6.7 ポイント)で、上昇
- ▶ 「以前との比較」DIは、(前年度 16.4→) 15.2 (前年度差 ▲1.1 ポイント)で、変化なし

⑤60 歳以上

- ▶ 「現在について」DIは、(前年度 ▲8.3→) ▲12.3 (前年度差 ▲4.0 ポイント)で、大きな変化なし
- ▶ 「以前との比較」DIは、(前年度 12.7→) 14.0 (前年度差 1.3 ポイント)で、変化なし

4 回答理由分類

4-1 地域経済の活性化と雇用の創出

【現在について】

「①思う」「②やや思う」

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
地産地消や企業立地など市の取り組みの充実	25	43.1
イベント、軍港めぐり、土産物などの観光事業の充実	14	24.1
地域経済の活性化と雇用の創出が図られていると思う	4	6.9
テレビ、雑誌等メディアで取り上げられることが多い	3	5.2
活気がある、地域の活性化	2	3.4
基地の存在を生かしている	2	3.4
その他、意見等	7	12.1
雇用が増えたという実感がない	1	1.7
	58	100.0

「④あまり思わない」「⑤思わない」

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
働く場や求人が少ない、失業率が高い	55	30.4
企業が少ない、企業が転出・撤退している	34	18.8
商業施設の減少、経済枯渇、産業の減少、国全体の景気の悪化	21	11.6
商店街の空き店舗の増加、地域経済の衰退	19	10.5
市の取り組みの効果が無い、不十分、基地に頼りすぎている	14	7.7
人口減少、買い物客等の市外への流出	7	3.9
地域経済の活性化と雇用の創出が図られていない	7	3.9
まちなにぎわいや活気を感じない	5	2.8
イベントが少ない、PR不足	2	1.1
他市と変わらない	2	1.1
その他、意見等	15	8.3
	181	100.0

【以前との比較】

「①よくなっている」「②どちらかというよくなっている」

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
地産地消や企業立地など市の取り組みの充実	14	33.3
イベント、軍港めぐり、土産物などの観光事業の充実	9	21.4
よくなっていると思う	5	11.9
テレビ、雑誌等メディアで取り上げられ、知名度が上がった	3	7.1
活気がある、地域の活性化	2	4.8
新店舗の増加、大型店舗の進出	2	4.8
PR向上	2	4.8
その他、意見等	3	7.1
昔ながらの商店街が寂しい、若者の働く場所がない	2	4.8
	42	100.0

「④どちらかという悪くなっている」「⑤悪くなっている」

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
働く場や求人が少ない、失業率が高い	17	18.5
商店街の空き店舗の増加、地域経済の衰退	17	18.5
商業施設の減少、経済枯渇、産業の減少、国全体の景気の悪化	12	13.0
企業が少ない、企業が転出・撤退している	11	12.0
人口減少、買い物客等の市外への流出	9	9.8
まちなにぎわいや活気を感じない	6	6.5
よくなっていると思わない	4	4.3
不況、社会情勢、国全体の問題	4	4.3
市の取り組みの効果がない、魅力的なイベントがない	2	2.2
その他、意見等	10	10.9
	92	100.0

4-2 集客や定住を促す魅力的な都市環境づくり

【現在について】

「①思う」「②やや思う」

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
イベント、軍港めぐり、土産物など観光事業の充実	23	22.1
マイホームへの支援など市の取り組みの充実	13	12.5
マンション、住宅地の開発が進んでいる	9	8.7
集客や定住を促す魅力的な都市環境づくりが進められているまちだと思う	8	7.7
住みやすい、生活に支障がなく便利	6	5.8
街や住環境、生活基盤の整備、美化の推進	6	5.8
観光できる自然や施設がある	6	5.8
豊かな自然環境	5	4.8
都心に近い、通勤等に便利	5	4.8
街が明るく開放的である、地域の活性化がみられる	3	2.9
テレビ、雑誌等メディアで取り上げられることが多い、PR向上	3	2.9
その他、意見等	12	11.5
交通の便が悪い、魅力的なイベントが少ない、PR不足など	5	4.8
	104	100.0

「④あまり思わない」「⑤思わない」

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
通勤通学・買い物に不便、利便性がない	16	12.4
集客や定住を促す魅力的な都市環境づくりが進められているまちだと思わない	14	10.9
魅力的な商業施設がない、商店街の衰退	13	10.1
まちに活気がなく、人口、買い物客等が市外に流出している	12	9.3
集客、イベント、企業誘致、定住、子育て施策が不十分	11	8.5
魅力的な観光資源や施設が少ない	9	7.0
観光、集客が弱い、PR不足	5	3.9
税金が高い、不動産や物価等が高い	5	3.9
他市と比較して、魅力や効果がない、遅れている、変わらない	4	3.1
基地や自衛隊の存在	4	3.1
雇用の減少、企業の減少	4	3.1
その他、意見等	32	24.8
	129	100.0

【以前との比較】

「①よくなっている」「②どちらかというよくなっている」

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
よくなっていると思う	9	15.8
定住や集客、観光に対する市の取り組みの効果が感じられる	8	14.0
市街地・住宅地の整備、都市基盤の整備が進んでいる	6	10.5
テレビ、雑誌等メディアで取り上げられることが多い、PR向上	5	8.8
イベント、軍港めぐりなどの観光事業の充実	3	5.3
街の美化が進んできた	2	3.5
その他、意見等	16	28.1
イベント情報やアピール不足、保育園の定員が少ないなど	8	14.0
	57	100.0

「④どちらかという悪くなっている」「⑤悪くなっている」

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
人口、買い物客が市外に流出している、雇用の減少、企業の減少	10	23.8
定住につながる施策が不十分、効果がない	7	16.7
商業施設の閉鎖、商店街の衰退	4	9.5
自然の減少、乱開発による自然破壊	4	9.5
環境と調和した潤いあるまちだと思わない	4	9.5
買い物で交通が不便など定住化が進まない	3	7.1
国全体が悪い	2	4.8
その他、意見等	8	19.0
	42	100.0

にぎわいと活力に満ちた都市

【現在について】

「①思う」「②やや思う」

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
イベント、軍港めぐり、土産物など観光事業の充実	26	35.1
にぎわいと活力に満ちたまちだと思ふ	11	14.9
まちがにぎやか、人が多いなど活気がある、地域の活性化	6	8.1
地産地消など市の取り組みの充実	6	8.1
魅力的な観光資源や施設がある	5	6.8
テレビ、雑誌等メディアで取り上げられることが多い	2	2.7
魅力的な商業施設がある、商店街がにぎやか	2	2.7
PR向上	2	2.7
その他、意見等	11	14.9
軍港めぐり等の観光費用が高いなど	3	4.1
	74	100.0

「④あまり思わない」「⑤思わない」

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
商店街の空き店舗の増加、商業施設の減少、景気が悪い	31	20.4
人口減少、買い物客等が流出している、雇用の減少、企業の減少	23	15.1
中心市街地の空洞化、衰退	20	13.2
まちに活気やにぎわいを感ぜない、暗い、衰退している	18	11.8
にぎわいと活力に満ちたまちだと思わない	11	7.2
集客、定住、子育て施策など市の取り組みが不十分、PR不足	9	5.9
少子高齢化	7	4.6
通勤通学・買い物で交通が不便等、利便性が悪い	6	3.9
イベントが少ない、新しいものがない	4	2.6
地域差がある、市全体ではない	4	2.6
他市と比較して劣っている、変わらない、魅力的なまちではない	3	2.0
魅力的な観光資源、施設が少ない、利点が活かされていない	2	1.3
その他、意見等	14	9.2
産業の活性化に努力がみられる	1	0.7
	152	100.0

【以前との比較】

「①よくなっている」「②どちらかというよくなっている」

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
イベント、軍港めぐり、土産物など観光事業の充実	19	32.2
まちがにぎやか、人が多いなど活気がある、地域の活性化	9	15.3
よくなっていると思う	5	8.5
環境や交通、都市基盤の整備	4	6.8
テレビ、雑誌等メディアで取り上げられることが多い	3	5.1
大型店舗の増加、商店街の空き店舗の減少	2	3.4
魅力的な観光施設がある	2	3.4
その他、意見等	10	16.9
PR不足、どれも中途半端、特性を生かしていないなど	5	8.5
	59	100.0

「④どちらかという悪くなっている」「⑤悪くなっている」

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
商店街の空き店舗の増加、商業施設の閉鎖・減少、景気が悪い	32	37.2
人口減少、買い物客等が市外に流出している、企業の減少	14	16.3
中心市街地の空洞化、衰退	12	14.0
よくなっていると思わない	6	7.0
まちににぎわいや活気を感じない、人出の減少	5	5.8
少子高齢化	4	4.7
市の取り組みが不十分、施策が目先のことだけである	2	2.3
にぎわいが一部の地域に集中している	2	2.3
その他、意見等	9	10.5
	86	100.0

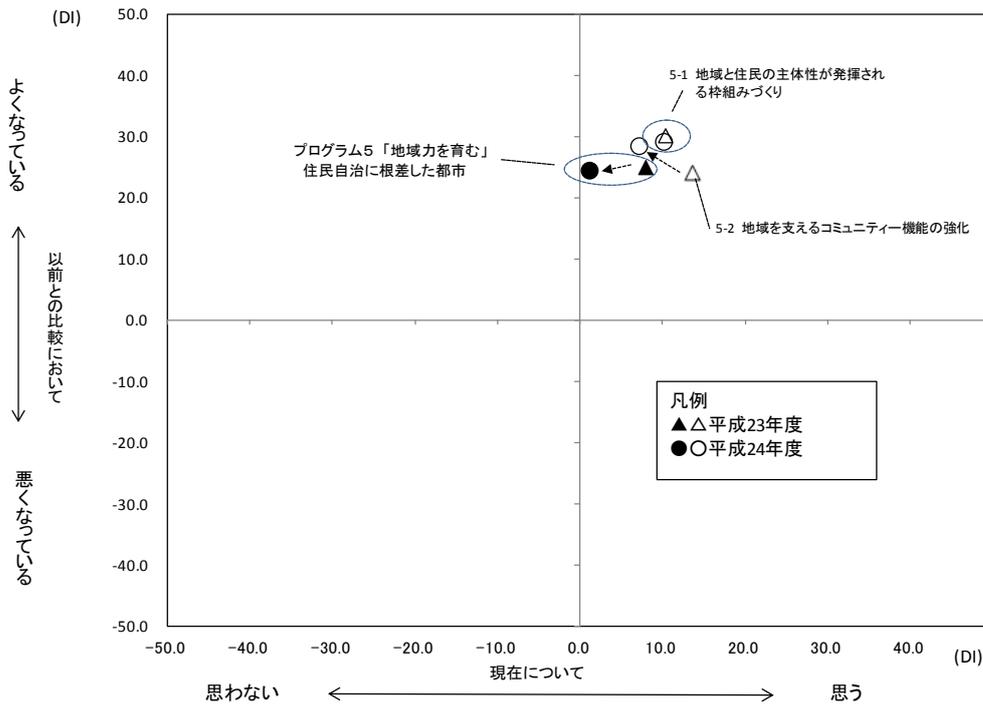
重点プログラム5 『地域力を育む』

～地域と住民の主体性が発揮できる枠組みづくり・

地域を支えるコミュニティー機能の強化～

1 プログラム5「地域力を育む」の傾向

図表Ⅲ-13 重点プログラム5の目的、取り組みの方向性の状況（H24-23年度比較）



【現在について】

取り組みの方向性・ 実現を目指す都市の姿	調査年度	件数(人)	(ポイント)				
			①思う+②やや思う (a)	③どちらとも いえない	④あまり思わない+ ⑤思わない (b)	DI (a)-(b)	前年度比
(5-1) 地域と住民の主体性が 発揮される枠組みづくり	24年度	597	39.9	30.3	29.8	10.1	▲ 0.2
	23年度	599	40.8	28.7	30.5	10.3	
(5-2) 地域を支えるコミュニティー機能の 強化	24年度	625	39.8	27.5	32.7	7.1	▲ 6.5
	23年度	630	42.0	29.5	28.4	13.6	
住民自治に根差した都市	24年度	602	34.5	32.1	33.4	1.1	▲ 6.8
	23年度	586	39.6	28.7	31.7	7.9	

【以前との比較】

取り組みの方向性・ 実現を目指す都市の姿	調査年度	件数(人)	(ポイント)				
			①よくなっている+ ②どちらかという よくなっている (a)	③変わって いない	④どちらかという 悪くなっている+ ⑤悪くなっている (b)	DI (a)-(b)	前年度比
(5-1) 地域と住民の主体性が 発揮される枠組みづくり	24年度	514	38.7	51.8	9.5	29.2	▲ 1.0
	23年度	516	39.1	51.9	8.9	30.2	
(5-2) 地域を支えるコミュニティー機能の 強化	24年度	532	39.8	48.9	11.3	28.5	4.3
	23年度	536	36.2	51.9	12.0	24.2	
住民自治に根差した都市	24年度	512	34.4	55.7	9.9	24.5	▲ 0.5
	23年度	503	35.4	54.3	10.4	25.0	

○プログラム5が実現を目指す「住民自治に根差した都市」の状況について、「以前との比較」のDIは、前年度と変化はなく、各年度の値も20ポイントを超えていることから、一応の実感は得られているという見方ができる。

他方、「現在について」のDIはプラスだが、前年度より低下しており、その値が低いことから留意する必要がある。

- ▶ 「現在について」DIは、(前年度 7.9→) 1.1 (前年度差 ▲6.8ポイント)で、低下
- ▶ 「以前との比較」DIは、(前年度 25.0→) 24.5 (前年度差 ▲0.5ポイント)で、変化なし

2 取り組みの方向性の傾向（全体）

(1) 5-1 地域と住民の主体性が発揮される枠組みづくり

DIは「現在について」「以前との比較」とともに前年度と変化はみられない。

各年度のDIはすべてプラスで、良好な状況を維持しているといえる。

- ▶ 「現在について」DIは、(前年度 10.3→) 10.1 (前年度差 ▲0.2ポイント)で、変化なし
- ▶ 「以前との比較」DIは、(前年度 30.2→) 29.2 (前年度差 ▲1.0ポイント)で、変化なし

【回答理由】

「①思う」「②やや思う」

- ・「自治会、子ども見守り隊、クリーン活動など地域主体活動が盛ん」であることが最も多く挙げられている。
- ・これ以外では、「自治基本条例など市の取り組みの充実」など市の取り組みが進められていることが挙げられている。

「④あまり思わない」「⑤思わない」

- ・「市の取り組みが不十分、PR不足」など市の取り組み不足が挙げられている。
- ・これ以外では「活動の低下、地域力の衰退」「地域住民の連携不足、他者との関わりが希薄、無関心な人が多い」など地域の現状を指摘する回答も多くみられる。

(2) 5-2 地域を支えるコミュニティ機能の強化

DIは、「現在について」で前年度より低下したものの、「以前との比較」では大きな変化は見られない。また、各年度の値はいずれもプラスで良好な状況を維持しているといえる。しかし、「現在について」のDIがほぼ半減していることには留意する必要がある。

- ▶ 「現在について」DIは、(前年度 13.6→) 7.1 (前年度差 ▲6.5ポイント)で、低下
- ▶ 「以前との比較」DIは、(前年度 24.2→) 28.5 (前年度差 ▲4.3ポイント)で、大きな変化なし

【回答理由】

「①思う」「②やや思う」

- ・「自治会、子ども見守り隊、クリーン活動など地域主体活動が盛ん」「地域が団結している、地域のつながりが強い」など地域の現状を踏まえたことが多く挙げられている。
- ・これ以外では、「コミュニティセンターの設置、活用、施設の増加」など市の取り組みが進められていることが挙げられている。

「④あまり思わない」「⑤思わない」

- ・「市の取り組みが不十分、PR不足」「市と地域の連携が弱い、市の姿勢が積極的ではない」など市の取り組みの不足感が挙げられている。
- ・また、「活動の低下、地域力の衰退」「地域住民の連携不足、他者との関わりが希薄、無関心な人が多い」など地域の現状を挙げる回答も多くみられる。

3 取り組みの方向性の傾向（5-1地域別／5-2年齢別）

（1）5-1 地域と住民の主体性が発揮される枠組みづくり

【調査結果のポイント】

- ・地域別（任意の6地域）のDIをみると、「現在について」で、前年度より上昇したのは「大津・浦賀」地域のみで、他の地域はすべてマイナスとなった。
- ・「現在について」「以前との比較」ともにDIが低下した地域は、「本庁・逸見」「久里浜・北下浦」「西」地域で、中でも「西」地域は、「現在について」で、各年度ともマイナスとなった。

図表Ⅲ-14 5-1 「地域と住民の主体性が発揮される枠組みづくり」の状況（地域別：H24-23年度比較）

【現在について】

居住地域	調査年度	件数(人)	(ポイント)				
			①思う+②やや思う (a)	③どちらともいえない	④あまり思わない+ ⑤思わない (b)	DI (a)-(b)	前年度比
追浜・田浦	24年度	59	37.3	28.8	33.9	3.4	▲ 9.3
	23年度	63	41.3	30.2	28.6	12.7	
本庁・逸見	24年度	109	36.7	33.9	29.4	7.3	▲ 6.2
	23年度	111	41.4	30.6	27.9	13.5	
衣笠	24年度	87	36.8	28.7	34.5	2.3	▲ 6.7
	23年度	100	40.0	29.0	31.0	9.0	
大津・浦賀	24年度	135	53.3	27.4	19.3	34.1	21.8
	23年度	139	40.3	31.7	28.1	12.2	
久里浜・北下浦	24年度	137	36.5	32.8	30.7	5.8	▲ 8.0
	23年度	116	46.6	20.7	32.8	13.8	
西	24年度	52	30.8	26.9	42.3	▲ 11.5	▲ 0.1
	23年度	61	29.5	29.5	41.0	▲ 11.5	

【以前との比較】

居住地域	調査年度	件数(人)	(ポイント)				
			①よくなっている+ ②どちらかという よくなっている (a)	③変わっていない	④どちらかという 悪くなっている+ ⑤悪くなっている (b)	DI (a)-(b)	前年度比
追浜・田浦	24年度	52	38.5	59.6	1.9	36.5	5.9
	23年度	49	40.8	49.0	10.2	30.6	
本庁・逸見	24年度	93	34.4	54.8	10.8	23.7	▲ 7.9
	23年度	95	37.9	55.8	6.3	31.6	
衣笠	24年度	78	39.7	44.9	15.4	24.4	0.2
	23年度	91	36.3	51.6	12.1	24.2	
大津・浦賀	24年度	116	47.4	45.7	6.9	40.5	4.5
	23年度	125	44.0	48.0	8.0	36.0	
久里浜・北下浦	24年度	112	40.2	50.9	8.9	31.3	▲ 2.4
	23年度	98	39.8	54.1	6.1	33.7	
西	24年度	49	24.5	61.2	14.3	10.2	▲ 7.4
	23年度	51	33.3	51.0	15.7	17.6	

①追浜・田浦

- ▶ 「現在について」DIは、(前年度 12.7→) 3.4 (前年度差 ▲9.3ポイント)で、低下
- ▶ 「以前との比較」DIは、(前年度 30.6→) 36.5 (前年度差 5.9ポイント)で、上昇

②本庁・逸見

- ▶ 「現在について」DIは、(前年度 13.5→) 7.3 (前年度差 ▲6.2ポイント)で、低下
- ▶ 「以前との比較」DIは、(前年度 31.6→) 23.7 (前年度差 ▲7.9ポイント)で、低下

③衣笠

- ▶ 「現在について」DIは、(前年度 9.0→) 2.3 (前年度差 ▲6.7ポイント)で、低下
- ▶ 「以前との比較」DIは、(前年度 24.2→) 24.4 (前年度差 0.2ポイント)で、変化なし

④大津・浦賀

- ▶ 「現在について」DIは、(前年度 12.2→) 34.1 (前年度差 21.8ポイント)で、大幅に上昇
- ▶ 「以前との比較」DIは、(前年度 36.0→) 40.5 (前年度差 4.5ポイント)で、大きな変化なし

⑤久里浜・北下浦

- ▶ 「現在について」 DI は、(前年度 13.8→) 5.8 (前年度差 ▲8.0 ポイント)で、低下
- ▶ 「以前との比較」 DI は、(前年度 33.7→) 31.3 (前年度差 ▲2.4 ポイント)で、変化なし

⑥西

- ▶ 「現在について」 DI は、(前年度 ▲11.5→) ▲11.5 (前年度差 0.1 ポイント)で、変化なし
- ▶ 「以前との比較」 DI は、(前年度 17.6→) 10.2 (前年度差 ▲7.4 ポイント)で、低下

(2) 5-2 地域を支えるコミュニティ機能の強化

【調査結果のポイント】

- ・「現在について」「以前との比較」ともに、DI が前年度より上昇したのは40歳代のみとなった。一方、30歳代は、「現在について」「以前との比較」ともに、大幅に低下した。30歳代と40歳代で、実感に大きな違いがみられる。
- ・DI は、各年度ともに40歳代以上で高く、特にこの年齢層から実感が得られているという見方ができる。

図表Ⅲ-15 5-2 「地域を支えるコミュニティ機能の強化」の状況(年齢別：H24-23年度比較)

【現在について】

年齢階級	調査年度	件数(人)					(ポイント)	
			①思う+②やや思う (a)	③どちらともいえない	④あまり思わない+ ⑤思わない (b)	DI (a)-(b)	前年度比	
29歳以下	24年度	66	37.9	25.8	36.4	1.5	▲ 9.9	
	23年度	70	42.9	25.7	31.4	11.4		
30歳代	24年度	67	25.4	32.8	41.8	▲ 16.4	▲ 21.4	
	23年度	81	40.7	23.5	35.8	4.9		
40歳代	24年度	98	40.8	28.6	30.6	10.2	5.1	
	23年度	98	37.8	29.6	32.7	5.1		
50歳代	24年度	113	40.7	31.9	27.4	13.3	▲ 0.5	
	23年度	116	40.5	32.8	26.7	13.8		
60歳以上	24年度	262	43.9	24.4	31.7	12.2	▲ 8.2	
	23年度	255	44.7	31.0	24.3	20.4		

【以前との比較】

年齢階級	調査年度	件数(人)					(ポイント)	
			①よくなっている+ ②どちらかという よくなっている (a)	③変わっていない	④どちらかという 悪くなっている+ ⑤悪くなっている (b)	DI (a)-(b)	前年度比	
29歳以下	24年度	44	31.8	56.8	11.4	20.5	9.1	
	23年度	44	29.5	52.3	18.2	11.4		
30歳代	24年度	47	25.5	51.1	23.4	2.1	▲ 13.3	
	23年度	65	32.3	50.8	16.9	15.4		
40歳代	24年度	78	34.6	48.7	16.7	17.9	3.1	
	23年度	81	28.4	58.0	13.6	14.8		
50歳代	24年度	100	43.0	49.0	8.0	35.0	21.1	
	23年度	101	26.7	60.4	12.9	13.9		
60歳以上	24年度	247	44.1	47.0	8.9	35.2	▲ 1.3	
	23年度	238	45.4	45.8	8.8	36.6		

①29 歳以下

- ▶ 「現在について」 DI は、(前年度 11.4→) 1.5 (前年度差 ▲9.9 ポイント)で、低下
- ▶ 「以前との比較」 DI は、(前年度 11.4→) 20.5 (前年度差 9.1 ポイント)で、上昇

②30 歳代

- ▶ 「現在について」 DI は、(前年度 4.9→)▲16.4 (前年度差 ▲21.4 ポイント)で、大幅に低下
- ▶ 「以前との比較」 DI は、(前年度 15.4→) 2.1 (前年度差 ▲13.3 ポイント)で、大幅に低下

③40 歳代

- ▶ 「現在について」 DI は、(前年度 5.1→) 10.2 (前年度差 5.1 ポイント)で、上昇
- ▶ 「以前との比較」 DI は、(前年度 14.8→) 17.9 (前年度差 3.1 ポイント)で、大きな変化なし

④50 歳代

- ▶ 「現在について」 DI は、(前年度 13.8→) 13.3 (前年度差 ▲0.5 ポイント)で、変化なし
- ▶ 「以前との比較」 DI は、(前年度 13.9→) 35.0 (前年度差 21.1 ポイント)で大幅に上昇

⑤60 歳以上

- ▶ 「現在について」 DI は、(前年度 20.4→) 12.2 (前年度差 ▲8.2 ポイント)で、低下
- ▶ 「以前との比較」 DI は、(前年度 36.6→) 35.2 (前年度差 ▲1.3 ポイント)で、変化なし

4 回答理由分類

5-1 地域と住民の主体性が発揮される枠組みづくり

【現在について】

「①思う」「②やや思う」

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
自治会、子ども見守り隊、クリーン活動など地域主体活動が盛ん	50	60.2
進められていると思う	8	9.6
市の取り組みの充実、市政に地域の声が反映されている	3	3.6
市民団体や活動する人の増加、意識の向上	3	3.6
コミュニティセンターの設置、活用	2	2.4
本市民アンケートに参加している	2	2.4
街や公園がきれい、清掃が行き届いている	2	2.4
その他、意見等	7	8.4
ボランティアに頼りすぎ、若年者には重い、主体性がないなど	6	7.2
	83	100.0

「④あまり思わない」「⑤思わない」

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
市の取り組みが不十分、PR不足	12	16.7
進められていると思わない	9	12.5
非活性、温度が低い、活動の低下・狭小、地域力の衰退	9	12.5
地域住民の連携不足、他者との関わりが希薄、無関心な人が多い	7	9.7
一部の人たちの取り組みになっている、意見が通らない	7	9.7
住民の主体性を感じない、地域差がある	5	6.9
市と地域の連携が弱い、市の姿勢が積極的ではない	4	5.6
少子高齢化の進展による活動の衰退、若い人の参加が少ない	3	4.2
一体的な活動が負担にもなっている	2	2.8
基地がある	2	2.8
その他、意見等	12	16.7
	72	100.0

【以前との比較】

「①よくなっている」「②どちらかというよくなっている」

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
自治会、子ども見守り隊、クリーン活動など地域主体活動が盛ん	16	36.4
自治基本条例など市の取り組みの充実	6	13.6
よくなっていると思う	5	11.4
活動する人が増えた、意識が向上した	3	6.8
その他、意見等	11	25.0
若年者の参加が少ない、町内会内が非統制で活動が進まないなど	3	6.8
	44	100.0

「④どちらかという悪くなっている」「⑤悪くなっている」

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
市の取り組みが後手、フォローがない、PR不足	5	26.3
よくなっていると思わない	4	21.1
住民の主体性を感じない	2	10.5
無関心な人が多い	2	10.5
その他、意見等	6	31.6
	19	100.0

5-2 地域を支えるコミュニティー機能の強化

【現在について】

「①思う」「②やや思う」

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
自治会、子ども見守り隊、クリーン活動など地域主体活動が盛ん	28	36.8
地域を支えるコミュニティー機能が強化されていると思う	13	17.1
コミュニティーセンターの設置、活用、施設の増加	12	15.8
地域が団結している、地域のつながりが強い	7	9.2
防災メールなど市の取り組みの充実	5	6.6
その他、意見等	4	5.3
コミュニケーションの減少、経済的余裕がないと無理など	7	9.2
	76	100.0

「④あまり思わない」「⑤思わない」

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
地域を支えるコミュニティー機能が強化されていると思わない	15	19.7
市の取り組みが不十分	12	15.8
役員や一部の人たちの取り組みになっている	8	10.5
非活性、温度が低い、活動の低下・狭小	8	10.5
地域住民の連携がない、他者との関わりが希薄になっている	7	9.2
地域差がある	5	6.6
少子高齢化の進展による活動の衰退、若年者の参加が少ない	5	6.6
無関心な人が多い	2	2.6
その他、意見等	13	17.1
行政センターからのお知らせが届く	1	1.3
	76	100.0

【以前との比較】

「①よくなっている」「②どちらかというよくなっている」

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
自治会、クリーン活動など地域主体活動が盛ん	15	26.3
よくなっていると思う	10	17.5
行政が協力的になった、取り組みの充実	8	14.0
コミュニティセンターの設置、活用、充実	5	8.8
活動する人が増えた、意識が向上した	2	3.5
その他、意見等	6	10.5
自分勝手な人が多くなったなど	2	3.5
	48	84.2

「④どちらかという悪くなっている」「⑤悪くなっている」

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
少子高齢化の進展による活動の衰退、若年者の参加が少ない	5	20.0
よくなっていると思わない	4	16.0
無関心な人が多い	4	16.0
地域住民の連携がない、他者との関わりの希薄化	3	12.0
市の方針に具体性がない、広報発行回数減による地域連携衰退	2	8.0
一部の人たちの取り組みになっている	2	8.0
その他、意見等	4	16.0
行政センターからのお知らせが届く	1	4.0
	25	100.0

住民自治に根差した都市

【現在について】

「①思う」「②やや思う」

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
自治会、防災訓練、クリーン活動など地域主体活動が盛ん	24	40.0
住民自治に根差したまちだと思ふ	9	15.0
支援、助成の充実、市政に地域の声が反映されている	7	11.7
市民団体や活動する人が増えた、意識が向上した	4	6.7
地域が団結している、地域のつながりが強い	3	5.0
その他、意見等	7	11.7
町内会の活動が不透明、新旧住民の間が縮まらないなど	6	10.0
	60	100.0

「④あまり思わない」「⑤思わない」

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
住民自治に根差したまちだと思わない	15	22.4
非活性、地域の活動情報が入らない、不透明	8	11.9
市の取り組みが不十分	7	10.4
少子高齢化の進展による活動の衰退、若年者の参加が少ない	7	10.4
行政と地域の連携が弱い	5	7.5
役員や一部の人たちの取り組みになっている	4	6.0
地域住民の連携がない	4	6.0
住民の主体性を感じない、行政主導	3	4.5
他市と変わらない	3	4.5
地域差がある、市全体ではない	2	3.0
基地の存在	2	3.0
その他、意見等	7	10.4
	67	100.0

【以前との比較】

「①よくなっている」「②どちらかというよくなっている」

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
自治会、子ども見守り隊、クリーン活動など地域主体活動が盛ん	9	24.3
よくなっていると思う	9	24.3
市の取り組みの充実、協力体制の向上	6	16.2
意識が向上した、活性化してきた	2	5.4
その他、意見等	9	24.3
行事参加定数が少ない、活動力の地域格差がある	2	5.4
	37	100.0

「④どちらかという悪くなっている」「⑤悪くなっている」

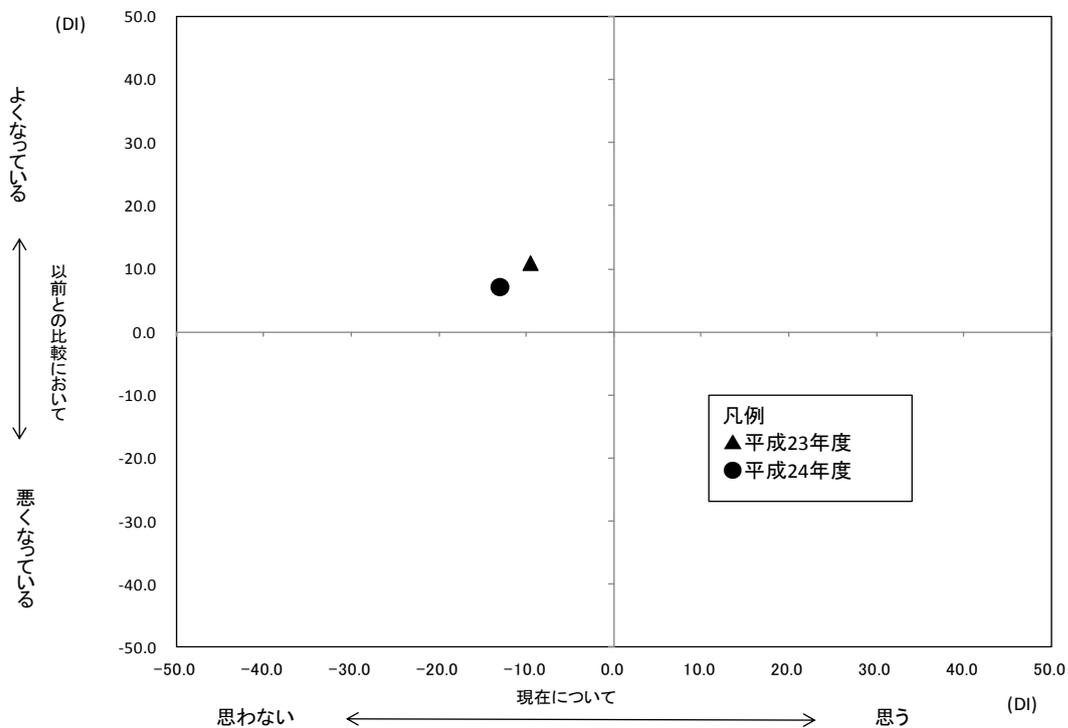
回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
地域内住民同士の関わりが希薄になっている	5	31.3
少子高齢化の進展による活動の衰退、若年者の参加が少ない	4	25.0
非活性、形骸化	3	18.8
その他、意見等	4	25.0
	16	100.0

IV 持続可能な発展を遂げる都市力（都市の魅力）について

重点プログラムの狙いである「人口減少や少子高齢化などの厳しい状況下においても、着実に成長できるための都市力（都市の魅力）を備えているまち」に対しての実感を尋ねた。

1 持続可能な発展を遂げる都市力（都市の魅力）を備えているまちの傾向（全体）

図表IV-1 「持続可能な発展を遂げる都市力（都市の魅力）を備えているまち」の状況（H24-23年度比較）



【現在について】

調査年度	件数(人)								(ポイント)	
		①思う	②やや思う	③どちらともいえない	④あまり思わない	⑤思わない	①+② (a)	④+⑤ (b)	DI (a)-(b)	前年度比
24年度	671	11.2	19.2	26.1	26.2	17.3	30.4	43.5	▲ 13.1	▲ 3.5
23年度	676	12.1	19.4	27.4	24.4	16.7	31.5	41.1	▲ 9.6	

【以前との比較】

調査年度	件数(人)								(ポイント)	
		①よくなっている	②どちらかというよくなっている	③変わっていない	④どちらかというよくなっている	⑤悪くなっている	①+② (a)	④+⑤ (b)	DI (a)-(b)	前年度比
24年度	561	6.4	23.5	47.4	14.1	8.6	29.9	22.6	7.3	▲ 3.7
23年度	578	8.0	23.4	48.3	11.9	8.5	31.4	20.4	11.0	

○「現在について」「以前との比較」ともにDIに大きな変化はみられない。「現在について」のDIは、各年度ともマイナスで、今回の調査ではマイナスが10ポイントを超えており、実感が得られていない状況が続いている。一方で、「以前との比較」のDIはプラスの状況が続いており、一応の実感は得られているとの見方もできる。

- ▶ 「現在について」DIは、(前年度▲9.6→) ▲13.1 (前年度差 ▲3.5ポイント)で、大きな変化なし
- ▶ 「以前との比較」DIは、(前年度 11.0→) 7.3 (前年度差 ▲3.7ポイント)で、大きな変化なし

【回答理由】

「①思う」「②やや思う」

「都市力を備えたまちだと思う、地力がある、可能性を持っている」という横須賀の都市力や今後の発展可能性を挙げた回答が多く、「豊かな自然環境、温暖な気候」や「基地など他にはない魅力を活用した観光産業、知名度」など、本市の特性も多く挙げられている。

「①あまり思わない」「②思わない」

「市の取り組みが不十分、遅れている、効果がない、方向性への疑問」といった市の取り組みに対する意見のほか、「人口減少、若年者の市外流出」「商業施設の減少、まちに活気がない、閉鎖的、非活性、不景気」など全設問を通じて指摘のある、人口減少、地域経済の衰退が理由として多く挙げられている。

2 回答理由分類

持続可能な発展を遂げる都市力（都市の魅力）を備えているまち

【現在について】

「①思う」「②やや思う」

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
都市力を備えたまちだと思う、地力がある、可能性を持っている	24	26.7
豊かな自然環境、温暖な気候	11	12.2
基地など他にはない魅力を活用した観光産業、知名度	9	10.0
首都圏への近接、交通、都市基盤の整備・発展による利便性	7	7.8
地産地消の取り組み	4	4.4
住みやすい	4	4.4
平成町、市街中心地の活性化	3	3.3
行政、市民の意識向上	2	2.2
その他、意見等	18	20.0
アピール不足、力が発揮されていない、中途半端など	8	8.9
	90	100.0

「④あまり思わない」「⑤思わない」

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
都市力を備えたまちだと思わない、成長がない	22	16.2
市の取り組みが不十分、遅れている、効果がない、方向性への疑問	16	11.8
人口減少、若年者の市外流出	14	10.3
商業施設の減少、まちに活気がない、閉鎖的、非活性、不景気	14	10.3
企業の減少・撤退、雇用の減少、産業の減少	13	9.6
出産、子育て、教育、医療環境が不十分、悪化している	13	9.6
少子高齢化	8	5.9
独自の魅力がない、他市と変わらない	7	5.1
交通利便性の悪化、地理的環境	6	4.4
財政難	3	2.2
その他、意見等	19	14.0
自然環境を生かした子育てのまち	1	0.7
	136	100.0

【以前の比較】

「①よくなっている」「②どちらかというよくなっている」

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
安全安心、防災対策など市の取り組みの充実、資料から	10	23.8
基地や自然など魅力を活用した観光産業の充実	5	11.9
よくなっていると思う	4	9.5
首都圏に近接した立地環境、都市基盤の整備による利便性	4	9.5
市街中心地の再開発	3	7.1
子育て、福祉施設の増加やサービス向上	2	4.8
地域活動が盛んになってきた	2	4.8
その他、意見等	9	21.4
空回りしている、市外へのPR不足、マンションの空室がある	3	7.1
	42	100.0

「④どちらかというよくなっている」「⑤悪くなっている」

回答理由分類	延件数(人)	構成比(%)
商業施設の減少、商店街の空き店舗の増加、閉鎖的、非活性、不景気	11	22.9
よくなっていると思わない、先が見えない	7	14.6
出産、子育て、教育、医療環境が不十分、悪化している	5	10.4
市の取り組みが不十分、方向性への疑問、他市と変わらない	5	10.4
企業の減少・撤退、雇用の減少	4	8.3
少子高齢化	3	6.3
人口減少、若年者の市外流出	2	4.2
地域関係の希薄化	2	4.2
財政難	2	4.2
その他、意見等	7	14.6
	48	100.0

3 持続可能な発展を遂げる都市力(都市の魅力)を備えているまちについて(属性別)

(1) 男女別

- ・「現在について」のDIは、男性は前年度と変化は見られないが、女性は低下した。
- ・一方、「以前との比較」では、男性が低下したが、女性は変化がない結果となった。

図表Ⅳ－3 「持続可能な発展を遂げる都市力を備えているまち」の状況(男女別：H24-23年度比較)

【現在について】								
性別	調査年度	件数(人)					(ポイント)	
			①思う+②やや思う (a)	③どちらともいえない	④あまり思わない+ ⑤思わない (b)	DI (a)-(b)	前年度比	
男 性	24年度	276	31.5	23.2	45.3	▲ 13.8	0.7	
	23年度	269	30.1	25.3	44.6	▲ 14.5		
女 性	24年度	376	29.5	28.2	42.3	▲ 12.8	▲ 6.1	
	23年度	396	32.4	28.5	39.1	▲ 6.7		
【以前との比較】								
性別	調査年度	件数(人)				(ポイント)		
			①よくなっている+ ②どちらかという よくなっている (a)	③変わっていない	④どちらかという 悪くなっている+ ⑤悪くなっている (b)	DI (a)-(b)	前年度比	
男 性	24年度	238	24.4	52.1	23.5	0.8	▲ 5.7	
	23年度	232	28.5	49.6	22.0	6.5		
女 性	24年度	307	34.5	43.3	22.1	12.4	▲ 0.9	
	23年度	338	33.1	47.0	19.8	13.3		

①男性

- ▶ 「現在について」DIは、(前年度 ▲14.5→) ▲13.8 (前年度差 0.7ポイント)で、変化なし
- ▶ 「以前との比較」DIは、(前年度 6.5→) 0.8 (前年度差 ▲5.7ポイント)で、低下

②女性

- ▶ 「現在について」DIは、(前年度 ▲6.7→) ▲12.8 (前年度差 ▲6.1ポイント)で、低下
- ▶ 「以前との比較」DIは、(前年度 13.3→) 12.4 (前年度差 ▲0.9ポイント)で、変化なし

(2) 年齢別

「現在について」のDIは、40歳代以下で前年度より低下した。また、「以前との比較」も30歳代以下で大幅に低下し、若年層からの実感が得られていない結果となった。

図表IV-4 「持続可能な発展を遂げる都市力（都市の魅力）を備えているまち」の状況（年齢別：H24-23年度比較）

【現在について】

年齢階級	調査年度	件数(人)	(ポイント)				
			①思う+②やや思う (a)	③どちらともいえない	④あまり思わない+ ⑤思わない (b)	DI (a)-(b)	前年度比
29歳以下	24年度	79	31.6	22.8	45.6	▲13.9	▲4.3
	23年度	77	31.5	27.4	41.1	▲9.6	
30歳代	24年度	77	27.3	20.8	51.9	▲24.7	▲24.7
	23年度	94	36.1	27.8	36.1	0.0	
40歳代	24年度	111	19.8	27.0	53.2	▲33.3	▲11.1
	23年度	108	25.9	26.0	48.1	▲22.2	
50歳代	24年度	122	32.0	25.4	42.6	▲10.7	16.0
	23年度	120	20.8	31.7	47.5	▲26.7	
60歳以上	24年度	264	34.5	28.4	37.1	▲2.7	1.5
	23年度	265	34.7	26.4	38.9	▲4.2	

【以前との比較】

年齢階級	調査年度	件数(人)	(ポイント)				
			①よくなっている+ ②どちらかという よくなっている (a)	③変わっていない	④どちらかという 悪くなっている+ ⑤悪くなっている (b)	DI (a)-(b)	前年度比
29歳以下	24年度	46	23.9	52.2	23.9	0.0	▲21.8
	23年度	55	36.4	49.1	14.5	21.8	
30歳代	24年度	55	23.6	50.9	25.5	▲1.8	▲19.2
	23年度	75	36.0	45.4	18.6	17.4	
40歳代	24年度	92	23.9	51.1	25.0	▲1.1	4.4
	23年度	91	20.9	52.7	26.4	▲5.5	
50歳代	24年度	109	34.9	42.2	22.9	11.9	10.9
	23年度	100	24.6	51.8	23.6	1.0	
60歳以上	24年度	244	32.8	45.9	21.3	11.5	▲4.6
	23年度	242	35.5	45.1	19.4	16.1	

①29歳以下

- ▶ 「現在について」DIは、(前年度 ▲9.6→) ▲13.9 (前年度差 ▲4.3ポイント)で、大きな変化なし
- ▶ 「以前との比較」DIは、(前年度 21.8→) 0.0 (前年度差 ▲21.8ポイント)で、大幅に低下

②30歳代

- ▶ 「現在について」DIは、(前年度 0.0→) ▲24.7 (前年度差 ▲24.7ポイント)で、大幅に低下
- ▶ 「以前との比較」DIは、(前年度 17.4→) ▲1.8 (前年度差 ▲19.2ポイント)で、大幅に低下

③40歳代

- ▶ 「現在について」DIは、(前年度 ▲22.2→) ▲33.3 (前年度差 ▲11.1ポイント)で、大幅に低下
- ▶ 「以前との比較」DIは、(前年度 ▲5.5→) ▲1.1 (前年度差 4.4ポイント)で、大きな変化なし

④50 歳代

- ▶ 「現在について」 DI は、(前年度 ▲26.7→) ▲10.7 (前年度差 16.0 ポイント)で、大幅に上昇
- ▶ 「以前との比較」 DI は、(前年度 1.0→) 11.9 (前年度差 10.9 ポイント)で、大幅に上昇

⑤60 歳以上

- ▶ 「現在について」 DI は、(前年度 ▲4.2→) ▲2.7 (前年度差 1.5 ポイント)で、変化なし
- ▶ 「以前との比較」 DI は、(前年度 16.1→) 11.5 (前年度差 ▲4.6 ポイント)で、大きな変化なし

(3) 地域別

- ・「現在について」「以前との比較」ともに DI が前年度より低下した地域は、「追浜・田浦」「本庁・逸見」「西」の3地域で、特に「追浜・田浦」地域が大幅に低下した。
- ・一方、「現在について」「以前との比較」ともに上昇した地域は「衣笠」地域のみで、地域によって大きな差がみられる。

図表Ⅳ-5 「持続可能な発展を遂げる都市力（都市の魅力）を備えているまち」の状況（地域別：H24-23 年度比較）

【現在について】

居住地域	調査年度	件数(人)	(ポイント)				DI (a)-(b)	前年度比
			①思う+②やや思う (a)	③どちらともいえない	④あまり思わない+ ⑤思わない (b)			
追浜・田浦	24年度	67	19.4	31.3	49.3	▲ 29.9	▲ 33.6	
	23年度	80	35.0	33.8	31.3	3.8		
本庁・逸見	24年度	130	30.8	20.8	48.5	▲ 17.7	▲ 4.9	
	23年度	133	28.6	30.1	41.4	▲ 12.8		
衣笠	24年度	102	32.4	23.5	44.1	▲ 11.8	14.3	
	23年度	123	20.3	33.3	46.3	▲ 26.0		
大津・浦賀	24年度	146	36.3	28.1	35.6	0.7	0.7	
	23年度	173	31.2	37.6	31.2	0.0		
久里浜・北下浦	24年度	154	31.8	26.0	42.2	▲ 10.4	▲ 4.2	
	23年度	146	28.1	37.7	34.2	▲ 6.2		
西	24年度	52	19.2	30.8	50.0	▲ 30.8	▲ 17.5	
	23年度	83	27.7	31.3	41.0	▲ 13.3		

【以前との比較】

居住地域	調査年度	件数(人)	(ポイント)				DI (a)-(b)	前年度比
			①よくなっている+ ②どちらかという よくなっている (a)	③変わっていない	④どちらかという 悪くなっている+ ⑤悪くなっている (b)			
追浜・田浦	24年度	56	28.6	57.1	14.3	14.3	▲ 10.7	
	23年度	80	32.5	60.0	7.5	25.0		
本庁・逸見	24年度	113	29.2	44.2	26.5	2.7	▲ 5.6	
	23年度	133	24.1	60.2	15.8	8.3		
衣笠	24年度	80	30.0	47.5	22.5	7.5	8.3	
	23年度	123	18.7	61.8	19.5	▲ 0.8		
大津・浦賀	24年度	127	29.1	48.8	22.0	7.1	▲ 3.9	
	23年度	173	25.4	60.1	14.5	11.0		
久里浜・北下浦	24年度	124	33.1	47.6	19.4	13.7	6.9	
	23年度	146	25.3	56.2	18.5	6.8		
西	24年度	44	29.5	34.1	36.4	▲ 6.8	▲ 8.0	
	23年度	83	19.3	62.7	18.1	1.2		

①追浜・田浦

- ▶ 「現在について」DIは、(前年度 3.8→) ▲29.9 (前年度差 ▲33.6ポイント)で、大幅に低下
- ▶ 「以前との比較」DIは、(前年度 25.0→) 14.3 (前年度差 ▲10.7ポイント)で、大幅に低下

②本庁・逸見

- ▶ 「現在について」DIは、(前年度 ▲12.8→) ▲17.7 (前年度差 ▲4.9ポイント)で、大きな変化なし
- ▶ 「以前との比較」DIは、(前年度 8.3 →) 2.7 (前年度差 ▲5.6ポイント)で、低下

③衣笠

- ▶ 「現在について」DIは、(前年度 ▲26.0→) ▲11.8 (前年度差 14.3ポイント)で、大幅に上昇
- ▶ 「以前との比較」DIは、(前年度 ▲0.8→) 7.5 (前年度差 8.3ポイント)で、上昇

④大津・浦賀

- ▶ 「現在について」DIは、(前年度 0.0→) 0.7 (前年度差 0.7ポイント)で、変化なし
- ▶ 「以前との比較」DIは、(前年度 11.0→) 7.1 (前年度差 ▲3.9ポイント)で、大きな変化なし

⑤久里浜・北下浦

- ▶ 「現在について」DIは、(前年度 ▲6.2→) ▲10.4 (前年度差 ▲4.2ポイント)で、大きな変化なし
- ▶ 「以前との比較」DIは、(前年度 6.8→) 13.7 (前年度差 6.9ポイント)で、上昇

⑥西

- ▶ 「現在について」DIは、(前年度 ▲13.3→) ▲30.8 (前年度差 ▲17.5ポイント)で、大幅に低下
- ▶ 「以前との比較」DIは、(前年度 1.2→) ▲6.8 (前年度差 ▲8.0ポイント)で、低下

V 持続可能な発展を遂げる都市力（都市の魅力）

一 優先して取り組むべき政策について 一

「人口減少や少子高齢化などの厳しい状況下においても、横須賀が着実に成長できるために、今後、市はどのような政策に優先して取り組むべきか」について、重点プログラムを構成する10項目の取り組みの方向性と「その他」の選択肢を設け尋ねた。

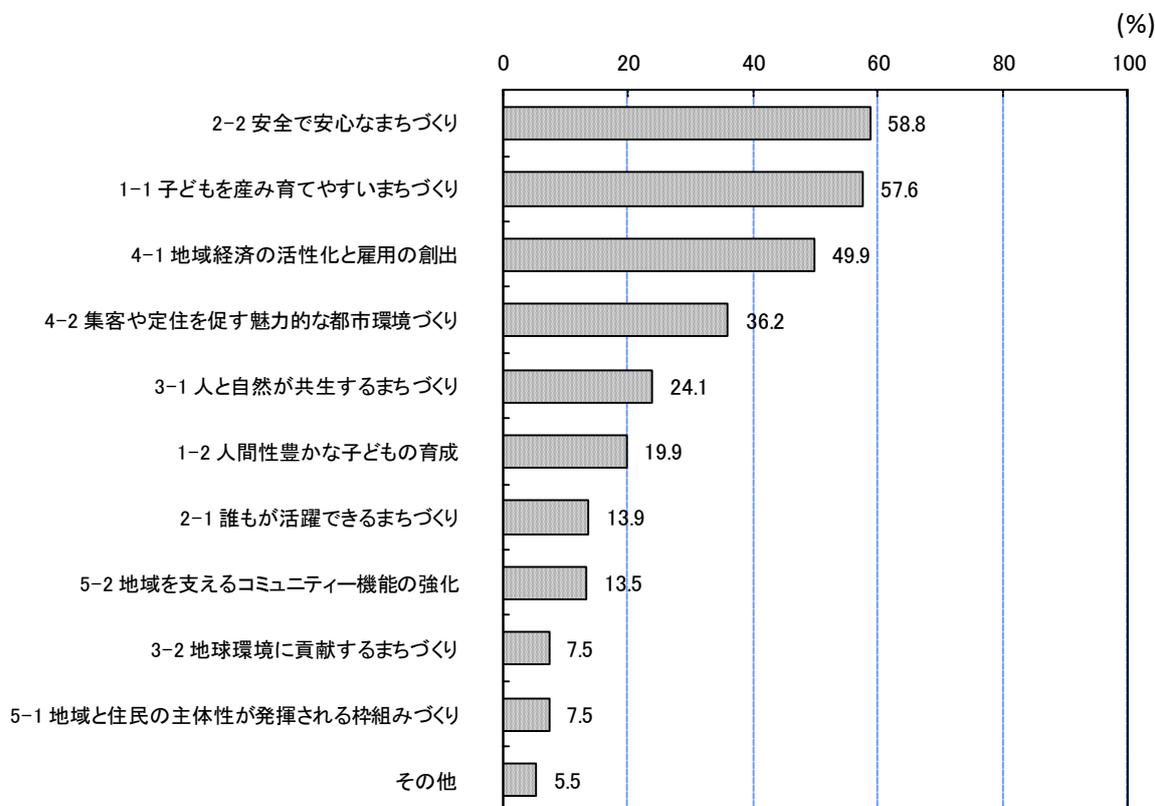
（複数回答3つまで）

1 優先して取り組むべき政策の傾向（全体）

（1）24年度調査結果

- ・「安全で安心なまちづくり」（58.8%）が最も高く、ほぼ同じ値で「子どもを産み育てやすいまちづくり」（57.6%）が選択されている。
- ・選択順位別では、1番目の項目として「子どもを産み育てやすいまちづくり」が最も多く選択されており、その値は「安全で安心なまちづくり」より10ポイント以上高く、突出した傾向を示している。

図表V-1 優先して取り組むべき政策



注）その他には、市への個別具体的な要望等が多く含まれている

図表V-2 優先して取り組むべき政策（選択順位別）

プログラムおよび取り組みの方向性(順位別)		全体		1番目		2番目		3番目	
		件数(人)	回答割合(%)	件数(人)	回答割合(%)	件数(人)	回答割合(%)	件数(人)	回答割合(%)
プログラム1	(1-1)子どもを産み育てやすいまちづくり	441	57.6	281	36.7	81	10.8	79	10.7
	(1-2)人間性豊かな子どもの育成	152	19.9	55	7.2	65	8.7	32	4.3
プログラム2	(2-1)誰もが活躍できるまちづくり	106	13.9	25	3.3	49	6.6	32	4.3
	(2-2)安全で安心なまちづくり	450	58.8	177	23.1	182	24.4	91	12.3
プログラム3	(3-1)人と自然が共生するまちづくり	184	24.1	33	4.3	71	9.5	80	10.8
	(3-2)地球環境に貢献するまちづくり	57	7.5	4	0.5	29	3.9	24	3.2
プログラム4	(4-1)地域経済の活性化と雇用の創出	382	49.9	121	15.8	140	18.7	121	16.4
	(4-2)集客や定住を促す魅力的な都市環境づくり	277	36.2	39	5.1	96	12.9	142	19.2
プログラム5	(5-1)地域と住民の主体性が発揮される枠組みづくり	57	7.5	6	0.8	10	1.3	41	5.5
	(5-2)地域を支えるコミュニティー機能の強化	103	13.5	9	1.2	19	2.5	75	10.1
その他		42	5.5	15	2.0	5	0.7	22	3.0
サンプル数(n)			100.0	765	100.0	747	100.0	739	100.0

※回答は順に3つまでの複数選択のため、それぞれの回答数(n)は異なる

(2) 24年度-23年度調査結果比較

- ・「安全で安心なまちづくり」「子どもを産み育てやすいまちづくり」の上位2項目は、前年度と比較してやや低下した。
- ・これら以外では「誰もが活躍できるまちづくり」がやや上昇、「地球環境に貢献するまちづくり」がやや低下した。その他の項目については、大きな変化はみられない。

図表V-3 取り組みの方向性別優先度の回答割合（H24-23年度比較）

取り組みの方向性	24年度		23年度		前年度比
	順位	回答割合(%)	順位	回答割合(%)	
(2-2)安全で安心なまちづくり	1	58.8	2	61.6	▲ 2.8
(1-1)子どもを産み育てやすいまちづくり	2	57.6	1	61.9	▲ 4.3
(4-1)地域経済の活性化と雇用の創出	3	49.9	3	49.8	0.1
(4-2)集客や定住を促す魅力的な都市環境づくり	4	36.2	4	34.7	1.5
(3-1)人と自然が共生するまちづくり	5	24.1	5	24.1	0.0
(1-2)人間性豊かな子どもの育成	6	19.9	6	21.0	▲ 1.1
(2-1)誰もが活躍できるまちづくり	7	13.9	8	10.6	3.3
(5-2)地域を支えるコミュニティー機能の強化	8	13.5	7	12.6	0.9
(3-2)地球環境に貢献するまちづくり	9	7.5	9	10.4	▲ 2.9
(5-1)地域と住民の主体性が発揮される枠組みづくり	9	7.5	10	5.8	1.7

※回答は3つまでの複数選択のため、回答割合の合計は100%にならない

2 優先して取り組むべき政策の傾向（属性別）

（1）男女別

- ・女性の回答割合が最も高かったのは「安全で安心なまちづくり」で、前年度よりやや増加した。
- ・一方、男性では、「子どもを産み育てやすいまちづくり」が最も多く選択された。

図表V-4 優先して取り組むべき政策（男女別：H24-23年度比較）

性別	調査年度	件数(人)	(%)										
			1-1 子どもを産み 育てやすい まちづくり	1-2 人間性豊かな 子どもの育成 できる	2-1 誰もが活躍 できる まちづくり	2-2 安全で安心な まちづくり	3-1 人と自然が 共生する まちづくり	3-2 地球環境に 貢献する まちづくり	4-1 地域経済の 活性化と 雇用の創出	4-2 集客や定住を 促す魅力的な 都市環境 づくり	5-1 地域と住民の 主体性が 発揮される 枠組みづくり	5-2 地域を支える コミュニティー 機能の強化	その他
男性	24年度	315	54.9	19.7	16.8	51.1	25.1	6.3	49.5	38.1	9.8	13.7	7.0
	23年度	287	58.5	17.8	13.6	60.6	25.4	10.8	50.5	37.6	5.9	11.1	4.5
	増減	28	▲ 3.6	1.9	3.2	▲ 9.5	▲ 0.3	▲ 4.5	▲ 1.0	0.5	3.9	2.6	2.5
女性	24年度	428	59.3	20.1	11.4	63.6	23.6	7.9	50.0	35.5	6.1	14.0	4.4
	23年度	433	64.4	23.1	8.3	62.4	23.6	10.2	48.7	33.0	5.5	13.4	4.2
	増減	▲ 5	▲ 5.1	▲ 3.0	3.1	1.2	0.0	▲ 2.3	1.3	2.5	0.6	0.6	0.2

※回答は3つまでの複数選択のため、回答割合の合計は100%にならない

（2）年齢別

- ・30歳、40歳代の約7割が、優先すべき政策として「子どもを産み育てやすいまちづくり」を選択している。
- ・プログラム4に関連する「地域経済の活性化と雇用の創出」「集客や定住を促す魅力的な都市環境づくり」については、若年層で増加傾向がみられる。

図表V-5 優先して取り組むべき政策（年齢別：H24-23年度比較）

年齢階級	調査年度	件数(人)	(%)										
			1-1 子どもを生き 育てやすい まちづくり	1-2 人間性豊かな 子どもの育成	2-1 誰もが活躍 できる まちづくり	2-2 安全で安心な まちづくり	3-1 人と自然が 共生する まちづくり	3-2 地球環境に 貢献する まちづくり	4-1 地域経済の 活性化と 雇用の創出	4-2 集客や定住を 促す魅力的な 都市環境 づくり	5-1 地域と住民の 主体性が 発揮される 枠組みづくり	5-2 地域を支える コミュニティー 機能の強化	その他
15-29歳	24年度	92	65.2	22.8	14.1	63.0	19.6	13.0	43.5	37.0	6.5	13.0	7.6
	23年度	91	63.7	29.7	14.3	69.2	23.1	14.3	36.3	27.5	5.5	11.0	5.5
	増減	1	1.5	▲ 6.9	▲ 0.2	▲ 6.2	▲ 3.5	▲ 1.3	7.2	9.5	1.0	2.0	2.1
30歳代	24年度	90	70.0	15.6	14.4	61.1	14.4	3.3	57.8	36.7	3.3	12.2	5.6
	23年度	100	71.0	11.0	8.0	66.0	22.0	6.0	50.0	40.0	4.0	13.0	4.0
	増減	▲ 10	▲ 1.0	4.6	6.4	▲ 4.9	▲ 7.6	▲ 2.7	7.8	▲ 3.3	▲ 0.7	▲ 0.8	1.6
40歳代	24年度	118	59.3	15.3	13.6	61.0	23.7	8.5	44.1	39.8	7.6	15.3	8.5
	23年度	118	66.9	19.5	6.8	58.5	22.0	13.6	51.7	35.6	3.4	7.6	8.5
	増減	0	▲ 7.6	▲ 4.2	6.8	2.5	1.7	▲ 5.1	▲ 7.6	4.2	4.2	7.7	0.0
50歳代	24年度	134	60.4	16.4	14.9	55.2	25.4	7.5	56.7	41.0	10.4	11.2	3.7
	23年度	131	62.6	20.6	8.4	64.1	28.2	11.5	52.7	34.4	2.3	11.5	2.3
	増減	3	▲ 2.2	▲ 4.2	6.5	▲ 8.9	▲ 2.8	▲ 4.0	4.0	6.6	8.1	▲ 0.3	1.4
60歳代	24年度	154	55.2	20.8	12.3	61.7	27.9	9.1	50.6	35.7	7.1	14.9	4.5
	23年度	141	59.6	19.1	10.6	55.3	22.7	7.1	53.9	37.6	10.6	17.0	3.5
	増減	13	▲ 4.4	1.7	1.7	6.4	5.2	2.0	▲ 3.3	▲ 1.9	▲ 3.5	▲ 2.1	1.0
70歳以上	24年度	138	49.3	29.7	15.9	58.0	31.9	3.6	52.2	34.8	10.1	16.7	5.1
	23年度	138	52.9	26.1	14.5	60.1	26.1	10.9	48.6	32.6	7.2	13.8	2.9
	増減	0	▲ 3.6	3.6	1.4	▲ 2.1	5.8	▲ 7.3	3.6	2.2	2.9	2.9	2.2

※回答は3つまでの複数選択のため、回答割合の合計は100%にならない

(3) 地域別

- ・政策の優先度が最も高い「安全で安心なまちづくり」は、「大津・浦賀」「西」地域で前年度より増加した。
- ・「子どもを産み育てやすいまちづくり」は、「本庁・逸見」地域で10%以上低下した。
- ・プログラム4を構成する「地域経済の活性化と雇用の創出」「集客や定住を促す魅力的な都市環境づくり」は、多くの地域で、前年度より回答割合に増加傾向がみられる。

図表V-6 優先して取り組むべき政策（地域別：H24-23年度比較）

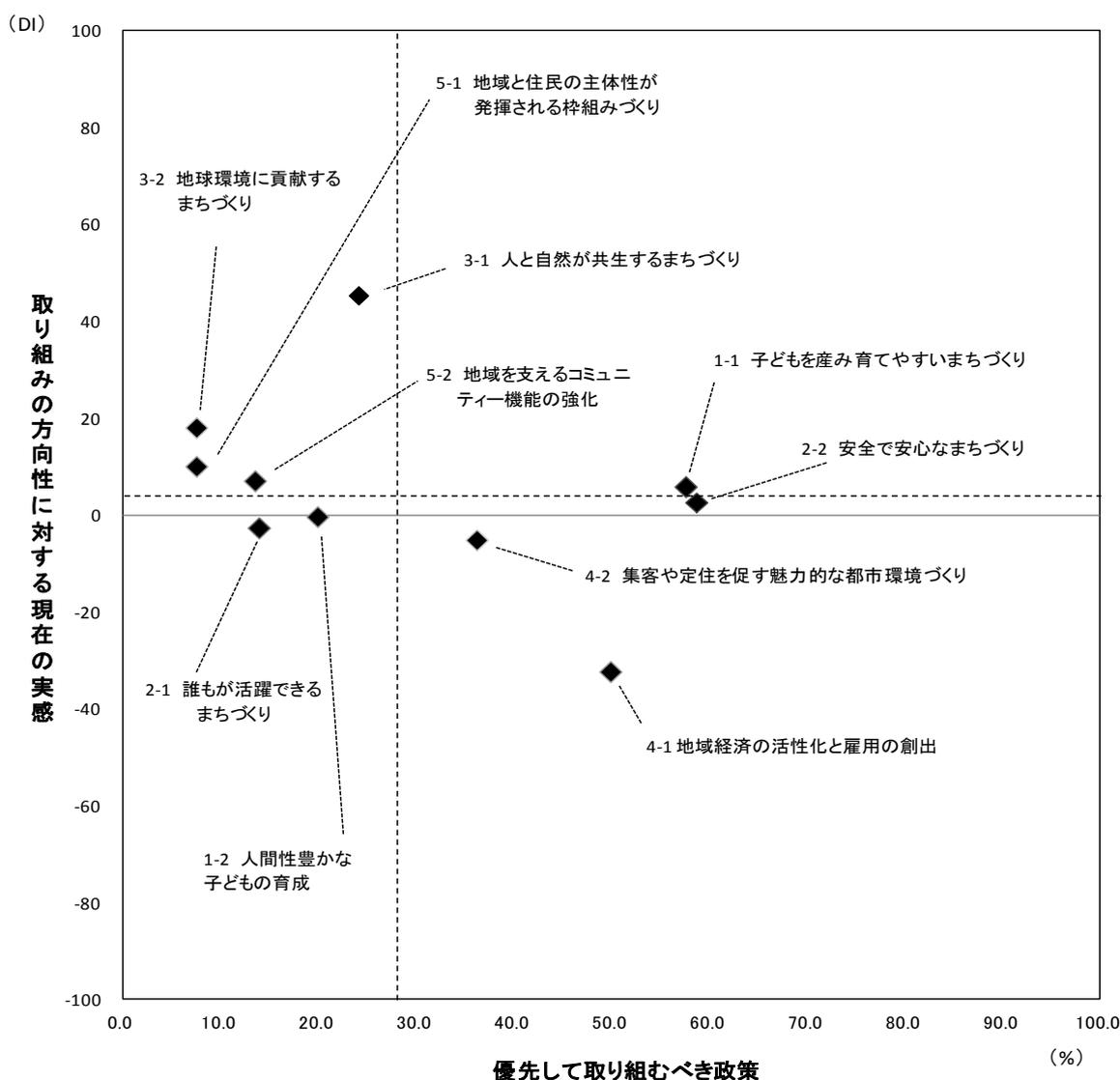
居住地域	調査年度	件数(人)	(%)										
			1-1 子どもを生み 育てやすい まちづくり	1-2 人間性豊かな 子どもの育成	2-1 誰もが活躍 できる まちづくり	2-2 安全で安心な まちづくり	3-1 人と自然が 共生する まちづくり	3-2 地球環境に 貢献する まちづくり	4-1 地域経済の 活性化と 雇用の創出	4-2 集客や定住を 促す魅力的な 都市環境 づくり	5-1 地域と住民の 主体性が 発揮される 枠組みづくり	5-2 地域を支える コミュニティー 機能の強化	その他
追浜・田浦	24年度	78	57.7	21.8	11.5	62.8	24.4	7.7	42.3	41.0	7.7	11.5	6.4
	23年度	78	59.0	21.8	9.0	65.4	26.9	19.2	38.5	37.2	6.4	14.1	2.6
	増減	0	▲1.3	0.0	2.6	▲2.6	▲2.6	▲11.5	3.8	3.8	1.3	▲2.6	3.8
本庁・逸見	24年度	144	50.0	20.1	13.2	54.9	18.8	10.4	55.6	43.1	6.9	13.2	6.9
	23年度	129	65.9	17.1	8.5	62.0	22.5	9.3	47.3	38.0	5.4	10.9	7.0
	増減	15	▲15.9	3.1	4.7	▲7.2	▲3.7	1.1	8.3	5.1	1.5	2.3	0.0
衣笠	24年度	114	58.8	15.8	11.4	55.3	23.7	7.9	53.5	34.2	7.9	14.0	7.0
	23年度	122	63.1	19.7	9.0	67.2	21.3	11.5	58.2	27.9	6.6	10.7	2.5
	増減	▲8	▲4.3	▲3.9	2.4	▲11.9	2.4	▲3.6	▲4.7	6.3	1.3	3.4	4.6
大津・浦賀	24年度	169	60.4	17.2	15.4	60.4	30.8	4.7	47.9	33.7	8.9	14.2	3.0
	23年度	166	61.4	18.7	10.2	59.0	27.7	10.8	47.6	37.3	4.8	14.5	4.2
	増減	3	▲1.1	▲1.5	5.1	1.3	3.1	▲6.1	0.3	▲3.6	4.1	▲0.3	▲1.3
久里浜・北下浦	24年度	174	59.2	21.8	15.5	59.2	27.0	6.3	45.4	36.8	9.2	13.8	4.0
	23年度	143	63.6	27.3	9.1	62.2	21.7	7.7	49.0	35.0	7.0	11.2	3.5
	増減	31	▲4.4	▲5.4	6.4	▲3.0	5.3	▲1.4	▲3.5	1.8	2.2	2.6	0.5
西	24年度	64	57.8	28.1	14.1	59.4	10.9	7.8	54.7	28.1	1.6	17.2	7.8
	23年度	82	56.1	22.0	19.5	53.7	26.8	6.1	54.9	32.9	3.7	14.6	6.1
	増減	▲18	1.7	6.2	▲5.4	5.7	▲15.9	1.7	▲0.2	▲4.8	▲2.1	2.6	1.7

※回答は3つまでの複数選択のため、回答割合の合計は100%にならない

3 優先して取り組むべき政策と取り組みの方向性に対する現在の実感について

- ・「優先して取り組むべき政策」の回答割合が平均値より高く、「現在の実感」が平均値より低い項目は、「2-2 安全で安心なまちづくり」「4-1 地域経済の活性化と雇用の創出」「4-2 集客や定住を促す魅力的な都市環境づくり」の3つとなった。
- ・プログラム3、5をそれぞれ構成する取り組みの方向性についてはすべて、「現在の実感」のDIが平均値より高く、「優先して取り組むべき政策」の回答割合が平均値より低い結果となった。

図表V-7 優先して取り組むべき政策×現在の実感



※グラフ内の破線は、「優先して取り組むべき政策の回答割合 (%)」と「取り組みの方向性に対する現在の実感 (DI)」それぞれの平均値を示したもの (X=28.9 Y=4.6)

VI 横須賀市の魅力やイメージについて

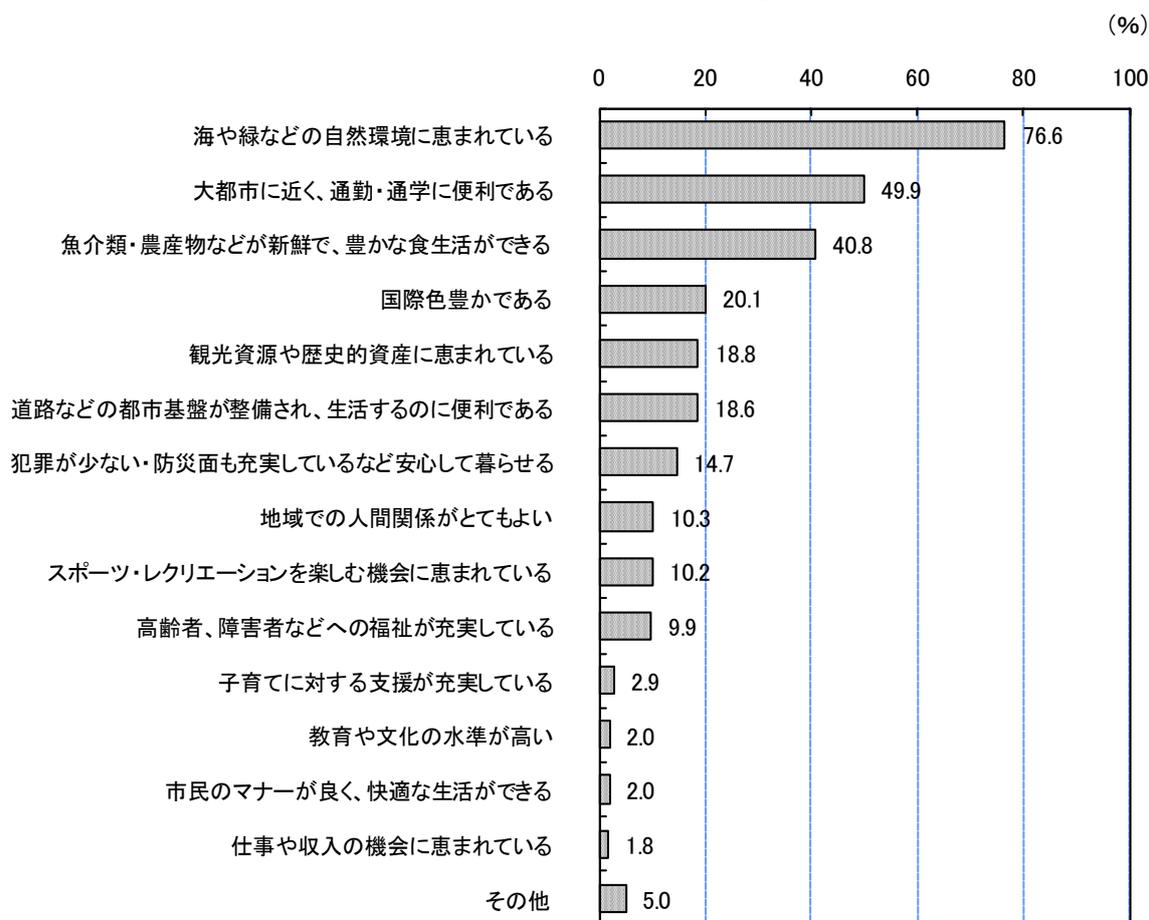
1 横須賀市の魅力について

(1) 24年度調査結果

①全体の傾向

「海や緑などの自然環境に恵まれている」が76.6%と最も多く、次いで、「大都市に近く、通勤・通学に便利である」(49.9%)、「魚介類・農産物などが新鮮で、豊かな食生活ができる」(40.8%)、「国際色豊かである」(20.1%)が多く選択されている。

図表VI-1 「横須賀市の魅力的なところ」(n=757)



注) 複数回答3つまで選択

②年齢別の傾向

- ・最も多く選択された「海や緑などの自然環境に恵まれている」は、40歳以上の年齢層で高い。一方、20歳代では、最も高い60歳代とは20ポイントほど差があり、年齢別で傾向に違いがみられる。
- ・「魚介類・農産物などが新鮮で、豊かな食生活ができる」は、30歳、40歳代で高く、食への関心が強い主婦（夫）層、子育て層で多く選択されている。
- ・「国際色豊かである」は、外国人や国際文化に接する機会が多いと考えられる30歳以下で、魅力として強く捉えられている傾向がみられる。

図表VI-2 「横須賀市の魅力的なところ」の回答割合（年齢別：n=757）

年齢階級	件数(人)	(%)														
		教育や文化の水準が高い	子育てに対する支援が充実している	高齢者、障害者などへの福祉が充実している	道路などの都市基盤が整備され、生活するのに便利である	スポーツレクリエーションを楽しむ機会に恵まれている	犯罪が少なく、防犯面も充実しているなど安心して暮らせる	大都市に近く、通勤・通学に便利である	仕事や収入の機会に恵まれている	海や緑などの自然環境に恵まれている	魚介類・農産物などが新鮮で、豊かな食生活ができる	観光資源や歴史的資産に恵まれている	国際色豊かである	市民のマナーが良く、快適な生活ができる	地域での人間関係がとよい	その他
15-19歳	30	6.7	3.3	16.7	16.7	3.3	10.0	53.3	0.0	66.7	36.7	26.7	30.0	0.0	10.0	10.0
20歳代	70	4.3	1.4	12.9	14.3	14.3	11.4	42.9	1.4	58.6	31.4	17.1	34.3	4.3	4.3	7.1
30歳代	90	1.1	4.4	5.6	18.9	5.6	11.1	54.4	1.1	71.1	45.6	17.8	25.6	2.2	4.4	7.8
40歳代	122	0.8	2.5	6.6	19.7	4.1	10.7	46.7	1.6	77.0	44.3	19.7	20.5	2.5	11.5	4.9
50歳代	140	2.1	2.9	7.1	18.6	10.0	15.0	52.1	2.1	77.9	36.4	19.3	15.7	1.4	8.6	3.6
60歳代	158	1.3	3.8	10.8	19.0	13.3	15.2	46.2	1.9	80.4	40.5	12.0	15.2	1.9	14.6	2.5
70歳以上	152	1.3	2.0	11.2	17.1	11.2	19.1	48.7	2.6	74.3	36.8	19.7	15.8	1.3	10.5	3.3

(2) 横須賀の魅力について (24年度-23年度調査結果比較)

- ・前年度の調査との比較では、図表VI-3のとおり、上位に選択された項目は変動がなく、1位の「海や緑などの自然環境に恵まれている」、2位の「大都市に近く、通勤・通学に便利である」は回答割合もほぼ同様の結果となった。
- ・他方、「魚介類・農産物などが新鮮で、豊かな食生活ができる」は3位で同位だが、全体の中でも魅力としての選択が増加した。

図表VI-3 「横須賀市の魅力的なところ」の回答割合 (H24-23年度比較)

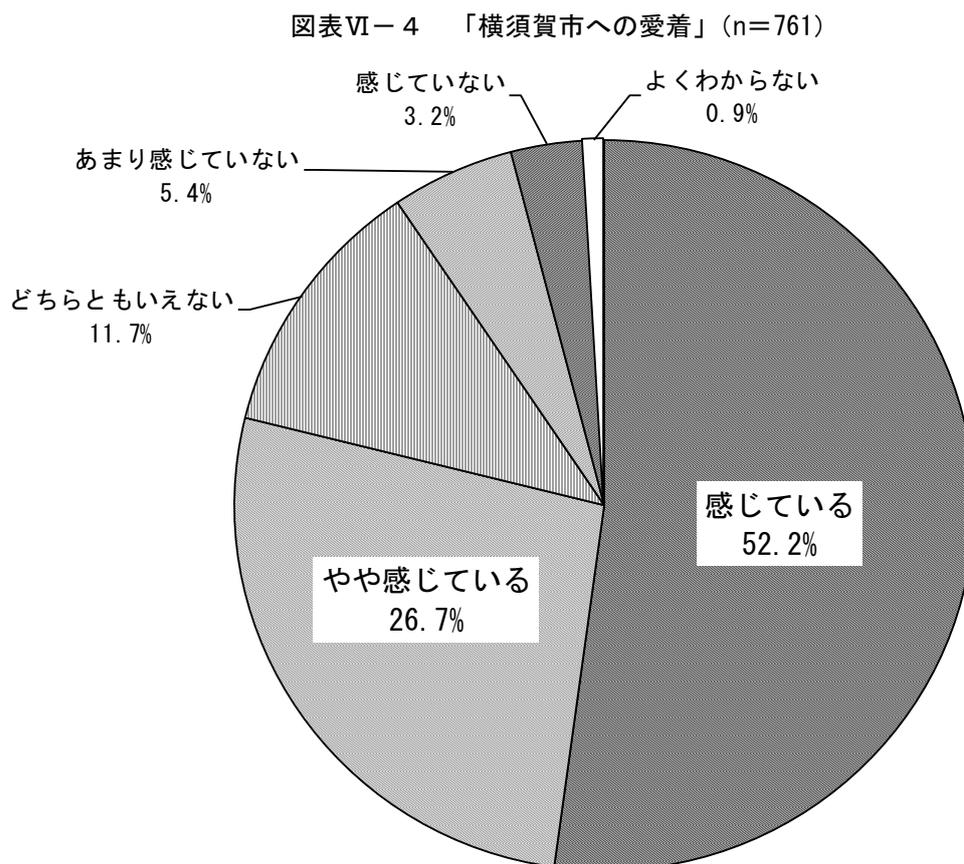
選択肢	24年度(n=757)		23年度(n=751)		前年度比
	順位	回答割合(%)	順位	回答割合(%)	
海や緑などの自然環境に恵まれている	1	76.6	1	79.6	▲ 3.0
大都市に近く、通勤・通学に便利である	2	49.9	2	47.2	2.7
魚介類・農産物などが新鮮で、豊かな食生活ができる	3	40.8	3	33.7	7.1
国際色豊かである	4	20.1	4	26.2	▲ 6.1
観光資源や歴史的資産に恵まれている	5	18.8	5	18.9	▲ 0.1
道路などの都市基盤が整備され、生活するのに便利である	6	18.6	6	18.8	▲ 0.2
犯罪が少ない・防犯面も充実しているなど安心して暮らせる	7	14.7	7	14.2	0.5
地域での人間関係がとてよい	8	10.3	8	11.6	▲ 1.3
スポーツ・レクリエーションを楽しむ機会に恵まれている	9	10.2	10	8.4	1.8
高齢者、障害者などへの福祉が充実している	10	9.9	9	9.1	0.8
子育てに対する支援が充実している	11	2.9	12	3.0	▲ 0.1
教育や文化の水準が高い	12	2.0	13	2.3	▲ 0.3
市民のマナーが良く、快適な生活ができる	12	2.0	11	5.0	▲ 3.0
仕事や収入の機会に恵まれている	14	1.8	14	1.7	0.1
その他	—	5.0	—	3.7	1.3

注) 複数回答3つまで選択

2 横須賀市への愛着について

(1) 全体の傾向

「感じている」(52.2%)、「やや感じている」(26.7%)を合わせると、回答者の約8割にのぼる。この傾向は図表VI-5のとおり、前年度調査と大きな違いはみられない。



図表VI-5 「横須賀市への愛着」(H24-23年度比較)

調査年度	件数(人)	(%)						
		①感じている	②やや感じている	③どちらともいえない	④あまり感じていない	⑤感じていない	①+②	④+⑤
平成24年度	761	52.2	26.7	11.7	5.4	3.2	78.9	8.6
平成23年度	730	50.0	31.8	9.0	5.6	3.0	81.8	8.6

(2) 年齢別の傾向

- ・「感じている」「やや感じている」の回答割合は、高齢層で高く、若年層が低い結果となった。この傾向は前年度調査と同様で、変化はみられない。
- ・なお、今回の調査では、30歳、40歳代の「感じている」「やや感じている」を合わせた回答割合が70%前後で、前年度との比較で10%程度減少した。

図表VI-6 「横須賀市への愛着」(年齢別：H24-23年度比較)

年齢階級	調査年度	件数(人)	(%)							
			①感じている	②やや感じている	③どちらともいえない	④あまり感じていない	⑤感じていない	⑥よくわからない	①+②	④+⑤
15-19歳	24年度	30	46.7	23.3	20.0	6.7	3.3	0.0	70.0	10.0
	23年度	34	58.8	26.5	5.9	0.0	8.8	0.0	85.3	8.8
20歳代	24年度	70	45.7	22.9	10.0	5.7	7.1	2.9	68.6	12.9
	23年度	57	35.1	35.1	14.0	7.0	7.0	1.8	70.2	14.0
30歳代	24年度	90	36.7	35.6	18.9	4.4	4.4	0.0	72.2	8.9
	23年度	101	54.5	28.7	9.9	5.9	1.0	0.0	83.2	6.9
40歳代	24年度	122	47.5	26.2	13.1	9.8	0.8	0.8	73.8	10.7
	23年度	118	48.3	34.7	5.1	6.8	3.4	1.7	83.0	10.2
50歳代	24年度	140	50.0	26.4	7.9	6.4	4.3	1.4	76.4	10.7
	23年度	131	41.2	38.2	10.7	6.9	3.1	0.0	79.4	10.0
60歳代	24年度	158	60.8	19.6	10.8	3.8	1.3	0.0	80.4	5.1
	23年度	141	55.3	31.9	7.8	3.5	1.4	0.0	87.2	4.9
70歳以上	24年度	152	54.6	27.6	9.9	2.0	2.6	0.0	82.2	4.6
	23年度	138	55.8	26.1	10.9	3.6	2.9	0.7	81.9	6.5

3 横須賀市のイメージについて

(1) 現在の都市イメージ

- ・上位に選択された項目は前年度調査と同様で、それらの回答割合にも大きな違いはみられない。
- ・今回調査でも、「米軍基地・自衛隊がある『基地のまち』」は86.4%（前年度89.1%）で他の項目と比較して突出して高い結果となった。次いで高い割合を示した項目は「豊かな自然が残されている『自然環境に恵まれたまち』」「首都圏への通勤者が多い『住宅中心のまち』」という結果となった。

図表VI-7 「横須賀市のイメージ（現在の都市イメージ）」の回答割合（H24-23年度比較）

現在の都市イメージの項目	24年度 (n=733)		23年度 (n=724)		前年度比
	順位	回答割合(%)	順位	回答割合(%)	
米軍基地・自衛隊がある「基地のまち」	1	86.4	1	89.1	▲ 2.7
豊かな自然環境が残されている「自然環境に恵まれたまち」	2	48.8	2	49.8	▲ 1.0
首都圏への通勤者が多い「住宅中心のまち」	3	42.3	3	42.8	▲ 0.5
外国人との交流が盛んな「国際交流のまち」	4	21.8	4	19.4	2.4
農業・漁業が盛んな「農・漁業のまち」	5	19.5	5	16.6	2.9
さまざまな分野の研究機関が集積する「ICT・先端技術のまち」	6	12.7	6	14.0	▲ 1.3
市外から多くの人が訪れる「観光・レジャーのまち」	7	11.4	7	12.4	▲ 1.0
ごみのリサイクルや地球温暖化対策など「環境にやさしいまち」	8	8.9	8	8.1	0.8
道路、公園など都市基盤の整った「生活に便利で快適なまち」	9	8.1	10	6.5	1.6
自動車産業など「工業が盛んなまち」	10	6.2	9	8.0	▲ 1.8
防犯・防災体制が整った「安全・安心なまち」	11	4.7	11	5.4	▲ 0.7
高齢者・障害者をはじめとした「誰もが安心して暮らせるまち」	12	3.8	14	3.2	0.6
芸術文化活動が盛んな「文化芸術のまち」	13	3.4	12	3.7	▲ 0.3
健康づくりのための施設や医療機関が充実した「健康増進・医療福祉のまち」	14	3.2	13	3.6	▲ 0.4
商業施設が充実した「にぎわいのあるまち」	15	1.4	16	1.7	▲ 0.3
学校教育が充実した「教育のまち」	16	1.1	15	1.8	▲ 0.7
保育所など子育て環境が充実した「子育てのまち」	17	0.9	17	0.8	0.1
その他	—	3.2	—	2.2	1.0

※複数回答3つまで選択

(2) 望ましい都市イメージ

- ・上位に選択された項目は前年度と同様であったが、回答割合の多寡には違いがみられた。
- ・前年度調査で3位の項目であった「防犯・防災体制が整った『安全・安心なまち』」が39.6%（前年度 36.0%）で、今回の調査では最も多く選択された。次いで多く選択された項目は、前年度の調査で最も高い回答割合を示した「高齢者・障害者をはじめとした『誰もが安心して暮らせるまち』」で35.7%（前年度 40.1%）、「豊かな自然が残されている『自然環境に恵まれたまち』」で31.7%（前年度 39.4%）となり、回答割合はいずれも低下した。

図表VI-8 「横須賀市のイメージ（望ましい都市イメージ）」の回答割合（H24-23年度比較）

望ましい都市イメージの項目	24年度(n=733)		23年度(n=724)		前年度差
	順位	回答割合(%)	順位	回答割合(%)	
防犯・防災体制が整った「安全・安心なまち」	1	39.6	3	36.0	3.6
高齢者・障害者をはじめとした「誰もが安心して暮らせるまち」	2	35.7	1	40.1	▲4.4
豊かな自然環境が残されている「自然環境に恵まれたまち」	3	31.7	2	39.4	▲7.7
健康づくりのための施設や医療機関が充実した「健康増進・医療福祉のまち」	4	26.2	4	26.5	▲0.3
商業施設が充実した「にぎわいのあるまち」	5	22.8	6	20.0	2.8
保育所など子育て環境が充実した「子育てのまち」	6	20.3	5	23.8	▲3.5
道路、公園など都市基盤の整った「生活に便利で快適なまち」	7	18.1	7	15.2	2.9
市外から多くの人を訪れる「観光・レジャーのまち」	8	16.2	10	13.0	3.2
外国人との交流が盛んな「国際交流のまち」	9	13.4	9	13.1	0.3
ごみのリサイクルや地球温暖化対策など「環境にやさしいまち」	10	12.1	8	15.1	▲3.0
学校教育が充実した「教育のまち」	11	12.7	11	12.4	0.3
さまざまな分野の研究機関が集積する「ICT・先端技術のまち」	12	11.6	12	10.2	1.4
芸術文化活動が盛んな「文化芸術のまち」	13	10.5	14	8.1	2.4
農業・漁業が盛んな「農・漁業のまち」	14	8.0	13	8.6	▲0.6
米軍基地・自衛隊がある「基地のまち」	15	5.9	15	5.5	0.4
自動車産業など「工業が盛んなまち」	16	4.6	16	4.4	0.2
首都圏への通勤者が多い「住宅中心のまち」	17	2.7	17	2.2	0.5
その他	-	3.1	-	2.3	0.8

※複数回答3つまで選択

基本的な属性(F1～F5)

(1) 性別 (F1)

回答数	件数(人)	構成比(%)		
		24年度	23年度	増減
全体	791	100.0	100.0	
男性	324	41.0	39.5	1.5
女性	437	55.2	58.7	▲ 3.5
無回答	30	3.8	1.7	2.1

(2) 年齢 (F2)

回答数	件数(人)	構成比(%)		
		24年度	23年度	増減
全体	791	100.0	100.0	
15～19歳	30	3.8	4.5	▲ 0.7
20～29歳	70	8.8	7.6	1.2
30～39歳	90	11.4	13.4	▲ 2.0
40～49歳	122	15.4	15.8	▲ 0.4
50～59歳	140	17.7	18.0	▲ 0.3
60～69歳	158	20.0	19.3	0.7
70歳以上	152	19.2	19.4	▲ 0.2
無回答	29	3.7	1.9	1.8

(3) 居住地域 (F3)

回答数	件数(人)	構成比(%)		
		24年度	23年度	増減
全体	791	100.0	100.0	
本庁地域	124	15.7	14.6	1.1
追浜地域	44	5.6	6.0	▲ 0.4
田浦地域	36	4.6	4.7	▲ 0.1
逸見地域	21	2.7	3.1	▲ 0.4
衣笠地域	117	14.8	16.4	▲ 1.6
大津地域	75	9.5	10.4	▲ 0.9
浦賀地域	102	12.9	12.6	0.3
久里浜地域	108	13.7	12.0	1.7
北下浦地域	67	8.5	7.5	1.0
西地域	67	8.5	11.1	▲ 2.6
無回答	30	3.8	1.7	2.1

(4) 職業 (F4)

回答数	件数(人)	構成比(%)		
		24年度	23年度	増減
全体	791	100.0	100.0	
農林漁業	5	0.6	0.3	0.3
自営(商店・工務店・工場等)	16	2.0	1.9	0.1
自営(サービス業)	16	2.0	1.7	0.3
会社員・公務員 (事務職・専門職・管理職)	130	16.4	15.8	0.6
会社員・公務員(販売／サービス)	66	8.3	8.4	▲ 0.1
会社員・公務員 (保安・運輸／通信・建設／労務)	37	4.7	4.0	0.7
自由業	6	0.8	0.7	0.1
家事専業	128	16.2	17.8	▲ 1.6
アルバイト・パートタイマー・派遣社員	108	13.7	15.4	▲ 1.7
学生	42	5.3	5.7	▲ 0.4
無職	184	23.3	24.2	▲ 0.9
その他	25	3.2	2.3	0.9
無回答	28	3.5	1.7	1.8

(5) 世帯の状況 (F5)

回答数	件数(人)	構成比(%)		
		24年度	23年度	増減
全体	867	100.0	100.0	
小学生未満の子どもがいる	55	6.3	6.8	▲ 0.5
小学生～中学生の子どもがいる	69	8.0	11.6	▲ 3.6
65歳以上の高齢者がいる	340	39.2	32.4	6.8
単身世帯(一人暮らし)	125	14.4	15.6	▲ 1.2
該当なし	250	28.8	31.8	▲ 3.0
無回答	28	3.2	1.8	1.4

基本計画重点プログラム 市民アンケート

質問・回答用紙

-
- ◇ こちらの用紙には、アンケートの質問と回答欄があります。
 - ◇ 各設問の理由欄について、特にない場合にはご記入いただくことなく結構です。
 - ◇ ご回答いただく際には、別冊の「基本計画重点プログラム市民アンケート参考資料」を参考にしてください。
 - ◇ 回答欄にご記入の上、3つ折りにして同封の返信用封筒(切手不要)に封入し、平成 24 年 5 月 21 日 (月) までにご投函ください。
 - ◇ 本調査結果は、市ホームページなどで公表しますが、「アンケート調査結果報告書」の送付を希望される場合は、返信用封筒の裏面に住所・氏名を記載してください。(封筒はアンケート集計には利用しません)
-

重点プログラム1 『新しい芽を育む』

～子どもを産み育てやすいまちづくり・人間性豊かな子どもの育成～

⇒ 参考資料 3ページ・4ページをご覧ください

問1 横須賀市は、「子どもを産み育てやすいまち」だと思いますか。
現在について、選択肢1-(1)から、以前(4～5年前)との比較において、
選択肢1-(2)から選んで回答欄に記入してください。
また、その理由を理由欄に記入してください。

現在について

回答欄

理由

選択肢1-(1)

- ① 思う ② やや思う ③ どちらともいえない ④ あまり思わない ⑤ 思わない
⑥ わからない

以前との比較
において

回答欄

理由

選択肢1-(2)

- ① よくなっている ② どちらかというよくなっている ③ 変わっていない
④ どちらかというよくなっている ⑤ 悪くなっている ⑥ わからない

問2 横須賀市は、「人間性豊かな子どもの育成」が進められているまちだと思いますか。

現在について、選択肢2-(1)から、以前(4～5年前)との比較において、
選択肢2-(2)から選んで回答欄に記入してください。
また、その理由を理由欄に記入してください。

現在について

回答欄

理由

選択肢2-(1)

- ① 思う ② やや思う ③ どちらともいえない ④ あまり思わない ⑤ 思わない
⑥ わからない

以前との比較
において

回答欄

理由

選択肢2-(2)

- ① よくなっている ② どちらかというよくなっている ③ 変わっていない
④ どちらかというよくなっている ⑤ 悪くなっている ⑥ わからない

重点プログラム1 『新しい芽を育む』について

「重点プログラム1」では、子どもを生き育てやすく、子ども自身が健やかに成長する環境をつくとともに、教育環境を充実させることで、「次代を担う新しい芽が育まれる都市の実現」を目指しています。

- 問3** 横須賀市は、「次代を担う新しい芽が育まれるまち」だと思いますか。
現在について、選択肢3-(1)から、以前(4～5年前)との比較において、
選択肢3-(2)から選んで回答欄に記入してください。
また、その理由を理由欄に記入してください。

現在について

回答欄

理由

選択肢3-(1)

- ① 思う ② やや思う ③ どちらともいえない ④ あまり思わない ⑤ 思わない
⑥ わからない

以前との比較
において

回答欄

理由

選択肢3-(2)

- ① よくなっている ② どちらかというよくなっている ③ 変わっていない
④ どちらかというよくなっている ⑤ 悪くなっている ⑥ わからない

重点プログラム2 『命を守る』

～誰もが活躍できるまちづくり・安全で安心なまちづくり～

⇒ 参考資料 5ページ ～ 7ページをご覧ください

問4 横須賀市は、年齢、性別、障害の有無等にかかわらず、「誰もが活躍できるまち」だと思いますか。

現在について、選択肢4-(1)から、以前(4～5年前)との比較において、
選択肢4-(2)から選んで回答欄に記入してください。

また、その理由を理由欄に記入してください。

現在について

回答欄

理由

選択肢4-(1)

- ① 思う ② やや思う ③ どちらともいえない ④ あまり思わない ⑤ 思わない
⑥ わからない

以前との比較
において

回答欄

理由

選択肢4-(2)

- ① よくなっている ② どちらかというよくなっている ③ 変わっていない
④ どちらかというよくなっている ⑤ 悪くなっている ⑥ わからない

問5 横須賀市は、「安全で安心なまち」だと思いますか。

現在について、選択肢5-(1)から、以前(4～5年前)との比較において、
選択肢5-(2)から選んで回答欄に記入してください。

また、その理由を理由欄に記入してください。

現在について

回答欄

理由

選択肢5-(1)

- ① 思う ② やや思う ③ どちらともいえない ④ あまり思わない ⑤ 思わない
⑥ わからない

以前との比較
において

回答欄

理由

選択肢5-(2)

- ① よくなっている ② どちらかというよくなっている ③ 変わっていない
④ どちらかというよくなっている ⑤ 悪くなっている ⑥ わからない

重点プログラム2 『命を守る』について

「重点プログラム2」では、全ての市民がそれぞれの可能性や能力を発揮しながら、いきいき暮らせる場や機会を充実させるとともに、安全で安心して暮らせる生活環境を整備することで、「生きがいに満ちあふれ命を大切にする都市の実現」を目指しています。

問6 横須賀市は、「生きがいに満ちあふれ命を大切にするまち」だと思いますか。現在について、選択肢6-(1)から、以前(4～5年前)との比較において、選択肢6-(2)から選んで回答欄に記入してください。また、その理由を理由欄に記入してください。

現在について

回答欄

理由

選択肢6-(1)

- ① 思う ② やや思う ③ どちらともいえない ④ あまり思わない ⑤ 思わない
⑥ わからない

以前との比較
において

回答欄

理由

選択肢6-(2)

- ① よくなっている ② どちらかというよくなっている ③ 変わっていない
④ どちらかというよくなっている ⑤ 悪くなっている ⑥ わからない

重点プログラム3 『環境を守る』

～人と自然と共生するまちづくり・地球環境に貢献するまちづくり～

⇒ 参考資料 9ページ ・ 10ページをご覧ください

問7 横須賀市は、「人と自然が共生するまち」だと思いますか。
現在について、選択肢7-(1)から、以前(4～5年前)との比較において、
選択肢7-(2)から選んで回答欄に記入してください。
また、その理由を理由欄に記入してください。

現在について

回答欄

理由

選択肢7-(1)

- ① 思う ② やや思う ③ どちらともいえない ④ あまり思わない ⑤ 思わない
⑥ わからない

以前との比較
において

回答欄

理由

選択肢7-(2)

- ① よくなっている ② どちらかというよくなっている ③ 変わっていない
④ どちらかというよくなっている ⑤ 悪くなっている ⑥ わからない

問8 横須賀市は、「地球環境に貢献するまちづくり」が進められているまちだと思いますか。

現在について、選択肢8-(1)から、以前(4～5年前)との比較において、
選択肢8-(2)から選んで回答欄に記入してください。
また、その理由を理由欄に記入してください。

現在について

回答欄

理由

選択肢8-(1)

- ① 思う ② やや思う ③ どちらともいえない ④ あまり思わない ⑤ 思わない
⑥ わからない

以前との比較
において

回答欄

理由

選択肢8-(2)

- ① よくなっている ② どちらかというよくなっている ③ 変わっていない
④ どちらかというよくなっている ⑤ 悪くなっている ⑥ わからない

重点プログラム3 『環境を守る』について

「重点プログラム3」では、豊かな自然を守り育むとともに、地球規模の環境問題に配慮したまちづくりを推進することで、「環境と調和した潤いのある都市の実現」を目指しています。

- 問9** 横須賀市は、「環境と調和した潤いのあるまち」だと思いますか。
現在について、選択肢9-(1)から、以前(4～5年前)との比較において、
選択肢9-(2)から選んで回答欄に記入してください。
また、その理由を理由欄に記入してください。

現在について	回答欄	<input type="text"/>	理由	<input type="text"/>
--------	-----	----------------------	----	----------------------

選択肢9-(1)

- ① 思う ② やや思う ③ どちらともいえない ④ あまり思わない ⑤ 思わない
⑥ わからない

以前との比較 において	回答欄	<input type="text"/>	理由	<input type="text"/>
----------------	-----	----------------------	----	----------------------

選択肢9-(2)

- ① よくなっている ② どちらかというよくなっている ③ 変わっていない
④ どちらかというよくなっている ⑤ 悪くなっている ⑥ わからない

重点プログラム4 『にぎわいを生む』

～地域経済の活性化と雇用の創出・集客や定住を促す魅力的な都市環境づくり～

⇒ 参考資料 11 ページ ・ 12 ページをご覧ください

問 10 横須賀市は、「地域経済の活性化と雇用の創出」が図られているまちだと思いますか。

現在について、選択肢 10 - (1)から、以前（4～5年前）との比較において、
選択肢 10 - (2)から選んで回答欄に記入してください。

また、その理由を理由欄に記入してください。

現在について

回答欄

理由

選択肢 10 - (1)

- ① 思う ② やや思う ③ どちらともいえない ④ あまり思わない ⑤ 思わない
⑥ わからない

以前との比較
において

回答欄

理由

選択肢 10 - (2)

- ① よくなっている ② どちらかというよくなっている ③ 変わっていない
④ どちらかというよくなっている ⑤ 悪くなっている ⑥ わからない

問 11 横須賀市は、「集客や定住を促す魅力的な都市環境づくり」が進められているまちだと思いますか。

現在について、選択肢 11 - (1)から、以前（4～5年前）との比較において、
選択肢 11 - (2)から選んで回答欄に記入してください。

また、その理由を理由欄に記入してください。

現在について

回答欄

理由

選択肢 11 - (1)

- ① 思う ② やや思う ③ どちらともいえない ④ あまり思わない ⑤ 思わない
⑥ わからない

以前との比較
において

回答欄

理由

選択肢 11 - (2)

- ① よくなっている ② どちらかというよくなっている ③ 変わっていない
④ どちらかというよくなっている ⑤ 悪くなっている ⑥ わからない

重点プログラム4 『にぎわいを生む』について

「重点プログラム4」では、持続可能な産業構造や利便性の高い都市構造の構築を図るとともに、地域資源を生かした新たなまちの魅力を創出し、「にぎわいと活力に満ちた都市の実現」を目指しています。

問 12 横須賀市は「にぎわいと活力に満ちたまち」だと思いますか。
現在について、選択肢 12 - (1)から、以前（4～5年前）との比較において、
選択肢 12 - (2)から選んで回答欄に記入してください。
また、その理由を理由欄に記入してください。

現在について

回答欄

理由

選択肢 12 - (1)

- ① 思う ② やや思う ③ どちらともいえない ④ あまり思わない ⑤ 思わない
⑥ わからない

以前との
において

回答欄

理由

選択肢 12 - (2)

- ① よくなっている ② どちらかというよくなっている ③ 変わっていない
④ どちらかというよくなっている ⑤ 悪くなっている ⑥ わからない

重点プログラム5 『地域力を育む』

～地域と住民の主体性が発揮させる枠組みづくり・地域を支えるコミュニティ機能の強化～

⇒ 参考資料 13 ページ ・ 14 ページをご覧ください

問 13 横須賀市は、「地域と住民の主体性が発揮される枠組みづくり」が進められているまちだと思いますか。
現在について、選択肢 13 - (1)から、以前（4～5年前）との比較において、
選択肢 13 - (2)から選んで回答欄に記入してください。
また、その理由を理由欄に記入してください。

現在について	回答欄	<input type="text"/>	理由	<input type="text"/>
--------	-----	----------------------	----	----------------------

選択肢 13 - (1)

- ① 思う ② やや思う ③ どちらともいえない ④ あまり思わない ⑤ 思わない
⑥ わからない

以前との比較 において	回答欄	<input type="text"/>	理由	<input type="text"/>
----------------	-----	----------------------	----	----------------------

選択肢 13 - (2)

- ① よくなっている ② どちらかというよくなっている ③ 変わっていない
④ どちらかというよくなっている ⑤ 悪くなっている ⑥ わからない

問 14 横須賀市は、「地域を支えるコミュニティ*機能の強化」が図られているまちだと思いますか。
現在について、選択肢 14 - (1)から、以前（4～5年前）との比較において、
選択肢 14 - (2)から選んで回答欄に記入してください。
また、その理由を理由欄に記入してください。

*コミュニティ：同じ地域に暮らし、協力して地域の課題に取り組む人々の集まり。

現在について	回答欄	<input type="text"/>	理由	<input type="text"/>
--------	-----	----------------------	----	----------------------

選択肢 14 - (1)

- ① 思う ② やや思う ③ どちらともいえない ④ あまり思わない ⑤ 思わない
⑥ わからない

以前との比較 において	回答欄	<input type="text"/>	理由	<input type="text"/>
----------------	-----	----------------------	----	----------------------

選択肢 14 - (2)

- ① よくなっている ② どちらかというよくなっている ③ 変わっていない
④ どちらかというよくなっている ⑤ 悪くなっている ⑥ わからない

重点プログラム5 『地域力を育む』について

「重点プログラム5」では、それぞれの地域が、自らの課題に対応するとともに、個性や特色を生かしながら住民が主体になってまちの在り方を決める、「住民自治に根差した都市の実現」を目指しています。

- 問 15** 横須賀市は、「住民自治に根差したまち」だと思いますか。
現在について、選択肢 15 - (1)から、以前（4～5年前）との比較において、
選択肢 15 - (2)から選んで回答欄に記入してください。
また、その理由を理由欄に記入してください。

現在について

回答欄

理由

選択肢 15 - (1)

- ① 思う ② やや思う ③ どちらともいえない ④ あまり思わない ⑤ 思わない
⑥ わからない

以前との比較
において

回答欄

理由

選択肢 15 - (2)

- ① よくなっている ② どちらかというよくなっている ③ 変わっていない
④ どちらかというよくなっている ⑤ 悪くなっている ⑥ わからない

『持続可能な発展を遂げる都市力』について

今日、多くの自治体がそうであるように、横須賀市も人口減少や少子高齢化などの都市の持続的な発展を妨げる課題に直面しています。

これまでの設問では、この厳しい状況下で着実に成長できるための土台づくり、また、全政策・施策の先導役として基本計画に位置付けた「5つの重点プログラム」に関して、皆さまの実感をお伺いしてきました。

問 16 重点プログラムに関する設問の最後にお伺いします。

横須賀市は、人口減少や少子高齢化などの厳しい状況下においても、着実に成長できるための「都市力（都市の魅力）」を備えているまちだと思いますか。

現在について、選択肢 16 - (1)から、以前（4～5年前）との比較において、選択肢 16 - (2)から選んで回答欄に記入してください。

また、その理由を理由欄に記入してください。

現在について

回答欄

理由

選択肢 16 - (1)

- ① 思う ② やや思う ③ どちらともいえない ④ あまり思わない ⑤ 思わない
⑥ わからない

以前との比較
において

回答欄

理由

選択肢 16 - (2)

- ① よくなっている ② どちらかというよくなっている ③ 変わっていない
④ どちらかというよくなっている ⑤ 悪くなっている ⑥ わからない

問 17 人口減少や少子高齢化などの厳しい状況下においても、横須賀市が着実に成長できるために、今後、市はどのような政策に優先して取り組むべきだと思いますか。次の選択肢から優先すべきと思う順に3つまで選んでその番号を回答欄に記入してください。

なお、⑪その他を選んだ場合は、その内容を記入してください。

- ① 子どもを産み育てやすいまちづくり
- ② 人間性豊かな子どもの育成
- ③ 誰もが活躍できるまちづくり
- ④ 安全で安心なまちづくり
- ⑤ 人と自然が共生するまちづくり
- ⑥ 地球環境に貢献するまちづくり
- ⑦ 地域経済の活性化と雇用の創出
- ⑧ 集客や定住を促す魅力的な都市環境づくり
- ⑨ 地域と住民の主体性が発揮される枠組みづくり
- ⑩ 地域を支えるコミュニティー機能の強化
- ⑪ その他（具体的にお書きください）

回答欄

1 番 目	2 番 目	3 番 目	「⑪その他」を選んだ方は、その内容をお書き下さい
-------	-------	-------	--------------------------

『横須賀市の魅力やイメージ』について

『横須賀市の魅力やイメージ』についてお伺いします。

問 18 あなたにとって、横須賀市の魅力的なところとは、どのようなところだと思いますか。
次の選択肢から魅力的だと思う順に3つまで選んで回答欄に記入してください。
なお、⑮その他を選んだ場合は、その内容を記入してください。

- ① 教育や文化の水準が高い
- ② 子育てに対する支援が充実している
- ③ 高齢者、障害者などへの福祉が充実している
- ④ 道路、公園などの都市基盤が整備され、生活するのに便利である
- ⑤ 身近でスポーツ・レクリエーションを楽しむ機会に恵まれている
- ⑥ 犯罪が少ない・防災面が充実しているなど安心して暮らせる
- ⑦ 大都市に近く、通勤・通学に便利である
- ⑧ 仕事や収入の機会に恵まれている
- ⑨ 海や緑などの自然環境に恵まれている
- ⑩ 魚介類・農産物などが新鮮で、豊かな食生活ができる
- ⑪ 観光資源や歴史的資産に恵まれている
- ⑫ 国際色豊かである
- ⑬ 市民のマナーが良く、快適な生活ができる
- ⑭ 地域での人間関係がとてもよい
- ⑮ その他（具体的にお書きください）

回答欄

1 番目	2 番目	3 番目	「⑮その他」を選んだ方は、その内容をお書き下さい
------	------	------	--------------------------

問 19 あなたは横須賀市に自分のまちとしての愛着を感じていますか。次の選択肢からあてはまるものを1つだけ選んで回答欄に記入してください。

- ① 感じている
- ② やや感じている
- ③ どちらともいえない
- ④ あまり感じていない
- ⑤ 感じていない
- ⑥ わからない

回答欄

--

問 20 あなたが考える横須賀市のイメージについて、「現在の都市イメージ（A）」および「望ましい都市イメージ（B）」を、次の選択肢からそれぞれ3つまで選んで回答欄に記入してください。
 なお、⑱その他を選んだ場合は、その内容を記入してください。

- ① 外国人との交流が盛んな「国際交流のまち」
- ② さまざまな分野の研究開発機関が集積する「ICT（情報通信技術）・先端技術のまち」
- ③ 芸術・文化活動が盛んな「文化芸術のまち」
- ④ 米軍基地・自衛隊がある「基地のまち」
- ⑤ 防犯・防災体制が整った「安全・安心なまち」
- ⑥ 市外から多くの人を訪れる「観光・レジャーのまち」
- ⑦ 豊かな自然が残されている「自然環境に恵まれたまち」
- ⑧ 首都圏への通勤者が多い「住宅中心のまち」
- ⑨ ごみのリサイクルや地球温暖化対策など「環境にやさしいまち」
- ⑩ 道路、公園など都市基盤の整った「生活に便利で快適なまち」
- ⑪ 健康づくりのための施設や医療機関が充実した「健康増進・医療福祉のまち」
- ⑫ 高齢者・障害者をはじめとした「誰もが安心して暮らせるまち」
- ⑬ 保育所など子育て環境が充実した「子育てのまち」
- ⑭ 学校教育が充実した「教育のまち」
- ⑮ 農業・漁業が盛んな「農・漁業のまち」
- ⑯ 自動車産業など「工業が盛んなまち」
- ⑰ 商業施設が充実した「にぎわいのあるまち」
- ⑱ その他（ご自由にお書きください）

回答欄

A 欄 (現在の都市イメージ)	1 番目	2 番目	3 番目	「⑱その他」を選んだ方は、その内容をお書き下さい
B 欄 (望ましい都市イメージ)	1 番目	2 番目	3 番目	「⑱その他」を選んだ方は、その内容をお書き下さい

あなた自身のことについてお伺いします

※記入もれがあると、いただいた回答が無効になってしまうことがあります。
全員の方がお答えください。

次の各項目において、あなたにあてはまるものを選んでください。

F 1 <性別>

- ① 男性 ② 女性

回答欄

F 2 <年齢>

- ① 15～19歳 ② 20～24歳 ③ 25～29歳 ④ 30～34歳
⑤ 35～39歳 ⑥ 40～44歳 ⑦ 45～49歳 ⑧ 50～54歳
⑨ 55～59歳 ⑩ 60～64歳 ⑪ 65～69歳 ⑫ 70歳以上

回答欄

F 3 <お住まいの地域> (次ページに地域別一覧表があります。ご参照ください。)

- ① 本庁地域 ② 追浜地域 ③ 田浦地域 ④ 逸見地域
⑤ 衣笠地域 ⑥ 大津地域 ⑦ 浦賀地域 ⑧ 久里浜地域
⑨ 北下浦地域 ⑩ 西地域

回答欄

F 4 <職業>

- ① 農林漁業 ② 自営(商店・工務店・工場等)
③ 自営(サービス業) ④ 会社員・公務員(事務職・専門職・管理職)
⑤ 会社員・公務員(販売/サービス) ⑥ 会社員・公務員(保安・運輸/通信・建設/労務)
⑦ 自由業 ⑧ 家事専業
⑨ アルバイト・パートタイマー・派遣社員 ⑩ 学生
⑪ 無職 ⑫ その他

回答欄

F 5 <世帯の状況> (複数回答可)

- ① 小学生未満の子どもがいる
② 小学生～中学生の子どもがいる
③ 65歳以上の高齢者がいる
④ 単身世帯(一人暮らし)
⑤ ①～④に該当なし

回答欄

ご協力ありがとうございました。

地域別一覧表

(町名)	(地域別)
稲岡町、不入斗町、上町、小川町、大滝町、楠ヶ浦町、坂本町、佐野町、猿島、汐入町、汐見台、新港町、田戸台、鶴が丘、泊町、日の出町、深田台、富士見町、平成町、平和台、望洋台、本町、緑が丘、三春町、安浦町、米が浜通、若松町	➡ ①本庁地域
浦郷町、追浜町、追浜東町、追浜本町、追浜南町、湘南鷹取、鷹取、夏島町、浜見台	➡ ②追浜地域
田浦町、田浦泉町、田浦大作町、田浦港町、長浦町、箱崎町、船越町、港が丘	➡ ③田浦地域
安針台、西逸見町、東逸見町、逸見が丘、山中町、吉倉町	➡ ④逸見地域
阿部倉、池上、大矢部、金谷、衣笠町、衣笠栄町、公郷町、小矢部、平作、森崎	➡ ⑤衣笠地域
池田町、大津町、桜が丘、根岸町、走水、馬堀町、馬堀海岸	➡ ⑥大津地域
浦賀、浦賀丘、浦上台、小原台、鴨居、光風台、西浦賀、東浦賀町、二葉、南浦賀、吉井	➡ ⑦浦賀地域
岩戸、内川、内川新田、久比里、久村、久里浜、久里浜台、佐原、神明町、長瀬、ハイランド、舟倉、若宮台	➡ ⑧久里浜地域
栗田、グリーンハイツ、津久井、長沢、野比、光の丘	➡ ⑨北下浦地域
秋谷、芦名、太田和、荻野、子安、佐島、佐島の丘、湘南国際村、須軽谷、武、長井、長坂、林、御幸浜、山科台	➡ ⑩西地域

基本計画重点プログラム市民アンケート報告書

発行年月：平成24年（2012年）9月

編集・発行：横須賀市政策推進部政策推進課（都市政策研究所）

〒238-8550 横須賀市小川町11番地

電話：046-822-8258 FAX：046-822-9285